1章　総合問題1

問題

【1】

解答

（1） **c**　（2） **d**　（3） **e**　（4） **b**　（5） **a**　（6） **b**

解説

（1） 空所を含む節は主節をなす。その主語は the share of GNP と考えられるが，その直前に助動詞 does があり，また本動詞が見当たらないことから，倒置文だと判断する。そして，国民所得が上がるにつれて GNP に対する税の割合も上がることが表から読み取れるので，As ～ , so …（～と同様に…；～ようにまた…）の構文にすればよい。

（2） 表によると，輸出入品に対する関税（表の Taxes on international trade）と国産品にかかる税金（表の Domestic commodity taxes）の全税収に占める割合は，低所得国では，それぞれ 25.2％と 32.9％だから，その合計は 58.1％となる。よって，正解は **d** の「２分の１強」である。

（3） 空所に入るのは，高所得国において所得税と社会保障税の全税収に占める割合である。高所得国では，それぞれ 42.5％と 27.9％だから，その合計は 70.4％となる。よって正解は **e** の「約３分の２」である。

（4） 財政難の国々が個人所得税と法人所得税の税率を引き上げた結果はどうなのかが問われている。続く１文に，「多くの国では個人所得税の納税者が大変少ない」とあるので，所得税の税率を上げても期待した結果は得られていないことになる。よって，空所には「（人を）失望させる」の意味の **b**　disappointing を入れるのが適切。**a**「失望した」，**c**「満足な」，**d**「満足した」

（5） 本文ℓ. 7 ～ 9 には，所得税と社会保険税の全税収に占める割合は，低所得国では５分の１弱とある。表に書かれている低所得国の社会保障税の割合 0.1（％）と足して「５分の１（20％）弱」になる数字は **a** の 18.8（％）である。

（6） 「高所得国において税収の依存度が最も低いタイプの税を次の中から１つ選び，記号で答えよ。」表を見ると明らかなように，高所得国の全税収に占める割合が最も少ないのは「国際貿易にかかる税」の 1.1（％）だから，正解は **b** の「輸出入関税」である。

全訳

国民所得が上がるにつれて，国民総生産に対する税収として集められる割合も上がる。税収構成も開発途上国と先進国の間で著しく異なることが，下の表からわかる。輸入品，一部の一次産品の輸出品，国産品などの物品にかけられる税金は，国民所得の低い国では２分の１強を占めるが，国民所得の高い国では税収の５分の１に満たない。平均すると，開発途上国は税収全体のほぼ３分の１を国産品への物品税に依存している。特に輸出入関税は国民所得が上がるにつれて，減少してくる。その一方，世帯と法人に課される所得税と社会保障税は，低所得国では税収全体の５分の１に満たない――低所得国の多くはまだ社会保障制度を

導入していないのだ――が，高所得国では全税収の約３分の２を占めている。

外国貿易に対する税金への依存度は近年，特に中所得国で小さくなってきたが，開発途上国の税収構造は歴史的に輸入関税に大きく依存してきた。低所得国の多くは，いまだに輸入関税に著しく依存している。

財政難で頭の痛い財務大臣たちは，個人所得税と法人所得税の落ち込みに気づくと，これらの税金の税率アップという手段によく訴える。その結果はたいてい，特に個人所得税に関しては当てがはずれる。中所得国でさえ，個人所得税を納めているのは，国民のごく一部である。ほとんどの開発途上国では，1970 年代には，たった２パーセントの国民しか納めていなかった。対照的に，米国では 1980 年には人口の約半分が所得税を納めている。そんな具合だから，開発途上国で歳入を個人所得税に大きく依存できるところはほとんどない。米国では個人所得税が連邦政府の全税収の３分の２強を占めているのに，開発途上国で個人所得税が中央政府の全税収の 10 パーセントも占めているところはまれである。

注

ℓ. 1 ◇ revenue「（国・地方自治体の）歳入」
ℓ. 3 ◇ commodity「産物；商品」
ℓ. 4 ◇ domestically「国内で」
ℓ. 5 ◇ on average「平均で」
ℓ. 7 ◇ in contrast「対照的に；その一方」
ℓ. 8 ◇ make up ～「～を構成する」
ℓ. 10 ◇ economy「（経済単位としての）国」
ℓ. 11 ◇ reliance「依存」
◇ diminish「減少する」
ℓ. 15 ◇ minister of finance「財務大臣」
◇ slack「不振」
◇ corporate「法人の」
ℓ. 16 ◇ resort to ～「～の手段に訴える」
ℓ. 18 ◇ cover ～「（範囲が）～に及ぶ」
ℓ. 22 ◇ federal「連邦政府の」

【2】

解答

（1）「**全訳**」の下線部ⓐ参照。　（2）「**全訳**」の下線部ⓑ参照。
（3）「**全訳**」の下線部ⓒ参照。　（4）「**全訳**」の下線部ⓓ参照。
（5）「**全訳**」の下線部ⓔ参照。　（6）「**全訳**」の下線部ⓕ参照。
（7）「**全訳**」の下線部ⓖ参照。
（8）言語能力は，生物学的に遺伝した機能ではなくて，文化的な機能である。（33 字）
（9）慣用的に「イタイ！」という発声で表される，思わず出る苦痛を示す叫び声は，真の言語記号とは言えない。それは，この叫び声は，単なる感情エネルギーが流出した本能的なもので，当の感情を示していないので，記号的ではないからである。

解説

本問は，言語学者 Edward Sapir（エドワード＝サピア，1884 ～ 1939）の Language『言語』の冒頭の部分で，長く入試頻出長文の１つである。

サピアに代表されるアメリカ記述言語学は，「歩くことは人類に固有の生物学的機能であるが，話すことというのは，非本能的な，獲得された文化的機能である。つまり，言語的知識は，言語の実践的活動から導き出される。」と唱え，ある時まで，これが主流の考えであった。

そのある時とは，1959 年，言語学者・社会変革者 Noam Chomsky（1928 ～）が，ある書評の中で，「子供は白紙の状態で生まれてくるのではなくて，知識の獲得法を組み立てられるよう，遺伝的に準備されている。」と，述べたその時である。この時以来，「言語能力は文化的な機能ではなく，生物学的な機能で，人間には，生まれながらにして，文法体系が組み込まれている。」という考えが主流になっている。この Chomsky が唱えた文法体系とは，universal grammar（普遍文法）と言われ，いわゆる文法とは区別されている。

（１）
- ○ speech … ここでは，the power of speaking の意味で用いられているので，「言語能力」，「ことば」とする。
- ○ feature「特徴」
- ○ rarely「めったに…ない」
- ○ pause to …「…するために立ち止まる」＝ stop to …
- ○ define ～「～を定義する」＞ definition
- ○ It ＝ speech
- ○ as ～ as …「…と同じくらい～」
- ○ less so ＝ less natural

（２）
- ○ the latter function：前文末にある the process of learning to walk を受けているので「歩行の〔歩行という〕機能」である。
- ○ in the case of ～「～の場合において」
- ○ in other words「言い換えれば」
- ○ the traditional body of social usage「伝統的な社会的慣習の総体」
- ○ social usage「社会的慣習」
- ○ bring ～ into play「～を活用〔利用〕する」

（３）
- ○ the art ＝ the art of walking
- ○ be predestined to …「…することを運命づけられている」
- ○ predestine ＝ settle or destine beforehand
- ○ not because A but because B「A だからではなく B だから」
- ○ his elders「自分より年上の人々」
- ○ assist A to …「A が…するのを手助けする」
- ○ organism「（人の）身体」*cf.* toxic to the human *organism*（人間の身体に有害な）
- ○ be prepared（to …）「（…する）用意ができている」

（４）ℓ. 14 ～ 15 に To put it concisely, walking is an inherent, biological function of man.（簡潔に言えば，歩行は，人間に固有の生物学的な機能なのである。）とあり，続けて

ℓ. 16 に Not so language. とあるので，Language is not an inherent, biological function of man.（ことばは，人間に固有の生物学的機能ではない。）とわかる。
「not は，省略されることはない」というのは英語の大原則の１つ。

（５） ○ that is due entirely to ～「それはひとえに～によるものである」
　○ that ＝ in a certain sense the individual is predestined to talk
　○ be due to ～「～のためである」
　○ entirely ＝ completely
○ the circumstance that …「…という事情」
　that は the circumstance と同格の名詞節を導く接続詞。
○ not merely〔only〕A, but（also）B「A だけではなく B も」
○ lap「（慈母などの膝より）安心な境遇；育てる環境；保護」
○ that は関係代名詞。
○ reasonably certain「（絶対とは言わぬまでも）かなり確かな」
　○ reasonably ＝ in a reasonable manner
　　＜ reasonable ＝ within the limits of reason
　○ be certain to …「間違いなく…する」
○ lead A to B「A を B に導く」

（６） ○ again《文頭で；or〔and；but〕again で》「その上；さらに；また；また一言で」
○ remove A from B「A を B から移す〔離す〕」
○命令法＋ and …が‘仮定・条件’の意味で用いられることがある。本問がこの例。
　Ex. Hurry up, and you'll be in time. ＝ If you hurry up, you'll be in time.
　　Work hard, or you will fail. ＝ If you do not work hard, you will fail.
　ただしここでは，次の文との関係から Even if ～の意味にとる。
○ the social environment into which he has come「彼が生まれおちた社会環境」
○ transplant [trænsplǽnt] ～「～を移住〔移動〕させる」＝ remove from one place to another
○ utterly [ʌ́tərli]「まったく」＝ entirely；completely
○ alien [éɪliən]「異質な」
　cf. customs *alien* to us（我々になじみのない慣習）
○ an utterly alien one ＝ an utterly alien social environment
　utterly alien が social environment 全体を修飾。

（７） ○ It（＝ **Speech**）varies **<u>as</u>** all creative effort varies ―
　　（～のように）

(It varies)

$\boxed{\text{not}}$ as consciously, perhaps,
(同等比較)
$\boxed{\text{but}}$ (none the less)
as truly

as do

the religions
,
the beliefs
,
the customs
,
$\boxed{\text{and}}$
the arts

of different peoples

○ none the less = nevertheless ; in spite of that

○ do the religions, the beliefs, the customs, and the arts of different peoples
≒ the religions, the beliefs, the customs, and the arts of different peoples do

○ do = vary

○ different peoples「異なる民族」

○ peoples = all the persons forming a race, tribe or nation

（8） 前述の（4）から，「ことばは，人間に固有の生物学的機能ではない。」とわかる。
また，ℓ. 31 ～ 33 Walking is an organic, an instinctive, function（not, of course, itself an instinct）; speech is a non-instinctive, acquired, "cultural" function.（歩行とは，器官的，本能的な機能である（もちろん，歩行それ自体が本能というわけではない），一方，ことばは非本能的で，後天的な，いわゆる「文化的」な機能なのだ。）から，「文化的」機能であると主張していることがわかる。
以上の点をまとめればよい。

（9） 「the involuntary cry of pain which is conventionally represented by "Oh!"（慣用的に「イタイ！」という発声で表される，思わず出る苦痛を表す叫び声）…Ⓐは true speech symbol（真の言語記号）とみなせるか否か」という問題である。
本文中で，Ⓐと同じ類の具体例はℓ. 37 の a sudden pain ; uncontrolled joy …Ⓑである。
このⒷを受けているのがℓ. 39 ～ 40 の such involuntary expression of feeling …Ⓒで，このⒸをℓ. 40 で the former kind of utterance と言い換えている。
このⒸを含む 1 文と続く 1 文を見ると，
The former kind of utterance is indeed instinctive, but it is non-symbolic ; in other words, *the sound of pain or the sound of joy* does not, as such, indicate the emotion, it does not stand aloof, as it were, and announce that such and such an emotion is being felt. What it does is to serve as a more or less automatic overflow of the emotional energy ; in a sense, it is part and parcel of the emotion itself.
「前者の類の発話は，実際本能的ではあるが，記号的ではない。換言すれば，苦悩や歓喜の叫び声は，それ自体では，その声の示す感情を表しておらず，いわば，その状

況から独立して，各々しかじかの感情を感じているところだということを，知らせてはいないのだ。そういった叫び声は，程度の差こそあれ，感情エネルギーの自然的な流出として機能している。ある意味では，それが，感情それ自身の本質的な役割なのである。」…Ⓓ

次，ℓ. 45 ～ 46 で，

Moreover, *such instinctive cries* hardly constitute communication in any strict sense.

「さらに，そういった本能的な叫び声は，いかなる意味においても厳密な意味での，意思伝達には，なり得ない。」…Ⓔ

と，さらなる記述がある。

以上より，結論は「言語記号とはみなすことができない」だが，「論じよ」とあるので，その理由としてⒹをまとめればよい。

また，解答欄のスペースにもよるが，設問の the involuntary cry of pain which is conventionally represented by “Oh!” と true speech symbol の訳を解答に加えておくのが望ましい。

全訳

ⓐことばは，あまりにも日常的なものなので，我々が，それをあらためて定義するということはめったにない。ことばは，人間にとって歩くことと同じくらい自然なものであって，ただ，呼吸ほどは（**自然でない**）ように思われるだけである。しかし，少し考えてみるだけで，このようにことばを自然なものと考えることが幻想にすぎないということを我々は確信することができる。もっとはっきり言えば，ことばを習得する過程は歩行を習得する過程とはまったく異なるものであるのだ。ⓑ（**歩行の機能**）においては，文化，言い換えれば，伝統的な社会的慣習の総体が，そこで本格的に関与してくることはない。生物学的遺伝と呼ばれる複雑な一組の因子によって，結果として歩行につながるのに必要な筋肉と神経のあらゆる調節装置というものを，子供はそれぞれ生まれながらに備えている。もっとはっきり言うと，これらの筋肉と筋肉に伴う神経系統の構造そのものが，もともと歩行や歩行に近い活動の際になされる動きに適合していると言ってもいいだろう。まったくにして真の意味で，ⓒ正常な人間は歩く宿命を負って生まれてくるが，それは（**歩行技術**）を身につけるよう年上の者が助けてくれるからではなくて，身体が，生まれた時から，いや受胎の瞬間から，歩行を生み出す神経エネルギーの消費と筋肉の適応を，すべて引き受ける用意ができているからである。簡潔に言えば，歩行は，人間に固有の生物学的な機能なのである。

ⓓことばは人間に固有の生物学的な機能ではない。ある意味において個々の人間は生まれつき話すことを運命づけられているというのはもちろん真実ではあるが，ⓔ（**ある意味において個々の人間が生まれつき話すことを運命づけられていること**）は，ひとえに人間はただ単に自然の中に生まれるのではなく，人間を確実に，あるいは絶対と言わぬまでもかなり確実に，伝統へと導いていく社会の懐（ふところ）の中に生まれるという事情によるものである。もし社会が消滅しても，人間が生存し続けられるとすれば，人間が歩くことができるようになると信じるべき理由は十分にある。しかし，同じような状況下では，ことばを話すこと，すなわち，ある特定の社会の伝統的な方法に従って，思想を伝達することは，絶対に習得しないだ

ろうということも，まったく同様に確かなことである。ⓕあるいはまた，生まれたばかりの赤ん坊をその生まれおちた社会環境から連れ去り，まったく異質の（**社会環境**）へ移してみても，赤ん坊は，新しい環境でも，もとの環境で発達させたであろうと思われるのとまったく同じように，歩く技術を発達させるだろう。しかしその赤ん坊のことばは，きっと，生まれた環境のことばとは完全に違ったものになるだろう。歩行は，それゆえ，一般的な人間活動であって，個人から個人へと伝えられる時の変異はごく限られた範囲でしかない。その変異は無意識的であり，無目的である。ことばは社会集団間で受け継いでゆく時に，無限に変異する人間の活動である。なぜならことばは，社会集団の純然たる歴史的遺産，つまり，長期間にわたり持続した社会的慣習の所産だからである。ⓖあらゆる創造的努力が変異するのと同様に，（**ことば**）は変異するのだ。異なる民族の，宗教，信仰，慣習，芸術が変異するほど意識的ではないが，ひょっとすると，それに劣らず確かに変異するのである。歩行とは，器官的，本能的な機能である（もちろん，歩行それ自体が本能というわけではない），一方，ことばは非本能的で，後天的な，いわゆる「文化的な」機能なのだ。

ことばは単なる慣用的な音声記号の体系にすぎない，という認識をしばしば妨げる傾向があり，また，ことばが実際には持っていない本能的な基盤を，ことばが持っているということを，一般の人々の頭の中に植え付けようとしてきた，１つの事実がある。これは，感情――例えば，突然の痛みとか，抑えることのできない喜び――にかられて，感情そのものを表すものと聞き手に解釈されてしまう声を，我々が思わず出してしまうという，よく知られた見解である。しかし，そういった思わず感情を発することと，ことばという，通常の思想の伝達の間には，大変な違いがある。前者の類の発話は，実際本能的ではあるが，記号的ではない。換言すれば，苦悩や歓喜の叫び声は，それ自体では，その声の示す感情を表しておらず，いわば，その状況から独立して，各々しかじかの感情を感じているところだということを，知らせてはいないのだ。そういった叫び声は，程度の差こそあれ，感情エネルギーの自然的な流出として機能している。ある意味では，それが，感情それ自身の本質的な役割なのである。さらに，そういった本能的な叫び声は，いかなる意味においても厳密な意味での，意思伝達には，なり得ない。誰かに向けて発せられているわけではないし，仮に，聞かれたとしても，犬の吠える声，近づいてくる足音，風のそよぐ音が聞こえるように，ただ単に耳に入っただけである。それらが聞き手にある観念を伝えるとすれば，それは，我々の周囲のすべての音，さらには我々の周囲のいかなる現象でさえ感覚の優れている人間には，観念を伝えると言われうる，極めて一般的な意味においてのみである。

注

ℓ.4　◇ in sober fact「実際は」
　　○ sober「（真実・真相が）誇張のない；ありのままの」
　　○ in fact「①《前言を強調して》いやむしろ；もっとはっきり言えば，②《前言を要約して》つまり，③《通例否定文の後で前言を強調して》いや実際は」
　　○ in sober fact は in fact の強調形。
ℓ.8　◇ the very ～「まさにその～」（名詞の強調）
ℓ.9　◇ conformation「組織；構造」= form or structure
　　◇ appropriate「適切な」

◇ nervous「神経の」< nerve

ℓ. 10 ◇ primarily「第１に；本来」

◇ adapt A to B「A を B に適合させる」

◇ made in walking and in similar activities は the movements を修飾する。

○ in …ing「…する際に」

ℓ. 13 ◇ take on ～「～（＝仕事・責任など）を引き受ける」

◇ expenditure「消費」< expend ～

ℓ. 14 ◇ adaptation「適応」< adapt ～

◇ that は関係代名詞。

先行詞は all those expenditures ～ adaptations。

◇ result in ～「結果として～となる」

◇ inherent「本来備わっている」

ℓ. 16 ◇ It = that ～

ℓ. 18 ◇ Eliminate society and …

○（６）と同様，命令法＋ and …が‘仮定・条件’の意味で用いられている。

ℓ. 20 ◇ it is just as certain that he will never learn to talk = it is just as certain that he will never learn to talk *as it is* ~~*certain*~~ *that he will learn to walk*

※２つ目の as 以下の certain は強制消去。

◇ that is, to communicate ideas according to the traditional system of a particular society「すなわち，ある特定の社会の伝統的な体系に従って，他人に考えを伝えること」

○ that is「すなわち；つまり」直前の to talk を言い換えている。

○ according to ～「～に従って」

ℓ. 24 ◇ be at variance with ～「～と矛盾している」= disagreeing with ～；opposing to ～

ℓ. 25 ◇ that は a general human activity を先行詞とする関係代名詞。

ℓ. 26 ◇ within circumscribed limits「制限された限度内で」

○ circumscribe ～ = set limits to ～

◇ as we pass from individual to individual「個人から個人へと伝えられる時に」

◇ variability「変異性」< variable = often changing or likely to change；not consistent

ℓ. 27 ◇ involuntary「無意識な」⇔ voluntary「自発的な」

◇ purposeless「目的のない」

◇ without assignable limit「定められた限度なしの」

○ assignable「指定されうる」< assign ～ = name or fix ～

ℓ. 34 ◇ There is one fact | <u>that</u> …
| ,
| <u>that</u> …

○ that は２つとも関係代名詞。２つの that 節は同格関係。

ℓ. 35 ◇ tempt A into B「A を B へ引き込む」

ℓ. 36 ◇ attributing to it an instinctive basis that it does not really possess

○ attribute A to B「A（性質）をBが持っていると考える」

※本文は attribute to B A と to B が前にシフトした形。

○ it ＝ language

○ that は関係代名詞。

ℓ. 37 ◇observation「見解」＜ observe ～「～を述べる」

◇that

under the stress of emotion
↑(say)
of a sudden pain
or
of uncontrolled joy

we do involuntarily give utterance to sounds that the hearer interprets as indicative of the emotion itself

○ that は‘同格’の名詞節を導く接続詞。

○接〔M〕S ＋ V の形。

○ say「例えば」の意の副詞。

cf. any bird, *say* a sparrow（どんな鳥でも，例えばスズメなど）

a few of them, *say* a dozen or so

（それを少し，そうですね，１ダースかそこいら）

ℓ. 38 ◇involuntarily「思わず」

＜ involuntary ＝ done without exercise of the will

◇give utterance to ～ ＝ explain ～ in words；utter；speak

◇interpret A as B「A を B と解釈する」

◇indicative of the emotion itself

＜ indicative of ～「～を示す」

Ex. Her expression *was indicative of* her anger.

（≒ Her expression *indicated* that she was angry.）

（彼女の表情には怒りが表れていた。）

ℓ. 39 ◇there is all the difference in the world between A and B「A と B はまったく異なっている」

○ all the difference ＝ a big difference

○ all（性質・程度を表す抽象名詞に前置して）「あらん限りの；最大の」

ℓ. 41 ◇it ＝ the former kind of utterance

ℓ. 42 ◇as such ＝ in itself「それ自体では」

◇it ＝ the sound of pain or the sound of joy

◇it does not〔stand aloof, as it were, *and*（＝ and then）announce that such and

such an emotion is being felt〕

○ not の射程に注意。

○ stand aloof = do not become involved（in ～）

○ and = and then

○ such and such「これこれの」

ℓ. 44 ◇ serve as ～「～として働く」

◇ as a more or less automatic overflow

○ more or less

①「多かれ少なかれ」= to some extent

②「だいたいのところ」

○ overflow「あふれること；流出」

ℓ. 45 ◇ Moreover, such instinctive cries hardly constitute communication

○ hardly「とても～ない；どうみても～しない」= not at all

※この hardly は，not at all と言いたいところを控え目に言ったもので抑言法（underestimate）と呼ばれる。

Ex. The report is *hardly* surprising.（その報告書はまったく驚くにあたらない。）

That's *hardly* the way to talk to a friend.(友達にそんな言い方はないだろう。)

○ constitute [kɑ́:nstət(j)ù:t]「～を構成する；事実上～と同然である」

Ex. His action *constitutes* a threat.（彼の行為は脅迫に等しい。）

ℓ. 46 ◇ in any strict sense「いかなる厳密な意味でも」

◇ They = such instinctive cries

◇ address A to B「A を B に向けて言う」

ℓ. 47 ◇ overhear ～「～を偶然に聞く」

◇ if（they are）heard at all

○ at all「少しでも」（条件）

Ex. Do it well if you do it *at all.*（どうせやるなら立派にやりなさい。）

◇ as「～のように」

ℓ. 48 ◇ rustling = the sound made by anything which rustles

○ rustle [rʌ́sl] = make a gentle, whispering, lightly tapping noise as of leaves moved by the wind

◇ convey ～ = carry ～；pass on ～

ℓ. 49 ◇ any and every「どんな～も；どの～も」

※ any または every の強調形。

cf. speak to *any and every* girl who is pretty

（かわいい子にはだれかれの区別なく声をかける）

◇ phenomenon [fɪnɑ́:mənɑ̀:n]「現象」

ℓ. 50 ◇ the perceiving mind「感覚の優れている人間」

○ perceive = become aware of through one of the senses, especially that of sight

○ mind「知性の持ち主；人」

【3】

解答・解説

（1） whose
「そこは従業員の給与が最も高い会社だ。」
所有格の関係代名詞。

（2） by
「彼は私の手をつかんだ。」
○ seize A by the B「A の B をつかむ」 *cf.* hit A on the head（A の頭を殴る）

（3） hundredth
「1 セントは 1 ドルの 100 分の 1 である。」
○ hundredth「100 分の 1 の」

（4） believe
「彼は病気のふりをしているだけだと思うかい。」
○ make believe ～「～のふりをする」

（5） face
「彼は多くの障害をものともせず前進した。」
○ in the face of ～「～にもかかわらず」

（6） biography
「有名な人々は 2 篇以上の伝記を書かれることがよくある。」
○ biography [baɪá:grəfi]「伝記」

（7） term
「'Myopia' とは「近視」を意味する専門用語である。」
○ myopia [maɪóʊpiə]「近視」
○ term「用語」

（8） damage
「洪水は穀物に多大な被害を与えた。」
○ cause damage to ～「～に被害を与える」

（9） approve
「我々は母に映画に行ってもよいかどうか尋ねた。」
○ approve of ～「～に賛成する」

（10） defeat
「我々の野球コーチは相手には楽に勝てると言った。」
○ defeat ～「～を負かす」

（11） particular
「彼は毎朝きっかり 7 時に朝食を食べることに関しては非常にうるさい。」
○ particular ＝ fussy

（12） disposal

「仕事で東京に出かけている間，私の車を好きなように使ってもいいですよ。」
○ leave A at B's disposal「A を B の自由処理に任せる」

(13) delivery〔demand〕
「今すぐ支払わなくても結構です。つまり，品物と交換で結構です。」
○ on delivery「配達時に」
「今すぐ支払わなくても結構です。つまり，こちらから請求があり次第支払って下さい。」
○ on demand「要求があり次第」

(14) abbreviation
「EC は European Community（欧州共同体）の略語である。」
○ abbreviation「略語」
○ (the) European Community「欧州共同体」

【4】

解答

（1） **b**　（2） **d**　（3） **d**　（4） **c**　（5） **d**
（6） **b**　（7） **a**　（8） **c**　（9） **a**

解説

（1）「社長はおそらくその計画を受け入れないだろう。」←「社長がその計画を受け入れるということは非常になさそうだ。」（直訳）
「非常に」という意味で unlikely を強める副詞は highly のみ。
c　greatly は通例動詞・分詞・形容詞の比較級に用いるので不適切。
a　mainly（主に），**d**　largely（大部分）は意味的に不適切。

（2）「マスコミの行き渡る範囲は広く，時間と空間の障壁も克服しつつある。」
節をつなぐ接続詞がないので，‘付帯状況’を表す分詞構文になるよう **d**　overcoming を選ぶ。能動的な意味なので現在分詞。

（3）「彼が誕生日プレゼントにくれたコートは着心地がいいというよりは見栄えが良かった。」
同一のものについてその異なる特性を比較する場合：
① more A than B の形をとる
②比較級を用いて表す場合は than 以下を省略しない

（4）「多くの学生が高校の時の気楽な日々に戻りたいと望む。」
単数扱いをするのは **b** と **c** のみであるが，**b**「学生の数」では意味をなさない。
○ a number of ～「多くの～」※複数扱い。
○ many a ～「多くの～」※単数扱い。

（5）「多くの外国人が日本語の勉強を始めているということを知って我々は驚いている。」
○ be surprised to …「…して驚く」
find O C（O が C であると気づく）の C は名詞・形容詞・分詞であるが，ここでは take up A（A を始める）が能動的に用いられているので，現在分詞になるのが正しい。

（6）「両方の論点を非常に注意深く考慮したのち，たどりつく決定は1つしかないということを我々は認識した。」

○ both sides；either side「両方の」

独立分詞構文ではないので分詞の意味上の主語と主節の主語は一致する。よって we が主節の主語であるものがふさわしい。

（7）「自動車が時代後れの巨大で扱いにくいものになるかどうかは，地球上の石油供給がどれくらい長く続くかにかかっている。」

○ depend on ～「～次第だ」

last は「時間的に続く」という意味を表すので,「量」を表す much ではなく,「時間」を表す long を用いる。

（8）「その貴族が亡くなってから，彼女は高貴な人々や社交界の人々からそれ以上注意を払われることはなかった。」

by ～と動作主が明記してあるので，受動態を選ぶ。

○ take notice of ～「～に注意を払う」

○ the great and fashionable「高貴な人々と社交界の人々」

（9）「もしもう少し雪が降ったとしたら，山は手に負えなくなっていただろう。」

○名詞＋ and … で‘条件’を表す。

仮定法過去完了の文。

b は仮定法過去なので不適切。

○ impassable「通行不能の；克服できない」

d　but for ～「もし～がなければ」

【5】

解答

（1）	see	（2）	high	（3）	line	（4）	through
（5）	like	（6）	match	（7）	run	（8）	put

解説

（1）(a)「誰がパーティーの後ジェーンを家に送りますか。」

○ see A B「A を B へ送る」

B は場所を表す副詞か副詞句。

(b)「その出来事を悲劇だと考える人もいる。」

○ see A as B「A を B とみなす」

(c)「私の言っていることがわかりますか。」

○ see ～「～を理解する」

（2）(a)「もっと責任ある地位が女性労働者に開放されてもよい頃だ。」

○ It is high time that ….「…してもよい頃だ。」

that 節の中は仮定法過去。

(b)「私はその映画監督を高く評価している。」

○ have a high opinion of ～「～を評価する」

cf. have no opinion of ～（～をあまりよく思わない）

(c)「父はその写真コンテストで優勝し，上機嫌だった。」

○ be in high spirits「上機嫌である」

（3） (a)「お仕事は何ですか。」

○ line「職業」

cf. What's your line?

(b)「お暇な時に手紙を下さい。」

○ line「短い手紙」

○ drop A a line「A に手紙を出す」

(c)「多くの人々がそのバスケットボールの試合のチケットを買うために行列して待っていた。」

○ line「行列」

（4） (a)「日本では多くの人々が月曜から土曜まで働く。」

○ from A through B「A から B の終わりまで」

(b)「彼は友人を通してその仕事を得た。」

○ through ～「～を通じて」

○ It is ～ that ….（強調構文）

(c)「新聞を読み終えましたか。」

○ through（with）～「～を終えて」

（5） (a)「卵はどのように料理するのが好きですか。」

○ How do you like ～?「～はいかがしましょうか。」

(b)「数日中にあなたのお宅におじゃましたい。」

○ would like to …「…したい」

(c)「よろしかったらその本を持っていってもいいですよ。」

○ if you like「よろしかったら」

（6） (a)「メアリーは卓球にかけてはナンシーにかなわない。」

○ match「好敵手」

○ be no match for ～ in …「…に関して～にかなわない」

(b)「あなたのシャツはズボンによく似合っています。」

○ match「よく釣り合う物」

(c)「その貧しい少女は金持ちの男性と結婚した。」

○ match「結婚」

○ make a match with ～「～と結婚する」

（7） (a)「その映画がロングランになると予期した人はほとんどいなかった。」

○ run「連続公演」

(b)「ジムは昨日の試合で 1 点入れた。」

○ run「（野球・クリケットの）得点」

○ score a run「1 点入れる」

(c)「正直者は長い目で見れば成功する。」

○ in the long run「長い目で見れば」

（8） (a)「スミス先生はそのイタリアの詩を英語に訳そうとした。」

○ put A into B「A を B に翻訳する」

(b)「多くの国では輸入品に税金をかける。」

○ put a tax on ～「～に税金をかける」

(c)「どの切手をその封筒に貼りましょうか。」

○ put a stamp on ～「切手を～に貼る」

【6】

A.

解答

（1） That isn't what I'm looking for.

（2） I〔We；You〕can't put it off any longer.

I〔We；You〕can put it off no longer.

（3） Don't think I'm responsible for it.〔Don't hold me responsible for it.〕

（4） This room doesn't get much sunshine.

解説

（1）「僕の探しているのはそんなものではない」という日本文をそのまま英語にしようとすると，What I'm looking for isn't that. となるが，isn't を I'm の前に置くという指示があること，また，英語では冗長な主語は避けるという原則から考えて，「それは僕が探しているものではない」と読み換える。

したがって，That isn't what I'm looking for. となる。

（2）「～を延ばす」は，put が与えられていることから，put ～ off という表現を用いる。

「もうこれ以上…ない」は，longer が与えられているので，not … any longer〔… no longer〕を用いればよい。

文の主語は日本文では書かれていないので，I，We，You のいずれも可。

したがって，I〔We；You〕can't put it off any longer. が正解。

あるいは，not … any longer の代わりに … no longer を用いて，I〔We；You〕can put it off *no longer*. としても可。

（3） Don't で文を始めるという指示があるので，「それを私の責任にするな」と考えればよいが，ここで使うべき動詞として hold を思いつくのは難しい。*hold* O responsible for ～で「O に～の責任を負わせる」の意味。

または，「それを私の責任だと思うな」と考えれば，Don't think I'm responsible for it. のようにずっと簡単な英文にすることができる。

（4）「この部屋はあまり日が当たらない」という日本文だが，get という動詞が与えられていることから，「この部屋はあまり日（の光）を受けない」と考える。

「日光」は sunshine（無冠詞）。

したがって，This room doesn't get much sunshine. が正解となる。

B.

解答

As I get older, I feel each year seems to go by faster and faster. Though I have a lot of things to do, I leave most of them undone until the following year. In my elementary school days, time passed so slowly that I got bored with it. I never dreamed that an adult life was such a busy one.

別解 As I get older I feel the years gradually getting shorter. There are a great number of things to be done, but I leave most of them undone until the coming year. When I was in primary school, time passed so slowly that I got bored to death, and never did I dream that the life of a grown-up would be such a busy one.

解説

「年をとると，１年がだんだん短くなるように感じる」は，一般論か書き手の個人的な考えか迷うところであるが，第２文目以降を見ると個人の感想を述べているので，I で書き出すことにする。

「年をとると」は「年をとるにつれて」と考えて，as I get older とするのが最も簡単。

「…と感じる」は，feel〔have come to feel〕that …の構文で表し，that 以下に「１年間がだんだん短くなる」という内容を続ければよい。

この「１年間」は，a year とするよりは each year〔the years〕とすることにより，１年１年が次第に短くなるという意味合いが表現できる。

「だんだん短くなる」は each year seems shorter and shorter としてもよいし，「短くなる」は「速く過ぎるようになる」ということだから，each year seems to go by faster and faster としてもよい。

「やることはたくさんあるのに，ほとんどやり残したままで翌年を迎えることになる」の「やることはたくさんある」は，have a lot of things to do〔to be done〕，または，there are a lot of things to do〔to be done〕で表すのが最も簡単。a lot of のバリエーションとして，lots of, so many, a great〔large, good〕number of などがある。「…のに」は although〔though〕I have a lot of things to do で表してもよいし，I have a lot of things to do, but …としてもよい。

「ほとんどやり残したままで」は，I leave most of them undone とする（この leave ～ undone は，客観式テストで頻出の表現）。

cf. “Shall I let him know of it?” “No, you might well *leave* it *unsaid*.

（「それを彼に伝えましょうか。」「だめだめ。言わないでおきなさいよ。」）

「翌年を迎えることになる」は，I leave most of them undone に until the〔following〕coming year〔until the next year comes〕を付けるとよい。

「小学生の頃は」は when〔while〕I was an elementary school student〔in elementary school〕，または，in〔during〕my elementary school days。また，elementary school の代わりに primary〔grade〕school としてもよい。primary を用いるのはイギリス英語。

「時間に飽きてしまうほど時間が経つのが遅かった」は，so ～ that …構文を用いて，time passed so slowly that …で書き出す。

「～に飽きてしまう」は get bored with ～，get tired〔weary〕of ～，get fed up with ～などで表す（ここでは with〔of〕～の部分は文脈から明らかなので省略して get bored to death〔sleep；tears〕のような慣用表現を用いることもできる）。
「大人の生活がこんなに忙しいものだとは夢にも思わなかった」の「…だとは夢にも思わなかった」は，I did not dream〔never〔little〕dreamed〕that …，never〔little〕did I dream that …，I did not think for a moment that …で表せる。
「大人の生活」は an〔the〕adult〔adult's〕life，a〔the〕grown-up life，または，the life of a grown-up〔an adult〕とする。
「こんなに忙しいものだ」は such a busy〔bustling；hectic〕one で表す。

【7】

解答・解説

A.

（1） **i** 「海は荒く，我々の船は波のなすがままだった。」
○ at the mercy of A〔at A's mercy〕「Aのなすがままで」= unable to do anything to protect yourself from ～；wholly in the power of ～ ◆598

（2） **a** 「彼女は大きな蛇を見てぎょっとした。」
○ at the sight of ～「～を見て」= on seeing ～
cf. lose〔catch〕sight of ～（～を見失う〔見つける〕） ◆599

（3） **e** 「我々は言葉を用いて考えを表現する。」
○ by means of ～「～の手段によって」
= by the agency or instrumentality of ～ ◆600

（4） **j** 「私はアメリカ経由でヨーロッパへ行く。」
○ by way of ～「～を通って」= via [váɪə] ◆602

（5） **b** 「彼女は笑われないようにずっと黙っていた。」
○ for fear of ～「～しないように」= to avoid the risk of ～
= She kept silent for fear that she should be laughed at. ◆603
※ for fear that … = to avoid the risk that …

（6） **f** 「彼女は健康のために田舎に移った。」
○ for（the）sake of A〔for A's sake〕「A の利益〔目的〕のために」= in order to help, improve, or please ～ ◆605

（7） **d** 「彼の努力から考えると，きっと試験に合格すると思う。」
○ in view of ～「～を考慮して；～の点から考えて」= considering ～ ◆606
cf. in A's view〔in the view of A〕（A の意見によれば；A の見地からすれば）

（8） **c** 「私は週５日制に賛成です。」
○ in favor of A〔in A's favor〕「A に賛成して」= in support of ～ ◆611

（9） **g** 「ビルは父親の代わりにその会合に出席した。」
○ in place of A〔in A's place〕「A の代わりに」
= in exchange for ～；instead of ～ ◆613

(10) **k** 「火事の場合は消防署に電話をしなさい。」

○ in case of ～「～の場合は」= in the event of ～ ◆615

(11) **h** 「野球の試合は雨のために中止となった。」

○ on account of ～「～のために；～という理由で」= because of ～；due to ～；owing to ～；thanks to ～ ◆622

(12) **l** 「快晴だったにもかかわらず，空気はやや冷えていた。」

○ in spite of ～「～にもかかわらず」= notwithstanding ～ ◆626

B.

(1) essential〔indispensable；necessary〕to〔for〕◆572

○ essential〔indispensable〕to〔for〕～「～に不可欠な」

○ there is no …ing「…することはできない」

(2) peculiar〔proper〕to〔characteristic of〕 ◆573

○ peculiar〔proper〕to ～「～に固有な」

○ peculiar「固有の」

○ proper「固有である」

(3) common to ◆574

○ common to ～「～に共通の」

○ common「共通の」

(4) opposed to ◆579

○ be opposed to ～「～に反対する」

(5) composed of ◆582

○ be composed of ～「～から成っている」

(6) As for ◆592［◆591］

○ as for ～「(先ほどの) ～について言えば」

○通例文頭で用いる。

○ as to ～ は人以外に用いる。

(7) Apart〔Aside〕from〔Except for〕 ◆597

○ apart〔aside〕from ～「～は別として」

○ except for ～「～を除いて他は」

(8) on，terms〔very，friends〕 ◆608

○ on ～ terms (with …)「(…と) ～の間柄で」

○～には形容詞が入る。

e.g. on first name terms ((ファーストネームで呼び合うほど) 親しい間柄で)

Tom and Jim have been very good friends ～ としても可。

(9) behalf ◆616

○ on behalf of ～「～の代理として」

(10) Because of〔Owing to；Due to；Thanks to〕◆621［◆623, ◆624］

○ because of ～「～のために」

= Because he became〔got；fell〕ill frequently, …

2章　総合問題2

問題

【1】

解答

（1）　Children and Cellphones ／ Controlling Children's Cellphones

（2）　ⓐ　children　　ⓑ　access　　ⓒ　firm　　ⓓ　health　　ⓔ　increase
　　ⓕ　more　　ⓖ　similar　　ⓗ　country〔nation〕

（3）　携帯電話の使用を 20 歳になるまで，あるいは少なくとも 15 歳になるまでは禁止すること。

解説

（1）　携帯電話を使うことの健康面での危険性，特に子供への弊害について論じた文であるので,「子供」「携帯電話」「危険性」「禁止」「弊害」などがキーワードとなる。「子供」と「携帯電話」ははずせないキーワードである。英語３語という制限があるので単に Children and Cellphones（子供と携帯電話）としてもよい。また，この文章の結論は，子供の携帯電話の使用を規制するというものなので，Controlling Children's Cellphones としてもよいだろう。

（2）

ⓐ　Moreover, an increasing amount of these users are（　　）. 空所には，増加しつつある携帯電話の使用者が入る。次の２文に for example … nearly one-third of elementary school children use mobile phones.　Among high school students, the figure is 96%. とあることから，携帯電話使用者として増加しつつあるのは子供（children）とわかる。

ⓑ　第２段落の冒頭に「日本政府はこういった数字（小学生のほぼ３分の１，高校生に至っては 96% が携帯電話を使う）に頭を悩ませている」とある。空所を含む文は「携帯電話を使う子供が，危険なウェブサイトだと考えられているものに対して 'have easy（　　）' なことが案じられている」という意味。「危険なウェブサイトを '簡単に見ることができる '」から案じられているわけである。第３段落冒頭の空所ⓒを含む文中に easy access to websites という表現があるが，これを参考にして have easy access to ～ とすればよい。

ⓒ　空所を含む文は「政府は，ウェブサイトを簡単に見ることができることが子供にとっては有害になりかねないということにおいて，（　　）である」という意味である。that 以下の easy access to … for children の部分は，直前の第２段落で述べた内容の繰り返しになるので,「政府は…ということにおいて，確信している」といった意味になると推測する。同様な文脈で使われている語として，第４段落の後半に However, the government must be firm in the face of this anger. とあるのを参考にすればよい。空所には firm が入る。

ⓓ 空所を含む英文の意味は「数多くの研究により，携帯電話が使用者の（　　）にいかに有害な影響を及ぼすかが証明されている」である。この直前に the even more dangerous aspects of mobile phones：their health hazards とあり，health hazard（健康被害）に関する話題が新しく提示されているので，空所には health（健康）が入ると考える。

ⓔ 空所を含む英文の意味は「携帯電話は血圧の（　　）に関係している。」である。be linked to ～ は「～に関係して」の意で to は前置詞なので，空所には名詞が入ると考えられる。携帯電話が健康に及ぼす悪影響について述べている文脈であること，また空所の後ろに前置詞 in を伴っていることを考慮して，increase in blood pressure（血圧の上昇）という表現が適切と考える。

ⓕ 空所は「両親や学校に子供による携帯電話の使用を制限するよう勧めることは手始めとしてはよいが…」の後の but に続く部分なので，何かしら問題点が指摘される内容になることが予想される。the Japanese government must do much（　　）は「日本政府はもっと多くのことをしなければならない」という内容になると考えて，空所には more を入れる。

ⓖ 空所を含む部分の意味は「政府はアルコールや煙草と（　　）やり方で携帯電話を考えるべきであり，携帯電話の使用を 20 歳になるまで，あるいは少なくとも 15 歳になるまでは禁止するべきである」である。主語の it は日本政府，manner はここでは way，method と同じ意味。「（アルコールや煙草の年齢制限をするのと）同様のやり方で」という意味になると考えて similar を入れる。空所の前に a が付いていることから，in *the* same manner とはならないので注意すること。

ⓗ 空所を含む部分の意味は「どちらにせよ，子供が（　　）の未来であるなら…」である。子供は成長して国の未来を担うものであるという考えから，「国；国家」という意味の単語（country；nation）が入ると考える。日本政府の対応について述べられているので「世界」と考えるのは規模が大きすぎる。

（3） 下線部の This は直前の文のうち，ban their use until one reaches the age of twenty, or at the very least, fifteen の部分を指している。字数制限がないのでそのまま訳してよい。ban は「～を禁じる」，at（the very）least は「少なくとも」の意。

全訳

携帯電話は科学技術の驚異であり，新しく出るタイプはどれも前のものより精巧になっている。最近の携帯電話はもはや単なる普通の電話にとどまらず，カメラ，ビデオプレーヤー，そしてマルチメディアメッセージングサービスのような他の付属機能のみならず，Ｅメールやインターネット接続，テキストメッセージ機能まで備わっている。それが提供してくれる便利さゆえに，携帯電話は世界で 30 億人以上の人に使われているというのもおそらく驚くにはあたらない。さらに，増加しつつある使用者は子供なのである。例えば日本では最近の調査により小学生のほぼ３分の１が携帯電話を使用していることが示された。高校生においてはその数字は 96％である。

日本政府はこういった数字に頭を悩ませている。携帯電話を使う子供が，危険なウェブサイトだと考えられているものを簡単に見ることができるということが案じられている。政府

は，親や学校に子供による携帯電話の使用を制限し，そうすることで，有害な情報を提供し子供に罪を犯すよう奨励さえするようなウェブサイトにふれさせないようにするよう促している。

政府はウェブサイトを簡単に見られることが子供にとっては有害になりかねないと確信している。しかしながら政府はまた，携帯電話のさらにもっと危険な一面，つまり健康被害を調べる必要がある。数多くの研究により，携帯電話が使用者の健康にいかに有害な影響を及ぼし得るかが証明されている。携帯電話は血圧の上昇に関係している。また頭痛や皮膚障害の原因となることが証明されている。アメリカでネズミを使って行われた実験では，携帯電話から出るマイクロ波にさらされることがアルコール乱用につながる可能性が示された。ごく最近ではスウェーデンでの研究により，10 年以上携帯電話を使っていると脳腫瘍になる危険性が増すことが証明された。子供は頭蓋骨が大人よりずっと薄くて，その神経組織もまだ成長する段階なのでとりわけ危険である。

もし携帯電話がそういった脅威を子供に与えるのなら，この危険に立ち向かうために何がなされるべきなのだろうか。親や学校に子供による携帯電話の使用を制限するよう勧めるのは手始めとしてはよいが，日本政府はもっと多くのことをしなければならない。もし，政府が本当に子供の幸せに関心があるなら，アルコールや煙草と同様に携帯電話を考えるべきであり，携帯電話の使用を 20 歳になるまで，あるいは少なくとも 15 歳になるまでは禁止するべきである。こういった対策はもちろん，多くの日本人が携帯電話のある生活様式に慣れてしまっているので，初めは憤りを引き起こすだろう。しかし，政府はこういった憤りに直面しても断固態度を変えないでいるべきだ。どちらにせよ，子供が国の未来を担うものであるなら，この未来が確実に健全なものとなるようすべての手段を講じなければならないというのは道理だ。

注

ℓ. 1 ◇ sophisticated「精巧な」
ℓ. 12 ◇ commit crimes「罪を犯す」
ℓ. 16 ◇ hazard「危険；危険要素」
ℓ. 17 ◇ detrimental「有害な」
ℓ. 20 ◇ abuse「乱用」
ℓ. 22 ◇ skull「頭蓋骨」

【2】

解答

（1） **c，f，g**　（2）（イ）**d**　（ロ）**d**　（ハ）**a**　（ニ）**a**
（3） ① **c**　② **c**　③ **a**　④ **d**　⑤ **c**　（4）**d**
（5） 「**全訳**」の下線部ⓑ参照。
（6） 文化的に未開な民族の言語には文字が存在しないため言語の変化の勢いや速さは文明国の言語を凌いでいるかもしれないということ。(60 字)
（7） **b**
（8） 「**全訳**」の下線部ⓔ参照。

解説

（1）

a　「言語学者が言語の起源について多数の推論を行い，証拠を示そうと試みるのは，言語の起源が彼らの科学的関心をかきたてるからである。」

第１段落第１文には「一般大衆が大きな興味を示してきた話題は言語の起源の問題である」とある。第３文には「いくつかの推測がなされ，さまざまな証拠が与えられてきた」とあるが，行為者は明記されていない。第５文では，「言語学者はこの種の考え方を無視する傾向にあり」とあるので，推論を行い，証拠を示そうとしてきたのは言語学者でないと考えられる。

b　「最古の文字を研究することによって，我々は人間の言語の起源を説明することができる。」

第１段落第６文に「人間の活動としての言語は研究されている最古の言語よりもずっと古いものなのである」とあるので，言語の起源が文字の研究によって説明できるはずがない。

c　「人間の言語の進化の過程において，話し言葉は文字に先行する。」

第１段落第６文，「人間の活動としての言語は研究されている最古の言語よりもずっと古いものなのである」に一致する。

d　「伝達能力や表現能力に関して言語間に優劣がある。」

第３段落第２文に「言語学的には，原始的な言語など存在しない」とある。この **d** の考えを，「言語差別主義」ということは頭に入れておこう。

e　「幼児の言語の獲得の仕方を研究することによって，人間の言語の起源を探究する重要な手掛かりが得られる。」

第２段落第１文に「言語の起源に対してよく用いられる２つの説明が，子供の言語習得の方法と，いわゆる『原始的な』言語の構造と特徴である」とあるが，その直後の第２文で「しかし，どちらもこの目的には用いることができない」とあるので不一致。

f　「ある言語の音声・文法体系は，その社会の文化水準を反映しない。」

第３段落第５文に「世界の言語を研究しても，言語構造的には，発達段階の異なる人々の言語が異なるということは示されない」とあり，さらに第６文に「もちろん語彙はいかなる時もその話者の物質的・精神的文化の状態をかなり細かく反映している。けれども，言語は変化して，文化の発展の状況に応じることができるものであるが，そうした変化の間もその音声・文法の体系は変わらないものである」とあるので，文化的水準を反映するのは語彙の面だけであり，音声・文法体系は無関係であることがわかる。したがって，一致する。

g　「言語に類似した動物の意思伝達体系の中でも，蜜蜂のダンスは単なる叫び声より複雑である。」

第４段落第２文の「そうした体系のいくつかは，単なる叫び声以上に複雑なもので，人間の言語と関連付けて研究されてきたが，特に蜜蜂のダンスがそうである」に一致。

h　「人間の言語は動物の意思伝達の一形態にすぎず，変化に抵抗するという共通の傾向をもつという点でそのような動物の意思伝達体系と同等である。」

「人間の言語が動物の意思伝達の一形態にすぎない」という点については，第５段落

第１文に「こうしたものと言語とを隔てる距離は非常に大きい」とあり，不一致。また，「変化に抵抗するという共通の傾向をもつ」という点については第６段落第３文「このように世代を通じて伝えられることによって言語の変化が起こり，これが歴史言語学の題材となっている」，第４文「人間の言語の場合には当てはまるが，それとは違って，動物の叫び声や蜜蜂のダンスに変化が生ずると推測する理由はまったくないのである」の内容と矛盾する。

（２）

（**イ**）this sort of theory（この種の仮説）とは，直前に述べられている「imitation calls in answer to animal noises, cries resulting from strong emotion, and calls for help（動物の鳴き声に答える鳴きまねや，強い感情から生ずる叫び声，助けを求める叫び声）など，音を発するさまざまな方法から言語が発達した」という「非科学的な仮説」を指す。

（**ロ**）it はセミコロンの前の文の主語，writing（文字）を指す。

（**ハ**）this purpose とは前文の explanations for the origin of language（言語の起源を解明すること）を受けている。

a　「言語の起源を探究すること」

b　「話し言葉と書き言葉との間の関係を見い出すこと」

c　「いわゆる『原始的』な言語の構造と特徴を説明すること」

d　「子供の話し言葉の獲得の仕方を調査すること」

（**ニ**）「この種の行動様式は言語学者にとって興味深いものであるにもかかわらず，それらと言語を隔てる距離は非常に大きい」という文脈。「それら」とは直前の段落で挙げられている bee dancing（蜜蜂のダンス）のような「人間の言語に似たコミュニケーション方式」のことである。

（３）　それぞれの本文における意味は次の通り。

①　beyond the *reaches* of ～「～の範囲を越えて」⇔ within the reaches of ～

②　alone「単独で；ただ～だけ」
alone は前の名詞を修飾する点に注意。

③　substance「本質」

④　leave off「やめる；終わりとする」

b　omit ～ = leave〔count〕out ～

⑤　worlds away from ～「～とは非常にかけ離れた〔違った〕」
from 以下が ℓ. 56 の *From* these uses of languages と文頭に出ている。worlds は副詞相当語句。「～からは worlds 程離れている」が直訳。

（４）　省略は直前の文中に同じ要素がある場合に起こる。なお，省略したい部分も否定する場合には ‘not’ は省略できないというルールがある。

Even if they are not actually *“taught” to speak,*

↓

as most are（taught to speak), their situation is entirely different …

と考える。

（5） ○ A is no more B than C is D. の構文の場合，①「C is Dの命題が間違っているとはっきりと評価が定まっている場合」（はっきりと定まっている事柄は，常識で定まる場合と，文脈で定まる場合がある）と②「C is D の命題が間違っていると評価が定まっていなくて，ただ単にゼロ分だけ more であるという意味を表す場合」がある。

同様に，

A is no less B than C is D.

の構文においても，

①「C is D の命題が正しいと，はっきりと評価が定まっている場合」

②「C is D の命題が正しいと，はっきりと評価が定まっていなくて，ただ単にゼロ分だけ less であるという意味を表す場合」

がある。本問の no more，no less は②のケースである。

○ orderly「整然とした」

（6） the opposite may be the case（それとは逆のことが実情かもしれない）の「逆のこと」とは，直前の Nor are the processes of changes that affect all parts of languages, any less active or any slower in operation in these languages than in others（言語のすべての分野に影響を与える変化の過程が，文化的に未開な民族の言語において，他の言語と比べて作用の点で不活発だったり進行が遅かったりというわけでもない）を受けている。つまり，「文化的に未開な民族の言語の方が，言葉の変化の勢いと速さという点では，文明国の言語を凌いでいる」ということだが，具体的にわかりやすくとあるのだから，その理由を付け加えるとよい。

○ *Nor* are the processes of changes that ～ , *any less* active or *any slower* in operation in these languages than in others

＜ The processes of changes … are *no less* active and *no slower* … *than* ～

前文の no less〔no more〕の no という否定語を受けて，nor が文頭に出て後続が疑問文の語順になっている。

○ active ＝ tending to move about often or energetically

→ この文脈では「活発に変化する」ということ。

なお，この文をパラフレーズした際に出てくる no less ～ than …は，いわゆるクジラの公式の，

A whale is no less a mammal than a horse is.

（馬が哺乳動物であるように，クジラも哺乳動物である。）

とは，性質が異なる点に注意。詳しくは，（5）下線部ⓑの解説参照。

（7） *upon* their return home は「巣に戻ると同時に」の意味。upon は on と基本的には同じ。

a 「私は弁護士の助言に基づいて行動しただけだ。」（根拠・依存）

b 「彼女は夫の死後すぐに喪に服した。」（時）

c 「敵が我々の近くに迫り，そしてわが軍の兵士は逃げる時間がほとんどなかった。」

○ be on ～「～に迫ってくる」（方向・対象）

d 「近所のすべての家にはテレビアンテナがある。」（接触）

（8） ○ human speech「人間の言語」
○ be passed from generation to generation「世代から世代へと伝えられる」
○ by a process of ～「～という過程によって」
○ on the part of ～「～の側の〔で〕」

全訳

言語の研究に関連した話題のうちで，一般大衆が大いに興味を示してきた話題は，言語の起源の問題である。この問題に関しては，かなり多くの仮説があり，声を発するさまざまな方法から言語がどのように発達したかを探ろうとする形を通常とっている。いくつかの推測がなされ，さまざまな証拠が与えられてきた。その中には次のようなものがある。動物の鳴き声に答える鳴きまね，強い感情から生ずる叫び声，助けを求める叫び声である。しかし，言語学者はこの種の考え方を無視する傾向にあり，これは関心がないからではなく，それが科学的研究の及ぶ範囲を遠く超えたところにあるからである。人間の活動としての言語は，研究されている最古の言語（約 4,000 年前のもの）よりもずっと古いものなのである。文字は，現在使われていない言語を我々が知る唯一の手がかりであるが，その文字というものは，話し言葉と比較すると，非常に歴史が浅く，それは特定地域に定着し発達した文明が生み出したものである。言語の起源と比べれば，我々が知っている言語はどれも非常に新しいものなのである。

言語の起源に対してよく用いられる２つの説明が，子供の言語習得の方法と，いわゆる「原始的な」言語の構造と特徴である。しかし，どちらもこの言語の起源の解明という目的には用いることはできない。子供が母語を獲得するのは，言語がすでに確立していて，さまざまな必要性を満たすために身の回りのいたるところで言語が絶えず用いられている状況においてである。たとえ大部分の子供とは違って，子供が話すことを実際に教わることはなくても，彼らの置かれている状況は，言語そのものが形成過程にあった時期に存在したと推定される環境にいた人類全体の置かれていた状況とはまったく異なるものである。

第２の理由は，いわゆる「原始的な」言語の性質に基づくものであるが，これらの言語に関する，誤ってはいるが，広く知られている考えに立脚している。言語学的に言って，原始的な言語などは存在しない。原始的と呼べるような文化を持った民族の言語は確かにある。しかし，原始的という言葉は言語を説明するのに不適切である。世界中の言語を研究しても，言語構造に関する限り，さまざまな発達段階にいる人々の言語がそれぞれに異なっているなどということは示されない。もちろん，語彙はいかなる時もその話者の物質的・精神的文化の状態をかなり細かく反映している。けれども，言語は変化して，文化の発展の状況に応じることができるものであるが，その一方でそうした変化の間もその音声・文法の体系は変わらないものである。ⓑ言語学の研究の示してきたところでは，文化的に未開の民族の言語が持っている音声・文法体系が，西ヨーロッパおよび世界の主要な文明圏の言語と比べて規則性において劣っていることはまったくない（また，より規則性において優っていることもまったくない）のである。また，言語のすべての分野に影響を与える変化の過程が，文化的に未開な民族の言語において，他の言語と比べて作用の点で不活発だったり進行が遅かったりするわけでもない。実際には，その逆が正しいのかもしれない。というのは，ある状況下では，表記法と正用法の基準の確立が，どちらかと言えば，言語の変化を遅らせると思われ

るからである。

行ってみて役に立つ可能性があるのは，人間の言語と言語が人間生活に占める位置を，動物界で見られる最も言語に似た意思伝達の体系と比較してみることである。そうした体系のいくつかは，単なる叫び声以上に複雑なもので，人間の言語と関連付けて研究されてきたが，特に蜜蜂のダンスがそうである。蜜蜂のダンス体系において，食料源の場所を見つけた蜂は，そこまでの距離と方角を，それらの蜂が巣に戻ってすぐに行う一連の動きで示すことができる。この種の意思伝達の形態の「本質」は，人間の言語の本質とはかなり異なったものであるが，ある点においては，人間の言語の本質に類似しているのである。

この種の行動様式は言語学者にとって興味深いものであるにもかかわらず，こうしたものと言語とを隔てる距離は極めて大きい。特に注目すべきことは，人間の話し言葉がいかに複雑なものであり，またそれがどのように人間の経験の全範囲を扱うことができるのかということである。

ⓔ人間の言語は，子供の側の学習という過程によって世代から世代へと伝えられるが，それは両親やその他の人の教授を伴うことが多い。これは本能とか遺伝の問題ではないのだ。もちろん，言葉を話すための肉体的な器官であれば，本能・遺伝となるが。このように世代を通じて伝えられることによって言語の変化が起こり，これが歴史言語学の題材となっている。人間の言語の場合には当てはまるが，それとは違って，動物の叫び声や蜜蜂のダンスに変化が生じると推測する理由はまったくないのである。

人類の進歩は，言語を使うことで大いに加速されている。ある人が身に付けた知識や経験が言語で別の人に伝えられ，その結果，ある程度は，先人が歩みを止めたところから始めることができる。これに関連して，印刷術の発明はとても重要である。現在では，世界のいかなる地域のいかなる人によるいかなる業績も，文字を読んで理解することができる人なら誰でも（必要なら翻訳によって）知ることができる。言語という名称がついてはいるが，最も発達した動物の伝達体系でさえ，以上のような人間の言語の使い方，話し言葉および書き言葉，からは大いにかけ離れているのである。

注

ℓ.1 ◇connect A with B「A を B と関連付ける」
◇that：関係代名詞で，先行詞は one topic connected with the study of language。すでに one topic は connected with the study of language で限定されているので，二重に限定する形になっている。

ℓ.2 ◇a good deal of ～「多くの～；多量の～」

ℓ.4 ◇different proofs（have been）given

ℓ.5 ◇among these are the following ＝ the following are among these
○following（通常 the ～；単複同形）「次に述べること」
※ the rest〔latter；former〕と同様，複数形でも，語末に s はつかない点に注意。
◇imitation call「鳴きまね」
◇in answer to ～「～に答えて〔応対して〕」

ℓ.6 ◇calls for help「助けを求める叫び声」
◇leave ～ alone「～をそのままにしておく〔放っておく〕」→「～を無視する」

ℓ. 7 ◇ not because ～, but because …「～からではなく…からである」

◇ lie far beyond ～「～を遠く超えたところにある」

ℓ. 9 ◇ some ＋数詞「およそ～」

◇ Writing, {by which … are known to us}, is, … a very recent introduction；

S　　V　　C

◇ presently「現在；目下」

ℓ. 10 ◇ as compared with ～「～と比べて」

ℓ. 11 ◇ settled「（特定地域に）定着した」＜ settle

◇ in relation to ～「～と比べて」＝ in comparison with ～

ℓ. 14 ◇ so-called「いわゆる」

ℓ. 16 ◇ in constant use「絶えず使われて」

ℓ. 18 ◇ mankind as a whole「人類全体」

○ A（＝集団を表す名詞）＋ as a whole「～全体」

cf. on the whole（＝ taking everything into consideration）と as a whole（＝ all together；not separately）との区別に注意。

◇ obtain「行われている；存在する」＝ exist

Ex. Today these social conditions no longer *obtain*.

（今日では，こうした社会状況はすでに過去のものになっている。）

ℓ. 20 ◇ The second argument

ℓ. 13 の Two frequently used explanations for the origin of language の２番目，すなわち，the structures and characteristics of so-called “primitive” languages を指す。

◇ nature「性質；本性」

◇ rest on ～「～に基づいている」

ℓ. 21 ◇ linguistically *adv.*「言語学的に言って」

ℓ. 25 ◇ material「物質的な」

ℓ. 26 ◇ philosophical「哲学的な；精神的な」

※ここでは material ⇔ philosophical の関係が成り立っている。

ℓ. 27 ◇ and [ənd]：‘逆接’と考えられるので，この部分の

but S ＋ V, and S ＋ V

の構造はほぼ

but {though S ＋ V}, S ＋ V

と同じ意味になる。

◇ phonetic「音声の」

ℓ. 32 ◇ in these languages ＝ in the languages of culturally primitive peoples

ℓ. 33 ◇ as it has been held that …

as は‘理由’を表す接続詞で，it は that 節の内容を指す形式主語。この場合の hold は consider と同義。

Ex. They *hold* me（to be）responsible for it.（= They *hold* that I am responsible for it.）

（その責任は私にあると彼らは思っている。）

ℓ. 34 ◇ correctness「正用法」⇔ appropriateness「妥当性；適否」

◇ if anything「どちらかと言えば；むしろ」

ℓ. 37 ◇ intricate [íntrıkət]「込み入った；複雑な」

ℓ. 41 ◇ in certain respects「ある点では」

◇ it comes closer to it：主語の it は this form of communication を指し，to it の it は that of human speech を指す。

ℓ. 42 ◇ for all ～「～にもかかわらず」

◇ that は interest を先行詞とする関係代名詞

ℓ. 43 ◇ separate A from B「A を B から切り離す〔引き離す〕」

◇ in particular = particularly

ℓ. 47 ◇ instinct「本能」

◇ inheritance「遺伝」

ℓ. 48 ◇ There is no reason
└ to suppose

that { animal cries / or / bee dances } change to anything
,{as is the case with human languages}.

この as は，

As is often the case with him, he came late today.

= He came late today as is often the case with him.

の as（関係代名詞の非制限用法）と同じ。

as の先行詞は，

animal cries or bee dances change to anything

ℓ. 52 ◇ in part「一部分は；いくらか」

ℓ. 53 ◇ printing「印刷術」

ℓ. 57 ◇ title「名称；称号」

【3】

解答・解説

（1） （There are more children's stories）about the fear of being left home alone(.)

○ the fear of …ing「…するのではないかという不安」

（2） （Grass constitutes）one quarter of the earth's vegetation and exists（in more than seven thousand species.）

「草が地球の植物の４分の１を構成する」（該当部直訳）

○ one quarter of ～「～の４分の１」

○ vegetation「草木」

○ exist「（生物，事が）ある」

（3） （A new clean air）law is expected to cut air pollution by（60%.）

○ be expected to …「…することを予期される」

○ by ～「～の差で」

（4） （So passionate was）his letter that she was moved to tears(.)

so ～ that …（非常に～なので…）の 'so ～' の部分が先行した倒置形。

○ be moved「感動する」

○ to ～「～になるまで」（結果）

（5） （We cannot）help being surprised to see how every creature is adapted（to its surroundings.）

○ cannot help …ing「…せざるを得ない」

○ be surprised to …「…して驚く」

○ how …「どのように…か」

○ be adapted to ～「～に適応する」

（6） （Pyrex glass neither cracks if it is heated, nor）is it so fragile as normal glass if（it is dropped.）

○ nor ＋疑問文の語順「～もまた…ない」

○ so ～ as …「…と同じくらい～」

○ fragile「もろい；壊れやすい」

（7） （What）would you recommend for getting ink stains from（my blouse?）

○ get A from B「B から A を取る」

○ stain「しみ；汚れ」

（8） （We）want your visit to be a wonderful and informative experience you will long（remember.）

○ want O to …「O が…することを望む」

○ informative「有益な」

experience（that）you will long remember と関係詞を補って考える。

【4】

解答

（1）	what〔as〕	（2）	save	（3）	turn	（4）	of
（5）	than	（6）	to	（7）	mother's	（8）	to

解説

（1） The cherry tree has long been to Japan what〔as〕 the rose is to Western nations.

○ A is to B what〔as〕C is to D「A の B に対する関係は C の D に対する関係に等しい」

（2） When shopping in a foreign country, paying in cash will save you the trouble of having to show your passport.

when（you are）shopping ～ と補って考える。

paying in cash が主語になる動名詞句。

○ save A B「A から B（＝労力・時間・金など）を省く」

○ having to … ＜ have to …「…しなければならない」

（3） The employer decided to turn down the applicant because of his poor health.

○ decide to …「…することに決める」

○ turn down ～「～を拒絶する」

○ because of ～「～のために」

（4） I have no idea what has become of her since.

○ have no idea「わからない」

○ what has become of ～「～はどうなったのか」

（5） There is none other than you to whom I can leave this.

〔There is none other than you whom I can leave this to.〕

○ other than ～「（名詞の後で）～以外の」

whom は none を先行詞とする関係代名詞。

○ leave A to B「B に A を委ねる」

（6） That's one thing I refuse to leave to anyone else.

one thing（that）…と関係代名詞を補って考える。

○ refuse to …「…することを拒む」

（7） Although he resembles his father in appearance, his character is similar to his mother's.

〔Although he is similar in appearance to his father, his character resembles his mother's.〕

○ resemble ～「～に似ている」

○ his mother's ＝ his mother's character

（8） How we are to adjust these differences is a master question.

How … differences が主語になる名詞節。

○ be 動詞＋ to 不定詞（予定）

○ master「主要な」

【5】

解答

（1）（The story goes that when Newton was sitting in his garden in about 1666, he observed the fall of an apple, which）set him to work on the general problem of（gravity.）

（2）（In 1665 Robert Hooke published his influential book *Micrographia*. It）threw light on the complexity of animal（and vegetable structures.）

（3）（In 1662 Boyle）arrived at the generalization since known（as Boyle's Law, which states that the pressure and volume of a gas are inversely proportional.）

（4）（Edmond Halley, in 1705, published a study of 24 bright comets that had appeared between 1337 and 1698. He concluded that the comets of 1531, 1607 and 1682 were the）same and predicted the return of the comet（in 1758.）

（5）（Wren's first great achievement was the Sheldonian Theatre in Oxford, completed in 1669. It）took the form of an ancient Greek theatre（covered with a flat roof, a large-scale structural experiment at that time.）

（6）（On the spot Kate looked）me in the eye and hurried away with（a smile.）

（7）（A conceited person has）far too high an opinion of his own worth（.）

（8）（The UN has been laboring）for peace in all sorts of ways（possible.）
〔（The UN has been laboring）for peace in ways of all sorts（possible.）〕

解説

（1）「ニュートンは 1666 年頃，自分の家の庭で腰を下ろしていた時にリンゴが落ちるのを観察し，それがきっかけで万有引力の法則にとりかかったという話だ。」
○ set O to …「O に…させる」
○ go …「（話などが）…と言っている」
which は前節の内容を受ける非制限用法の関係代名詞。

（2）「1665 年にロバート・フックは影響力のある『マイクログラフィア』という本を出版した。これによって複雑な動植物の構成が明確にされた。」
○ throw light on ～「～を明確にする」
○ influential [ɪnfluénʃəl]「影響を及ぼす」

（3）「1662 年にボイルはその後ボイルの法則として知られている法則に到達したが，その法則には気体の圧力と容積は逆比例するということが述べられている。」
○ arrive at ～「～に到達する」
○ since「以来ずっと」
known は generalization [dʒènərələzéɪʃən] を修飾する過去分詞。
○ known as ～「～として知られて」
○ inversely「逆に」
○ proportional [prəpɔ́ːrʃənl]「比例する」

（4）「エドモンド・ハレーは 1705 年に，1337 年から 1698 年の間に出現した 24 の明るい彗星についての研究書を出版した。彼は 1531 年と 1607 年と 1682 年の彗星は同じも

のであるとの結論を下し，その彗星が 1758 年に再び戻ってくることを予測した。」

○ predict ～「～を予言する」

（5）「レンの最初の偉大な業績は，1669 年に完成したオックスフォードのシェルドニアン・シアターであった。それは，当時の大規模な構造上の実験であった平らな屋根で覆われた古代ギリシア劇場様式の建物だった。」

○ take the form of ～「～の型をなす」

（6）「そこでケイトは私の目をまともに見て微笑みながら急いで立ち去った。」

○ look A in the eye「A の目をまともに見る」

○ hurry away「急いで立ち去る」

（7）「うぬぼれの強い人というのは，自分の価値をずっと高く見積もりすぎる。」

○ conceited「うぬぼれの強い」

○ have a high opinion of ～「～をよく思う」

○ far「ずっと」

too が「形容詞＋名詞」を修飾する場合は，通例 'too ＋形容詞＋ a〔an〕＋名詞' の語順をとる。

（8）「UN（国際連合）は可能な限りの方法で平和のために働いてきた。」

○ labor for ～「～のために働く」

○ sort ＝ kind

○ in ～ way「～の方法で」

【6】

A.

解答

（1） She kept silent for fear of being laughed at.

（2） The thick fog made it difficult〔hard〕to see the road.

（3） I don't think this is exactly the same color as that.

（4） He took off his gloves and put them into his pockets.

解説

（1）「彼女は…黙っていた」は she kept silent でよい。

「笑われるのを恐れて」の「～を恐れて」は，fear が与えられているので，for fear of ～とする。その後に「笑われること」を表す受動態の動名詞，being laughed at を続ければよい。

したがって，She kept silent for fear of being laughed at. となる。前置詞 at を付け忘れないこと。

（2）「～のために…なった」という日本文だが，The thick fog が文頭にくるという指示があるので，「濃霧が道路を見えにくくした」という無生物主語の構文にすることがわかる。

「道路を見えにくくした」は，it が与えられていることから，「道路を見ることを困難にした」と考えて，made *it* difficult〔hard〕to …の形にする。

したがって，The thick fog made it difficult〔hard〕to see the road. となる。

（3）「…ではないと思う」という日本文だが，これをそのまま英語にして I think（that）～ *not* …という言い方は普通しない。否定語を前に持ってきて，I do*n't* think（that）…とするのが原則。that 節内は肯定の形になる。

「～は…と同じ色だ」は，～ is the same color as …で表せる。

「完全に」は exactly が与えられているので，the same の前に置けばよい。

したがって，I don't think this is exactly the same color as that. となる。

（4）「手袋をぬぐ」は take off *one*'s gloves,「～をポケットに入れる」は put ～ in(to) *one*'s pocket(s) で表す。これらを過去形にして and でつなげばよいが，主語の he は後半では省略するのが普通。

また，「（ポケットに）入れる」の目的語の the gloves は代名詞 them に変える。

したがって，He took off his gloves and put them into his pockets. となる。

B.

解答

There was an Oriental bamboo growing sturdily in the garden. I was standing in one corner gazing at it nostalgically, when an elderly American woman said to me, "(a) I'm told that in Japan you eat bamboo. How do you ever eat something that hard?" I explained, "(b) It does sound strange that we should eat bamboo, but what we actually eat is the bamboo shoot boiled until it is quite tender." That seemed to satisfy her.

別解

(a) I've heard that you eat bamboo in Japan. How in the world do you eat something so hard?

(b) It may sound funny that we eat bamboo, but we actually eat the young shoots boiled until they are tender.

解説

(a) 日本文では「～と聞きますが，…」とあるが，英語では「日本では竹を食べると聞いている」「こんなに堅いものをどうやって食べるのですか」と２文に分けて訳すとよい。

前半の「…と聞いている」は，I hear（that）…，I（'ve）heard（that）…，I'm told（that）…，I understand（that）…などで表せる。その後に「日本では竹を食べる」という内容を続ければよいが，目の前にいる日本人に対しての発言と考えて，主語は you として，you eat bamboo in Japan〔in Japan you eat bamboo〕とする。

「竹」に当たる bamboo は不可算名詞として用いるのが普通で，ここでは特定の「竹」ではないので the は付かない。なお，bamboo というのは特殊な単語のように思うかもしれないが，西洋人が東洋を語る時に必ずテーマとして登場するほどポピュラーな単語である。

「こんなに堅いものをどうやって食べるのですか」の「どうやって」は「方法」なので，how で表して，How do you eat …? とすればよい。

「こんなに堅いもの」は something so〔that〕hard，a hard thing like this など。hard の代わりに tough でもよい。

また，日本文に潜在している「驚き」を表すには，how の直後に in the world〔on earth〕を付けるか，あるいは，you の後に ever を付けて，How do you *ever* eat …? としてもよい。

(b)「～というと変に聞こえますが，…」の骨格は，it sounds〔may sound；does sound〕strange〔funny〕that ～, but …とする。

「変」に対応する英語は strange，funny，odd のいずれでもよい。

「竹を食べる」「芽を柔らかく煮て食べる」の主語は，(a) の you に対して we とする。また，「芽を柔らかく煮て食べるのです」の部分は，「(あなたが思っているような竹ではなく，実際には) 芽を柔らかく煮て食べる」というニュアンスなので，相手の想像とは違うことを言ったり，相手の発言を訂正したりする時に，表現を和らげるために用いる副詞 actually を入れて，we *actually* eat ～〔what we *actually* eat is ～〕とすると，英文が生きてくる。

「(竹の) 芽」とは要するに「竹の子」のことで，英語では (the) bamboo shoot(s)〔sprout(s)〕という。ここでは bamboo の繰り返しを避けて，the shoots〔sprouts〕としてもよいし，意味をより明確にするために the *young* shoots〔sprouts〕としてもよい。

「芽を柔らかく煮て食べる」は「柔らかくなるまで煮られた芽を食べる」と考えて，eat the bamboo shoot boiled until it is tender とする。until 節内の動詞は be 動詞を用いるのが正しいとされているが，現代アメリカ英語では get(s) としても間違いではない。

【7】

解答・解説

(1) with〔for〕all ◆628［◆629］

○ with〔for〕all ～「～にもかかわらず」

○ with は「所有・所持」を表すので，後ろには必ず「所有することのできるもの」がくる。

(2) Compared with〔to〕 ◆631

○ (as) compared with〔to〕～「～と比較すると」= in comparison with ◆630

(3) According to ◆634

○ according to ～「～によれば」

(4) In addition to ◆635

○ in addition to ～「～に加えて」

(5) instead of ◆638

○ instead of …「…しないで」

(6) at，cost〔sacrifice；expense；price〕 ◆639

○ at the cost〔sacrifice；expense；price〕of ～「～を犠牲にして」

cf. at all costs〔at any cost〔price〕〕(是非とも；どんな犠牲を払っても) ◆640

(7) run〔take〕；risk ◆645

○ run〔take〕the risk of …ing「…する危険を冒す」
cf. at the risk of ～〔at risk to ～〕（命などをかけて；～の危険を冒して） ◆644

（8） once, while ◆646
○ once in a while「時々」= at times ◆650, at while；sometimes；on occasion(s) ◆648, occasionally；(every) now and then ◆649, from time to time)

（9） in time ◆653
○ in time「間に合って」

(10) on time ◆654
○ on time「時間どおりに」

(11) in advance ◆657
○ in advance「前金で」

(12) All, once ◆662
○ all at once「突然」= suddenly；all of a sudden ◆663

(13) no ◆665
○ in no time「すぐに；間もなく」
○「今からゼロの時間の後に」→「すぐに」

(14) time being ◆668
○ for the time being「当分の間；さしあたり」

(15) above all ◆671
○ above all (things)「とりわけ；何よりもまず」

(16) length ◆676
○ at length ①「詳細に；十分に」②「長い間」= for a long time ③「ついに」= at last

(17) long run ◆678
○ in the long run「長い目で見れば」

(18) next to〔all but〕 ◆680
○ next to ～「(否定的な意味の語とともに用いて) ほとんど」

(19) something ◆681
○ something of a〔an〕～「ちょっとした；かなりの」

(20) To, best ◆686
○ to the best of *one*'s ～「～の及ぶ限りでは」

3章　総合問題3

問題

【1】

解答

（1）ⓔ in　ⓗ for　ⓙ in　（2）**d**　（3）is finished

（4）自分に合った仕事を選び，働くということをいやなものでなくするため。(33 字)

（5）**d**　（6）10 人　（7）making idleness economically possible

（8）人々がいやいやながら仕事をしていること。

解説

（1）

ⓔ　in favor of ～「～を支持して」= supporting and agreeing with ～

Ex. She declared *in favor of* the proposal.（彼女はその提案に賛成の意を表明した。）

ⓗ　motive for ～と続く。

Ex. Hatred was his *motive for* attacking me.（彼は憎しみゆえに私を攻撃した。）

ⓙ　in view of ～ = considering ～；because or as a result of ～「～を考えると；～の観点からすると」

Ex. In view of the readiness she showed, all appeared to be forgiven.

（彼女がいそいそとした様子を示したことを考えると，何もかも許してくれたらしかった。）

（2）free = without cost or payment；available without change

（3）finish には come to an end の意の自動詞用法もあるが，ここでは自動詞として用いると，education そのものが終わってしまうことになる。他動詞として用いて人間の意志を入れないと意味が出ない。したがって is finished とする。

（4）全体の内容が読み取れていれば，「生活するためにやむなく仕事について，いやいやながら仕事をしないようにするために」ということが理解できるはずである。

○ be compelled to …

< compel O to … = force〔oblige〕O to …

○ work = do work, especially as *one*'s job

（5）bare = just enough；only just sufficient（最小限度の）

cf. the *bare* necessities of life = things needed merely to keep alive

earn a *bare* living = earn only just enough money to live on

（6）終わりの方に，at least nine out of ten が paid work で収入を増やそうとしていると筆者は書いているので，残りの 1 人ぐらいが遊んで暮らすことを選ぶと考えていることがわかる。

○ comparatively [kəmpérətɪvli] = relatively

（7）it は，making idleness economically possible で，この中に条件も含まれている。

（8） no community where most work is disagreeable から，逆に考えればよい。

○問題文には should がいくつも出ているので，should の用法を列記しておく。

1．義務・条理・当然などの意。ought to より，少々意味が弱い。

You *should* obey your parents.（両親の言うことに従わねばならない。）

He *should* arrive by noon, I think.（彼は正午までには到着するはずだ。）

You *should* have done it.（君はそうすべきであった（のにしなかった）。）

2．判断の根拠や感情の強調を表す節――It is natural〔proper；necessary；strange；wonderful；a pity〕…，I regret（wonder；am sorry）に伴う名詞節に。

It is natural that he *should* be〔is〕angry.（彼が怒るのも当然だ。）

It is strange that he *should* do〔does〕such things.

（彼がそんなことをするなんて不思議だ。）

3．勧告を示す。（婉曲・丁寧な言い方）

I *should* refuse a bribe.（私なら賄賂を断るね。）

I *should* think he is under forty.（彼は 40 歳にはなっていないと思う。）

4．決定・意向・命令・発議を示す節の中に。（米語では仮定法現在も用いられる）

It was decided that the boy *should* be sent to Europe.

（その少年をヨーロッパに行かせることにした。）

My father intended that I *should* be a scholar.（父は私を学者にするつもりであった。）

The king gave orders that the prisoner *should* be set free.

（王は囚人を釈放せよと命じた。）

全訳

教育は，16 歳まで，ひょっとしたらもっと長く義務とするべきである。それ以降は，生徒の選択で継続してもよいし，しなくてもよい。しかし，（教育を望む者に対しては）少なくとも 21 歳までは無料であるべきである。教育が終わっても，人は誰も働くことを強制されてはならない。そして働きたくない者は，生きていくための最小限度の手段は支給され，完全に自由に放任されるべきである。しかし，遊んでいることを選ぶのは比較的少数だけとなるように，働くことを是とする強い世論があるのが望ましいだろう。何もしないでいることを経済的に可能にするということの大きな利点は，そのことが働くことをいやなものとはしない強力な動機を提供することにある。大部分の仕事が不愉快だという社会は，経済問題の解決法を見出しているとは言えない。現在でさえ，投機によって（たとえば）100 ポンドの年収のある人のうち 10 人中少なくとも 9 人は有給の仕事をして収入を増やしたがっているという事実を考えれば，仕事をしない方を選ぶものは少数であろうと考えても理にかなっていると思う。

注

ℓ.1 ◇compulsory [kəmpʌ́lsəri] = that must be done because of a law or a rule

◇up to ～ = up until〔till〕～

◇perhaps = expressing uncertainty or possibility；possibly；maybe

※ perhaps，possibly，maybe は「可能性の低さ」を表す。以下参照。

可能性が高い順

1．always　（いつも）
2．certainly　（確かに）
3．very likely，most likely　（たぶん）
4．probably　（〃）
5．likely　（〃）
6．maybe　（ことによると）
7．perhaps　（〃）
8．possibly　（〃）
9．almost never；hardly〔scarcely〕ever（めったに…ない）
10．never　（決して…ない）

◇ it should be continued or（should）not（be continued）at the option of the pupil
○ at the option of ～「～の裁量で；～の随意で」
「自由意志」の at。

ℓ. 4　◇ livelihood ＝ a means of securing the necessities of life；living

ℓ. 5　◇ would は婉曲。
◇ a public opinion「世論」

ℓ. 6　◇ idleness ＜ idle ＝ without work
cf. lazy ＝ unwilling to work or be active

ℓ. 7　◇ making idleness　economically possible
V　O　C

ℓ. 8　◇ motive ＝ a reason for doing something
cf. motivation ＝ desire to do something
e.g. improve students' *motivation*（生徒のやる気を高める）
◇ not disagreeable
○ not は disagreeable を修飾する語否定。
○ disagreeable ＝ unpleasant or unenjoyable

ℓ. 10　◇ reasonable ＝ acceptable in a particular situation
◇ assume ＝ accept as true without proof

ℓ. 11　◇ out of ＝ from a particular number or set
◇ say（挿入語として）「例えば；まあ」
◇ investment ＝ the act of investing money in something
＜ invest ＝ put money into financial schemes, or property with the expectation of achieving a profit

ℓ. 12　◇ paid work「有償〔報酬のある〕労働」
＜ paid ＝（of work）for which people received money

【2】

解答

（1） **a**　（2） **d**　（3） **イ c**　**ロ a**　（4） **b**　（5） **b**

（6） **b**　（7） **a**

（8） (A)「**全訳**」の下線部（A）参照。

(B)「**全訳**」の下線部（B）参照。

解説

（1） 直後の to say that 以下は言葉と行動一般との対照。

（2） separate A from B（A を B から切り離す）

（3） **イ** speak〔walk〕*with* the skills（その技能を用いて話す〔歩く〕）

ロ we want to say it *to* someone（誰かにそれを言いたい）

（4） The baby who begins to talk, … has learned ～ that the sounds that …

S　V　O

bigger people は，ℓ. 24 の older people のことだから，「自分より大きい人々，自分より年上の人々」であって，「大人」とは限らない。

（5） 直前の２つの if 節（if this task which … a shot from a doctor）参照。

（6） beyond that は「さらに」の意味。ここでは「どれくらいの人数の子供たちが…」だけでなく，「どうやってそれが…」についても尋ねた，ということ。

（7） （8）(B) の解説参照。

（8）

(A) ○ not A but B「A でなくて B」

(B)

○ It（= The answer to this question）might show once again

that our most rapid, efficient, far-reaching, useful, and permanent learning

接続詞　S

comes from our doing things

V　{that *we ourselves* have decided to do},

関係代名詞

and

that < in doing such things > we often need very little help or none at all.

接続詞　S　V　O

※ we は「教育関係者」ではなく「一般の人々」である。

全訳

教育関係者は絶えず「技能」について語る。読む技能，書く技能，意思伝達の技能，さらには聞く技能についてさえもである。難しいことを上手くやる人はさまざまな技能を使っているというのは，言葉のレベルでは，本当かもしれない。しかし，このことは，難しい行動を教えるのに，それをできるだけ細かい個別の技能に分けて，それを１つずつ教えるのが最良だということを意味しない。何年か前にホワイトヘッド氏が言ったように，ある行動とそこに含まれる技能を分離することはできないのである。赤ん坊は，話す技能を習得してから

その技能を話すために使うことによって話せるようになるのではなく，また，歩く技能を習得してからその技能を歩くために使うことによって歩けるようになるのでもない。話すことによって話せるようになり，歩くことによって歩けるようになるのである。ためらいがちに最初の１歩を踏み出す時，赤ん坊は歩く練習をしているのではない。歩く準備をしているのでもない。後にどこかで歩くために歩き方を習得しているのでもないのだ。「今その時」，歩きたいから歩いているのである。それまでにすでに，歩くことを考え，頭の中で歩くことを達成し，歩き方がわかってもう歩けると確信している。そして今歩こうとしているのだ。

技能と行動とを分離することはできない。分離しようとすると悲惨な失敗をする。話すことは技能でも，技能の集合体でもなく，行動，すなわち，「行うこと」なのだ。行動の背後には目的がある。２歳でも 92 歳でも，話したいことがあって話したい相手がいるから話すのであり，自分の言葉によって事態が変わることを考える，あるいはそう期待するから話すのである。話し始める赤ん坊は，我々に言葉として聞こえる音声を赤ん坊が発するずっと前に，さらには，言葉を理解するずっと前でさえ，自分より大きな人々が口を使って発する音声が彼らがする他のことに影響を与えるということを，鋭い観察によって知ってしまっているのだ。「彼らが話す行為が，物事を生じさせる」のだ。それが一体何であるのか，どのように働くのかは，赤ん坊には正確にはわからないかもしれない。しかし，話をする自分より大きな人の仲間に自分も入りたい，「自分の」声で何かを生じさせたいと思っているのである。

同様に，歩くことも技能ではなく行動であり，そこには目的がある。赤ん坊は自分より大きな人が動いているのを見る時，自分も動きたいと思うのだ。しかも，彼らのように，素早く上手に動きたいと思うのだ。読むことも技能でなく行動である。子供は身の周りの書いてある言葉を見る。自分より年上の人々がその言葉を見て，それを使い，その意味を理解するのを子供は認識する。それらの言葉が，物事を生じさせるのだ。ある日（もし機会が与えられれば），子供はそれらの言葉が何と書いてあってどういう意味なのかを知りたいと決心し，また，自分には知る能力があるので，知ってやろうと決心する。「その瞬間，そう決心して，子供は読み始めるのである。」（A）子供は「読む方法を知り始める」のではなく「読み始める」のである。もちろん，最初はうまくはできない。単語１つ読むことさえできない。しかし，もし，（大半の子供たちとは違って，）そのことをし続けること，つまり，自分のやり方で，自発的に，本人が求めるだけの手助けで，書かれた言葉の意味を捜し出すことが許されれば，もし自分で決めた課題を取り上げられて，他の誰かによって作られてその人物の指示に基づいてなされる，多くの細切れで無意味な課題に取りかえられてしまうことがなければ，もし（多くの子供とは違って，）自分には書かれた言葉を理解するという，自分で設定したこの課題をする能力があるのではなくて，患者が医者から注射を打ってもらうように，教師から読み方を「教えられ」なければならないのだと大人から信じこまされることがなければ，もしとても運がよくて，こういう愚かしいことが何も起こらなければ，短期間で，ひょっとしたらわずか数カ月のうちに，子供は上手に文字を読んでいることだろう。

つい最近，私はさまざまな教育機関で読むことや読み方の指導に携わる多くの人々に手紙を書き，どれくらいの子供たちが自分の力で読めるようになったか，さらに，どうやってそうするようになったのかもしれないのかを調べる何らかの研究を知っているかどうか尋ねた。返事をくれたのは１人だけで，そのような研究の存在は聞いたこともないとのことだった。

それ以降私が尋ねた何百人もの教育関係者や読み方の専門家も同様の返事であった。最初は，専門家がこの疑問を抱かないのが不思議に思える。これは最初に持つべき疑問ではないだろうかと考えるかもしれない。しかし，よく考えると何の不思議もない。この疑問に対する答えは危険なものかもしれないからだ。(B) つまり，その答えは，最も素早く，最も能率的で，最も広範囲に及び，最も有益で，最も恒久的な学習は，やろうと自分で決意したことをやることから生まれ，そのようなことをやる上で，手助けはほとんど，あるいはまったく必要ないということを，改めて明らかにしてしまうかもしれないのである。

注

ℓ. 4 ◇ break A into B「A を B に分ける」
ℓ. 9 ◇ take *one*'s first hesitant steps「ためらいがちな足取りで第 1 歩を踏み出す」
ℓ. 11 ◇ work out ～「～を達成する〔解決する〕」
◇ convince *oneself* that …「…ということを確信する」
ℓ. 13 ◇ make a disastrous error「悲惨な失敗をする」
ℓ. 30 ◇ for *one*'s own reasons「自分自身の理由で」
ℓ. 31 ◇ with only as much help as he may ask for「彼が求めるだけの助けを使って」
ℓ. 32 ◇ fragmented「バラバラにされた」
ℓ. 33 ◇ on their command「彼らの指示に基づいて」
their = someone else
ℓ. 34 ◇ figure out ～「～を理解する」
ℓ. 37 ◇ a matter of ～
①「せいぜい～；多くても～」= no more than ～（少なさを強調）
②「およそ」= approximately
ℓ. 40 ◇ teach *oneself* to read「自分の力で読めるようになる」
ℓ. 41 ◇ Nor have any of the hundreds of educators and reading experts I have asked since.
= And none of the hundreds of educators and reading experts I have asked since have heard of any such research, either.
※ Nor = And ～ not …, either. で，文全体を修飾する否定の副詞である nor を文頭に出したため，疑問文の語順となっている。
ℓ. 44 ◇ on second thought「もう少しよく考えてみると」

【3】

解答

（1） (b)　（2） (b)　（3） (b)　（4） (c)　（5） (b)

解説

（1） far → long
○ as long as …「…さえすれば」
「ダイアナ妃が出てきた時，彼女を見ることができさえすれば，たとえ午後中ここで立っていなくてはならなくても構わない。」

as far as は‘範囲’を指定する表現。「～の場合にのみ」という‘条件’の意味は含まない。

○ care「構う」※否定文で用いる。

（2） he → it

「『西方の人』を書いたのは芥川龍之介でしたか，それとも太宰治でしたか。」

○ It is ～ who ….（強調構文）

（3） hanged → hung

「その画家がうろたえたことには，絵が逆さまに掛けられていた。彼が当惑したことには，誰もその誤りに気がつかなかった。」

hang（吊るす）の過去・過去分詞形には hung と hanged があるが，後者は「絞首刑にする」の意味でのみ用いる。

○ to ＋感情を表す名詞「…したことには」

○ dismay「うろたえ」

○ upside down「逆さまの」 *cf.* inside out（裏返しの）

○ embarrassment「当惑」

（4） hairs → hair

「１人で静かに鼻歌を歌い，幼いマリアの金髪を優しく指でかきながら，優しい母親は膝の上で眠る子を見つめていた。」

髪の毛を１本１本数える場合には複数形をとるが，それ以外は集合名詞として扱う。

○ fond「優しい」

（5） beside → besides

「我々にはシステムの改良について，これらの他にいくつかの他の提案がある。」

○ besides ～「～の他に」 *cf.* beside ～（～のそばに）

【4】

解答

（1） (a) Originate → Originating

（2） (c) great value → of great value

（3） (a) suggested me → suggested to me

（4） (d) informations → information

（5） (b) five times light → five times as light

（6） (d) completed → completing〔and completed〕

（7） (a) where → which〔that〕

（8） (d) would be → would have been

（9） (c) start → starting

（10） (a) it is difficult → difficult it is

解説

（1）「コーヒーはエチオピアで飲み始められ，17 世紀にヨーロッパに伝来する前にアラブ世界で飲まれていた。」

(a) Originate を分詞にして分詞構文としなければ，後続の coffee 以下の節とつながらない。

（2）「銅は，人間によって一番初めに用いられた金属で，優れた電気の伝導体であるために，現在でも非常に高い価値が置かれている。」

Copper（銅）は great value そのものではなく，great value があるものなので，「性質」を表す前置詞 of を用いて *of* great value と形容詞句にする。

（3）「大学を卒業したら仕事を開始したらどうだと父が私に提案した。」

suggest は SVO that …の構文はとれない。

○ enter on ～「～を開始する」

（4）「普通のクレジットカードには，1,700 の情報を保持することのできる磁気帯がある。」

information は不可算名詞。

（5）「マグネシウムはスチールの約 5 分の 1 の重さなので宇宙船や航空機に広く使われている。」

倍数表現は '… times *as* ～ as' で表す。

（6）「ニューヨークは 1870 年に初めて高架鉄道の運転を開始し，ボストンは 1897 年に路面電車を地下に移し，アメリカで初めて地下鉄を完成した。」

(d) の意味上の主語は Boston。よって Boston が最初のアメリカの地下鉄を完成したと能動の意味を表すべきなので，分詞構文にするならば現在分詞を用いなければならない。

○ elevated railway「高架鉄道」

（7）「アムステルダムは，運河があるために，『北ヨーロッパのヴェニス』と呼ばれている。」

(a) には導く節において副詞ではなく代名詞として働く関係詞が入る。

= Amsterdam is a town and it（= the town）is referred to as ～ .

（8）「運転手がもっと注意深かったら，この 1 年に起こった自動車事故のほとんどは防ぐことができただろう。」

Had the drivers been more careful は，if が省略されて疑問文の語順の倒置形となっている。元の形に直すと，If the drivers had been ～となり，仮定法過去完了であることがわかる。

（9）「すべて準備ができ，初めての海外旅行に出かけるのを楽しみにしている。」

○ look forward to …ing「…することを楽しみにする」 ※ to は前置詞。

(10) 「どんなに困難でも，あなたが帰って来るまでにすべての仕事が終わっているであろうことを約束する。」

○ No matter how 形容詞〔副詞〕S + V「いかに S が～であっても」（譲歩）

cf. No matter how S + V「どのように S が…しようとも」（様態・方法）

【5】

解答・解説

（1） ○

「君の幸運が羨ましい。」

envy は SVOO の文型をとる。

（2） speech の前に of が必要。

「衝撃が彼から言葉を奪った。」

○ rob A of B「A（＝人・物・事）から B（＝物）を奪う」

（3） ○

「彼はいつもファーストクラスで旅行する。」

first-class はここでは副詞として用いられている。

（4） with を削除。

「彼らは互いに似ている。」

resemble は他動詞。

（5） with を削除。

「彼はよく辞書を引く。」

○ consult ～「～を調べる」

（6） about を削除。

「私はその学生たちと世界情勢について討論した。」

discuss は他動詞。

（7） about を削除。

「ヘンリーは試験に落ちたことを言わないでくれと私たちに頼んできた。」

○ mention ～「～のことに言及する」

（8） after を削除。

「母猫は子猫より長生きした。」

他動詞用法の「～より長生きした」でないと意味をなさない。

（9） sympathized の後に with が必要。

「親切な貴婦人は，その貧しい少年に同情した。」

○ sympathize with ～「～に同情する」

（10） knocked の後に on または at が必要。

「私はドアを叩いた。」

「ノックする」の意では自動詞。

（11） more を削除。

「成長期の子供には，小さな町は大都市より望ましく思われる。」

prefer A to B（B よりも A を好む）の派生語である preferable（～より好ましい）は more の意を含む。

（12） as bad の後に as が必要。

「今年の冬の寒さは去年とほぼ同じか，あるいはよりひどくさえある。」

as ～ as …「…と同じくらい～」

(13) ought to の後に have が必要。
「先週末までに報告書を読んでおくべきだったのに。」
○ ought to have 過去分詞「…すべきだったのにしなかった」

(14) bus の前に the〔a〕が必要。
「老犬が通りを渡る時，バスにひかれた。」
交通手段としての「バスで」という意味では無冠詞でよいが，行為の主体を表す場合は冠詞が必要。

(15) liking の前に a が必要。
「彼女は日本史の勉強が好きだ。」
○ a liking for ～「～に対する好み」

【6】

A.

解答

（1） Didn't you hear me say "Stop"?
（2） What a dictionary says is not always right〔correct〕.
（3） He spoke so fast that I was unable to follow him.
（4） I〔We〕should have left earlier.

解説

（1）「～が聞こえなかったのか」は，Didn't が与えられているので，Didn't you hear ～？とすればよい。否定疑問文は，Yes の答えを期待する時に用いる。
「(私が) …と言ったのが聞こえる」の「私が」に当たる英語に目的格の me が与えられていることから，知覚動詞 hear を使った hear O …（O が…するのが聞こえる）という表現を用いることを思いつくはず。
したがって，Didn't you hear me say "Stop"? となる。

（2）「辞書に書いてあること」を表すのに，What と says が与えられていることから，動詞 say に「～と書いてある」の意味があることを思い出し，What a dictionary says とする。
cf. The newspaper *says* that it's going to rain today.
「常に正しいとは限らない」は，'部分否定' の not always を用いて，not always right〔correct〕とすればよい。
したがって，What a dictionary says is not always right〔correct〕. となる。

（3）「ひどく～ので，…なかった」という日本文から，so ～ that S（not）…の構文になる可能性をまず考える。
「彼はひどく早口だった」は，spoke が与えられているので，he spoke so fast とできる。
「～ので，ついていけなかった」は「私は彼の話についていけなかった」ということだから，～ that I could not follow him となるところだが，ここでは unable が与えられているので，～ that I was unable to follow him とする。

（4）「…すればよかった」という日本文で，should が与えられていることから，should have 過去分詞（…すべきだった）という表現を用いる。主語は１人称の I（we でも可）とする。

「出発する」は leave。したがって，I〔We〕should have left earlier. となる。

B．

解答

I was looking for a coffee shop to have a glass of iced coffee, but I can never find one when I am looking for it. Ordinarily I see them all over the place, but strangely enough, when I am really looking for one, there is not a coffee shop to be found.

別解 I was looking for a coffee shop to drink a glass of iced coffee. Coffee shops, however, are hard to find when I am looking for one. Normally, they seem to be all over the place, but amazingly, when I really want some coffee, they all seem to have vanished.

解説

第１文は「～を飲むために，私は…を探した」と考えて，不定詞の副詞用法を用いればよい。日本文では「～を探した」とあるが，次の文の内容から，I looked for ～ではなく，I was looking for ～とすべきである。

「喫茶店」は a coffee shop,「冷たいコーヒー（＝アイスコーヒー）」は iced〔ice〕coffee でよい。「冷たいコーヒーを飲もうと」は to have〔drink〕a glass of iced〔ice〕coffee とする。冷たい飲み物には a cup of ～は使わない。

第２文の「しかし」は ～ , but〔yet〕…，または，however を文中に入れる。

「探している時にはなかなか見つからないものだ」の主語は，第１文を受けて I とするか，一般論と考えて you とするか，または「喫茶店」を主語にすることも可能。I〔you〕を主語にすれば，I〔you〕can never find one〔a coffee shop〕when I am〔you are〕looking for it,「喫茶店」を主語にすれば, coffee shops are hard〔difficult〕to find when I am〔you are〕looking for one となる。

「探す」を find out とはしない。find out は「情報」「解答」などの抽象的目的語をとり,「具体的な物」を見つける場合には find を用いる。

第３文の「普段は」は normally，ordinarily として，文頭（または文末）に置く。

「やたらと目につく」は，I〔you〕を主語にすれば，I〔you〕see them all over the place〔everywhere〕。その前に coffee shops ではなく a coffee shop を用いていても them で受けることは可能。coffee shops を主語にすれば，they seem to be〔appear〕all over the place〔everywhere〕となる。

「不思議なことに」は amazingly，または，strangely enough。

「そういう時にはまるで…ようにない」の「そういう時」とは,「喫茶店を探している時」「（どうしても）コーヒーを飲みたい時」のことだから，when I am〔you are〕really looking for one，when I〔you〕really want some coffee のように表す。

「まるで町から消えてしまったようにない」は，そのまま英語にすれば，they all seem to have vanished〔disappeared〕(from the town）となるが，この部分は要するに「喫茶店が

１軒も見つからない」という内容を伝えればよいので，「町から消える」という日本語にとらわれずに，there is not a coffee shop to be found のように訳すと，前の文とのつながりが自然な英文になる。

【7】

解答・解説

（1） at a distance ◆687
○ at a distance（from ～）「（～から）少し離れて」

（2） other words ◆694
○（to put it）in other words「言い換えれば」

（3） particular ◆697
○ in particular「特に；とりわけ」

（4） In general ◆698
○ in general「一般に；概して」

（5） in public ◆699
○ in public「人前で；公然と」

（6） in turn ◆703
○ in turn「今度は；同様に」

（7） in vain ◆706
○ in vain「無駄に；むなしく」
○ dissuade A from ～「A に～を思い止まらせる」

（8） out of order ◆707
○ out of order「調子が悪くて；故障して」
○通常は「公共物」に用いる。

（9） in person ◆711
○ in person「自分で；自ら」

（10） by accident〔chance〕 ◆715
○ by accident〔chance〕「たまたま」

（11） at a loss ◆719
○ at a loss「途方に暮れて」

（12） at will ◆724
○ at will「思いのままに；自由に」
○問題文は目的語が文頭に出た形。
○この at は「自由意志の at」と呼ばれるもの。

（13） first sight〔a glance〕 ◆725
○ at〔on〕first sight「一目で」

（14） first hand ◆726
○ at first hand「直接に；じかに」

（15） my disposal ◆727

○ put ～ at *one*'s disposal「～を…の自由処理にまかせる」
○この at も（12）と同じ「自由意志の at」。

（16） as such ◆734
○ as such「そういうものとして」

（17） matter of course ◆735
○ as a matter of course「当然」

（18） your guard ◆739
○ on *one*'s guard「見張って」

（19） on end ◆742
○ on end「続けて；立て続けに」

（20） for one ◆745
○ for one「（I, for one, … の形で）個人的には」
○ be to blame for ～「～に対して責任がある」

4章　総合問題4

問題

【1】

解答

（1）　not less definite than any other urge of ours〔any urge of ours〕

（2）　ⓑ　in　　ⓕ　in　　ⓙ　with

（3）　**d**　　（4）　①　curious　　②　inquisitive　　（5）　接続詞

（6）　other people's affairs　　（7）　the reports of a divorce suit　　（8）**b**

解説

（1）　as ～ as any … の型は，原級を用いているが，内容的には最上級を用いたものと同じになるという俗説があるが，真実は異なる。

Mr. Nakano is as tall as any student in the class. は

Mr. Nakano is one of the tallest of all the students in the class.

と書き換えられることからもわかるように, as ～ as any … は「どの…にも劣らず～；非常に～」の意味である。

したがって本問を

more definite than any other urge of ours

と解釈するのは正しくない。

one of the most definite of all our urges

と書き換えれば正しいのだが，これは最上級を用いているので，比較級を用いて，という条件に反する。

比較級を用いれば,

not less definite than any other urge of ours となる。

（2）　ⓑ　be absorbed in ～（～に専念している；～に夢中である）の前置詞 in が，関係代名詞の使用によって，前方にシフトされたもの。

ⓕ　interest の次にくる前置詞は，名詞として用いられている場合も in。

Ex. I have no *interest in* politics.（政治には何の興味も持っていない。）

ⓙ　identify *oneself* with ＝ regard *oneself* as showing the same characteristics or thinking as（someone else）

（3）　ここは，まず受動態でなければならないことに着目すること。

時制が現在であることは，前後の文章によってわかるので，is said か is being said であることがわかる。

文法的にはどちらも可能であるが，ここで最も適当なものといえば，臨場感を十分に出す is being said である。

is said は，客観的表現で，心がおどるような感情は表現されていない。

is being said の方は，感情的表現で，「一体何を話しているんだろう」と心をうずう

ずさせている様子が目に浮かぶ。

○感情的表現について：

普通，文法書には，「現在進行形が always，constantly などの副詞を伴って常習的行為をある種の感情を込めて表現するのに用いられることがある」と説明されて，

He is *constantly complaining* of the cold.（彼はいつも寒気がするとこぼしている。）

You are *always doubting* my word.（君は私の言うことをいつも疑ってばかりいる。）

のような例文が挙げてあるであろう。

現在進行形が，常に感情を表現しているとは限らないが，小説や，軽いエッセイを読む場合には，constantly とか always が付いていなくても，一応は，話者の感情表現ではないかと疑ってみる必要がある。

例えば「今何をしているの」を，ごく平坦に

What are you doing?

と尋ねられて

I am studying.

と，これも普通に答える場合もあるが，文全体の調子，筆者の気分などを追って行くと，どうしても，

What *are* you doing?（一体何をやっているんだ。）

I *am* studying.（勉強だい，わかっているじゃないか。）

と訳さねばならないことも非常に多い。

よく「行間を読む」と言われるのは，このような，筆者なり，話者なりの感情の起伏を読み取ることも意味しているわけである。

次の各文を感情表現と仮定した場合，どう訳せばよいか，考えてみよう。

イ．What *were you opening* the window for?

ロ．I *have been paying and receiving* calls almost every day.

ハ．I must *be saying* good-bye.

ニ．I *am constantly forgetting* people's names.

イ．「何のために窓を開けようとしていたんだ。」（そんな必要なかったんじゃないか）

ロ．「毎日人が訪れたり，人を訪れたりしてきた。」（慌しい人生だなあ）

ハ．「もうそろそろおいとましなくてはなりません。」（急がなくては）

ニ．「いつも人の名前を忘れてばかりだ。」（困ったものだ）

（4） curiosity と inquisitiveness とは同意語であるが，inquisitiveness の方は「ねえ，どうしたの」「何なの」とついつい尋ねてしまうような好奇心を指す場合が多い。

つまり，ここでは curiosity という，冷静な好奇心一般の話題から，具体的な事例に話を移して，感情的な好奇心を示す inquisitiveness を用いていることを読み取ってほしい。このため，②の方は「せんさく好きの」の意の inquisitive がふさわしい。

（5） that は，以下が文として成立しているので同格の名詞節を導く接続詞。関係代名詞ではない。

Ex. She gave him a hint *that* she would like him to leave.

（6） theyはすぐ前のother people's affairs を指す。「無生物主語＋ concern ＋人」の型に注意。

Ex. That does not *concern* me at all.

He was not *concerned* with〔in〕the crime.

（7） they は the *reports* of a divorce suit を指す。

（8） pure ＝ mere；nothing but

全訳

好奇心というものは，我々の衝動の中で最も明瞭なものの１つである。我々は，封のしてある電報の中身とか，自分以外の誰かが夢中になっている手紙の中身とか，電話ボックスの中の会話や低い声で交わされている会話の内容は何だろうと思ってしまう。このようなせんさく好きは，嫉妬とか，疑念とか，我々自身が直接的にせよまたは間接的にせよ関係しているのではないかという気持ちとかによって，大いに刺激を受ける。しかし，他の人々の事柄が，解き明かされるべき謎，あるいは単に語られるべき話として以外には我々に関係がない時でさえ，それらのことにかなりの個人的興味があるように思われる。離婚訴訟についてのいろいろな情報は，何週間にもわたっていわゆる「報道価値」があるものである。そのような情報で，小説，芝居，映画のように，１つのストーリーができる。しかしながら，これは，単なる好奇心を示す例というものではない。というのも，我々はすぐに他人と共鳴してしまい，そうすると，彼らの喜びや絶望は，我々のものになってしまうからである。

注

ℓ.1 ◇curiosity ＝ a strong desire to know or learn something

◇definite ＝ clearly real or true

◇urge ＝ a strong desire or impulse

◇wonder ～ ＝ feel curious about ～；desire to know ～

◇seal ＝ close an envelope, etc. by sticking the edges of the opening together

ℓ.2 ◇be absorbed in ＝ be very interested in（something or somebody）so that you are not paying attention to anything else

ℓ.3 ◇low ＝ not high；not loud

◇inquisitiveness [ɪnkwízətɪvnəs]

＜ inquisitive [ɪnkwízətɪv] ＝ unduly curious；asking too many questions and trying to find out about what other people are doing, etc.

◇vastly ＝ very much

◇jealousy ＝ a feeling of being jealous

＜ jealous ＝ feeling angry or unhappy because you wish you had something that somebody else has

※ envy ＝ the feeling of wanting to do in the same situation as somebody else；the feeling of wanting something that somebody else has

※ envy は jealous と異なり，陰湿ではない。

◇suspicion [səspíʃən] ＝ a feeling that somebody has done something wrong；illegal or dishonest, even though you have no proof

ℓ.4 ◇hint ＝ a slight or indirect indication；a very small trace

◇ be involved = be or become occupied（in something）; be engaged（in an emotional or personal relationship）

◇ there appears to be a fair ～ … there is a fair ～ の is の所に appears to be が組み込まれたもの。

○ fair = considerable in size or amount

ℓ.6 ◇ except as ～「～として以外は」

◇ unravel = investigate and solve（a mystery or puzzle）

◇ a divorce suit「離婚訴訟」

○ suit [súːt] = lawsuit ; a claim or dispute brought to a law court for adjudication（裁決）

◇ will（習性）

ℓ.7 ◇ news value「報道価値」

◇ constitute = be（a part）of a whole

◇ play = a dramatic work for the stage or to be broadcast

◇ moving picture = a motion picture

【2】

解答

（1） **c**	（2） **a**	（3） **c**	（4） **b**	（5） **a**	（6） **c**	（7） **b**
（8） **a**	（9） **b**	（10） **c**	（11） **a**	（12） **b**	（13） **c**	（14） **b**
（15） **a**	（16） **b**	（17） **c**	（18） **b**	（19） **a**	（20） **c**	（21） **b**
（22） **c**	（23） **a**	（24） **d**	（25） **c**	（26） **b**	（27） **a**	（28） **a**
（29） **d**	（30） **b**					

解説

（1） 設問箇所の後の them to learn に注目すれば，ここは V + O + to … の形になっているとわかる。この them は不定詞の意味上の主語で，文脈から前の different species であると考えられる。**a** の let は to … をとらないし，**b** を選んで promise them to learn from others とすると，「他のサルから学習することを異なる種に約束する」という不自然な意味になる。**c** enable を入れて「彼らが他のサルから学習することを可能にする」とすればこの段落の趣旨に沿った内容になる。正解は **c**。

（2） 「（正式な実験によって裏付けられる）野生の大型類人猿を観察することによって得られる強い印象」というのは，後の observational learning などからもわかるように「彼らには他者を観察することによって他者から学ぶ能力がある」ということだと判断できる。したがって **a** の capable を入れて，they are capable of learning by … とすればよい。正解は **a**。

（3） *for* that matter で「そのことなら；いやさらに言えば」という意味を表すイディオムになる。ここは「野生のオランウータンだけでなくさらに広くアフリカの大型類人猿も」というつながりになっている。正解は **c**。

（4） 設問箇所を含む文は「社会的なインプットはまったくないが，必要とするあらゆる庇護と食べ物は…されて成長する，ある個体を考えてみてほしい。」という意味。この思考実験は，social inputs の重要性を認識するためのものなので，生育に必要なその他の条件は整えた上で social inputs だけを与えない場合どのように成長するかをイメージするという流れになると考えられる。したがって正解は **b**　provided。without any ～（～なしで）に対して yet（けれども；しかし）と逆接で続いていることからも，「ある；与えられる」といった肯定的な内容が続くと予想することができるだろう。

（5） 主節が it（= the skill）will disappear when she dies（彼女が死亡すればそれは消えてしまうだろう）となっているので，従属節は「彼女の技術が次世代に伝えられなければ」という‘条件’でなければ不自然。否定の意味を含んだ **a** が正解。

（6） ここは，「子供たちが…する前しばらくの間，母親と一緒に暮らす状況を想像してほしい。」の意だが，「しばらく母親についている」状況の「後」はどうなるかを考えれば，on *one*'s own（独立して；自力で）というイディオムを作る **c**　on が正解と判断できる。strike out on *one*'s own で「自活する；独り立ちして行動する」の意になるので覚えておきたい。

（7）「このプロセスは一般的に発達の仕方が緩やかで，少なくとも片方の親と子供の関係が長く続く種で…する」とある。「このプロセス」とは前文で述べられている「技術伝承の過程」である。直前の take と共に「生じる；起こる」の意味を表すイディオムを作る place を入れれば文意が自然につながる。正解は **b** である。

（8） この文の中ほどの more … than ～ と，後半にある because in such a society, ～ 以下で示される理由がヒント。「社会として寛容な群れで暮らす発達の仕方が緩やかな動物に対して，自然淘汰は革新的なことを始める能力がわずかに向上することよりも，観察を通して学習する能力がわずかでも向上することにより強く…する傾向にあるだろう。なぜなら，そのような社会では現在の世代と過去の世代双方に個体は依存することができるからである。」「社会として寛容な群れ」とはつまり，付き合い方の許容度が高い社会とも言えるので，「革新的なことを始める能力」と「観察を通して学習する能力」を比較した時，前者よりも後者が重んじられると推論するのが理に適う。**a** の reward（～に報いる）が正解。

（9） 文頭の「この新しい仮説」と of 以下の「そんな仮説でも立てないと訳のわからない現象」との関係を検討する。後述の内容から，その「現象」とは人間が育てた大型類人猿の驚異的な知能だとわかる。前の段落で述べられているこの仮説はこうした現象を説明するものであるから，この仮説に従って考えればこうした現象の意味が通るという意味にすればよい。したがって，**b** が正解。

（10） ここも前問の内容と関連がある設問だが，大型類人猿の驚くべき技能習得能力の具体例が列挙されているわけだから，ここはその能力を賞賛するような内容でないとつじつまが合わない。よって，**c** の effortlessly（楽に；たやすく）を入れて，「複雑な行動をいとも簡単に模倣しながら（人間と同じような文化的環境で育てられた類人猿は驚くべき一連の技能を獲得した）」とすればよい。

(11)　まず，Though *they*（= these consistently replicated cases）*are* often dismissed … と省略を補って考える。前の部分で示されているような，類人猿たちの高い認識能力を明らかにするさまざまな「実例」が，「科学的な厳密さに欠けていると…されることが多い」という流れなので，dismiss A as B（A を B として退ける）の形を使えばよい。したがって正解は **a** である。

(12)　後ろにある the richest food が makes の目的語になっているので，空所には make O C の C に当たる語が入ることに注意する。「オランウータンやチンパンジー，そしてオマキザルの観察を通じて，このような道具の使用が動物たちの自然の生息地で最も豊かな食べ物を…にし，食べ物が少ない時期を何とか切り抜けるのに役立つこともあることを示しているからである」ということなので，**b**　available（入手可能な）が適切。

(13)　「同じ種の異なる個体間で知的能力に劇的な差が生じる可能性がある」のは，「育った社会的環境」次第であることは，次の段落に記述がある野生と動物園という２つの社会的環境を比較すれば容易に納得できる。よって，**c**　depending（on）が正解となる。

(14)　「今のところわかっている野生の観察記録によれば，献身的な野外研究者による何十年もの骨の折れる監視（　　）…」の意。文脈から「～にもかかわらず」の意の前置詞 **b**　despite が正解。**a** と **c** はいずれも接続詞なので後ろには S + V の形が続くことになる。

(15)　「野生状態で捕獲された個体は，一般的に言って，檻に閉じこめられることに…することはない。」の意。ここは消去法で考えよう。**b** の add to ～ は「～を増す」という意味で文脈に合わない。また，**c** の hate は自動詞として用いることはあまりないし，否定語 never が前に置かれているので，「檻に閉じこめられることを決して嫌がらない」となり，文脈にもそぐわない。**a**　take to ～（～に順応する）が正解。

(16)　adopts の目的語である innovations を修飾する過去分詞を選ぶのだが，「構成員によって<u>導入された</u>革新を取り入れる」とすれば意味的に自然につながるので，正解は **b**　introduced となる。**a**「変更された」や **c**「認められない」では不自然。

(17)　… vary so much と so が出てきたところで，so ～ that … 構文の可能性を考えてみる。文脈から考えても，「動物は血統が異なると感覚や生活様式が<u>非常に異なるので</u>，知的能力を測る唯一の尺度を見出すのは，伝統的にとても困難である。」となり自然につながる。正解は **c**。

(18)　サルや類人猿，クジラ目の動物，ゾウなどの知能の高い哺乳類にとって social learning（社会的学習）がどのような行為であるかを考える。文化つまり社会的学習が知能を高めるというのが本文全体のテーマであるから common（日常当たり前の）を入れれば文脈に合う。正解は **b** である。なお，lineage は「血統」のこと。

(19)　前にある形容詞 consistent とつながる前置詞を選ぶ。正解は **a**　with で be consistent with ～ で「～と一致した〔矛盾しない〕」の意。

(20)　この段落では，動物の知能進化の理由解明をさらに具体的に発展させて，集団行動・道具製造・戦略構想について説明している。「集団行動」が「さらに緊密な相互依存」を促進するとすれば「道具製造や戦略構想」は「さらに多くの革新」を促進すると考

えるのが筋道立っている。したがって, **c** の innovation が正解。**a**「供給」や **b**「自立」では文脈に合わない。

(21)「～がなければ非常に知能の高い種の出現は不可能であろうことが，この論説文から推量できる。」

a「生活様式に道具の使用を導入すること」

b「他の者が創案した技術を観察によって学ぶ能力」

c「社会的学習について思考実験を行うこと」

d「生き物と彼らを取り巻く世界との相互作用」

第１，２，８段落のそれぞれ第１文，さらには最終段落最終文などから，知能の発達のためには「他者の存在」や「模倣」が重要であるとわかる。したがって正解は **b**。

(22)「第２段落の “fend for themselves” という表現の意味は何か。」

a「困難を乗り越えるために同じグループの中で互いを助け合う。」

b「危険から身を守るために行動を起こす。」

c「他の誰からの助けにも頼らずに，自分のことは自分でする。」

d「自分自身が生き残るために上の世代と競争する。」

前文の「社会的情報は一切与えられずに成長するが，必要とするあらゆる庇護と食べ物を与えられている」という状況と似ている状況であること，および after they emerge from the nest とのつながりから，**c** が正解だと推論できる。fend for *oneself* は「自活する；独力で生活する」。

(23)「第３段落にある “it would get a strong boost if several individuals form socially tolerant groups” という記述で，筆者は何を示唆しているのか。」

a「お互いにとって役に立ち，お互いに対して親切な群れにおいて，若者は有用な技術をよりうまく学習することができる可能性が高い。」

b「母親と幼児の相互依存度があまりに高いと，新しい技術の伝達を強く阻害する。」

c「密接に結び付いた家族はその子孫の知能増強をより効果的に行う可能性がより高い。」

d「新技術を学習するプロセスは，子供がとても早く知能を発達させるのを助長する傾向がある。」

設問箇所は「数匹の個体が社会として寛容な群れを形成すると，このプロセスは強力に後押しされるだろう」の意。コンマの前の，long association between at least one parent and offspring と対比して示される条件として，several individuals form socially tolerant groups があり，母子間の技術伝達だけよりも，群れが構成されて模倣する機会が多い方が，技術伝達が後押しされるということを述べたものである。その推論は第４段落で裏付けられている。この趣旨に沿った **a** が正解となる。

(24)「第５段落にある “enculturated” という語の意味は何か。」

a「人間の文化に対してとても好奇心の強い。」

b「雑多な文化の中で生きる。」

c「偶然生きたまま捕らえられた。」

d「人間と同じような文化的環境で育てられた。」

These so-called enculturated とあるが，これは前文の people reared great ape infants as they would（rear）human children と同じ内容であるから，正解は **d**。

(25)「第５段落で，enculturated（＝人間と同じような文化的環境で育てられた）類人猿について言及されているのは…ということを明らかにするためだ。」

a「類人猿は野生で生き延びるために必要とされる以上の知識と技術を持つ」

b「類人猿は人間の言葉を理解できるほど知能が高い」

c「文化が，霊長類の知能が進化する手掛かりである」

d「生物学者にとって人間の進化の複雑さを正しく理解することはとても難しい」

第５段落では類人猿の驚くべき技術習得について実例が列挙されており，人間と同じような文化的環境で育つことが知能の進化にとって重要な要素であることがわかる。したがって正解は **c**。

(26)「第６段落にある “tides the creatures over during lean periods” という表現の意味は何か。」

a「危険な季節の間，生き物に避難所を与える。」

b「食べ物が十分でない時に生き物が生き延びるのに役立つ。」

c「冬の間寒さから生き物を守る。」

d「健康状態が悪い時に生き物を養う。」

tide ～ over は「～に困難を切り抜けさせる」，lean は「貧しい；収穫の少ない」の意味だが，いずれもあまりなじみのない語かもしれない。道具使用の利点として，最も豊かな食べ物を入手可能とすることと並列で述べられていることから，食べ物が少ない時期にもそのわずかな食べ物を入手し生き延びることを可能にするといった内容であると推測できる。正解は **b** である。

(27)「第８段落で仮説が～と考えていることを暗に意味したいために，筆者は “critical” という語を使っている。」

a「重要である」

b「見当違いである」

c「人気のある」

d「不合理である」

critical は extremely important という意味で，自分の仮説の中でも最も重要なポイントを示す意図が見て取れる。正解は **a** である。crucial には「極めて重要な；必須の」の意味がある。

(28)「第 10 段落にある “the remarkable bootstrapping ability of the great apes in rich cultural settings makes the gap seem less formidable” という記述が，暗示することは何か。」

a「大型類人猿と我々の祖先との間に存在する知能の差は見かけほど大きくない。」

b「豊かな文化的状況における彼らの驚くべき偉業から判断すると，大型類人猿は高度な知能を得る無限の可能性を持つ。」

c「豊かな環境で暮らす大型類人猿と野生の大型類人猿との才能の差は，たとえあるにしても少ない。」

d「我々の祖先だけが知能が最も高度に発達した段階に到達したことを考えると，大型類人猿とホモサピエンスとの知能の差はかなりのものである。」

設問箇所は「豊かな文化的環境の中で大型類人猿が示す自らを向上させる素晴らしい能力を知ると，我々と彼らの間の隔たりが大きなものではないように思えてくる」の意。第５～８段落では，類人猿の驚くべき潜在能力を示す数々の実例を挙げて，「豊かな文化的環境」さえ与えれば類人猿の知能も人間並みに向上すると示唆しているのだから，正解は **a** である。

(29)「この論説文によれば，以下の記述のどれが正しいか。」

a「オランウータンの観察が明らかにするところでは，スアク以外の自然界でも貴重な技術的偉業の徴候がある。」

b「社会的情報のインプットが知能のさらなる進化において主要な役割を果たしていることを生物学者はついに証明した。」

c「文化を通じて知能を獲得するという仮説は，動物園で生まれた類人猿が飼育人の活動をまねすることができるという証拠によって，誤りだと証明された。」

d「新しい革新をする傾向と社会的学習をする傾向は一緒になって同時に発達したと推測しても差し支えないように思われる。」

a は，第７段落第３文の記述から正しくないとわかる。**b** は，思考実験として挙げられているのみで「証明した」とは述べていない。**c** は，第７段落に「飼育係を手本にする」という記述はあるが，このことは文化を通じて知能を獲得するという仮説が誤りであることの証拠にはならない。第９段落第１文の記述を言い換えた **d** が正解。

(30)「最終段落の “Culture can indeed build a new mind from an old brain.” という記述によって，筆者は以下のいずれを恐らく言おうとしたのか。」

a「石器時代の頭脳が野生の世界を文化的世界に変貌させた。」

b「文化によって初期の『ヒト』がホモサピエンスへと進化できた。」

c「人間の文化は，新しい思考様式によって最高潮に達した。」

d「文化は技術爆発を促進する力がある。」

本文全体の結論に当たる文で，第１段落第１文の内容に帰結する。したがって **b** が筆者の主張の核心だと推論するのが適切である。

全訳

オランウータンについての我々の分析が示唆するところだが，文化は，つまり特殊な技能の社会的学習は，知能の発達を促進するばかりか，やがて群れ全体の知能をますます進化させるのに有利に働く。他の個体から学習することを可能にする仕組みは種によって大きく異なるが，正式な実験によって，野生に生きる大型類人猿たちを観察する中で得られる強烈な印象が裏付けられる。すなわち彼らには，他の個体がすることを観察することによって学習する能力が備わっているのである。例えば，野生のオランウータンが，さらに言えばアフリカの大型類人猿も，認識的に複雑な行動を上手にやる場合には，彼らは観察に基づく学習と各自の練習という組み合わせを通して，この能力を獲得したのである。それは人間の子供が自分の技術を蓄積するのとほとんど同じである。そしてスアクのオランウータンが，どこか他の場所で暮らす，あまり幸運に恵まれていないオランウータンよりもこうしたコツを多く

身に付けているとすれば，一生を通じて社会的学習の機会がより多くあったからそうなったのである。手短に言えば，社会的学習によって動物の知的能力はさらに高度な水準へと達するのかもしれないのである。

さらに高度な知能への進化にとって，社会的なインプットが重要であることを正しく認識するために，ある思考実験を行わせてもらいたい。社会的なインプットは一切与えられずに成長するが，必要とするあらゆる庇護と食べ物を与えられているある個体を考えてみよう。この状況は世代間の接触が一切ない，あるいは若いサルが親元を離れた後自活する状況に等しい。今度はこの種のメスが役に立つ技術，例えば木の実の殻を開けて滋養に富んだ果肉を取り出す方法を考え出したとしよう。そのメスは恵まれた生活を送り，おそらくその群れの他の個体よりもたくさんの子供を持つだろう。しかし，もし彼女の技術が次世代に伝えられなければ，その技術は彼女が死んだ時に消滅するだろう。

さて次に，子供たちが自立する前しばらくの間，母親と一緒に生活する状況を想像してみよう。大部分の子供は母親からその新しい技術を学び，その結果それを，さらにはそれに付随する利点も，次世代へ伝えていく。このプロセスは一般的に，発達の仕方が緩やかで，少なくとも片方の親と子供の関係が長く続く種で生じるが，数匹の個体が社会として寛容な群れを形成すると，このプロセスは強力に後押しされるだろう。

もう一段階，思考実験を先に進めよう。社会として寛容な群れで暮らす発達の仕方が緩やかな動物に対して，自然淘汰は革新的なことを始める能力がわずかに向上することよりも，観察を通して学習する能力がわずかでも向上することにより多く報いる傾向にある。なぜなら，そのような社会では現在の世代と過去の世代の双方に個体は依存することができるからである。そうした場合，動物がより革新的になり，社会的学習の技術をより向上させることができるフィード・フォワード・プロセスが起こることが考えられる。それは２つの能力がよく似た認知メカニズムに依存しているからである。それゆえ，文化的であることが革新的能力を多少とも持つ種をより高い知能へと進化させる傾向があるのである。もしそうなら，このことは，認知的な進化について私たちに新たな説明となるものである。

このような新しい仮説により，こうした仮説でも立てないとよくわからない現象を理解できるようになる。過去１世紀の間何度となく人々は，まるで人間の子供を育てるかのように，大型類人猿の子供を育ててきた。こうしたいわゆる人間と同じような文化的環境で育てられた類人猿は，複雑な行動をいとも簡単に模倣しながら，驚くべき一連の技能を獲得した。例えば指さしを理解したり，さらには人間の言葉までも少しは理解し，愉快ないたずら者になり，線画を描いたりしている。より最近の事例としては，ジョージア州立大学のＥ．スー・サビジ・ランボーが行った実験のような公式のもので，これはボノボのカンジを参加させたものだが，驚くような言語能力を明らかにしたのである。これらの首尾一貫して繰り返される実例は，科学的な厳密さに欠けているとして退けられることが多いけれども，大型類人猿の中に眠っている，驚くべき潜在的認知能力を明らかにする。ジャングルの中での複雑な生活を我々人間は完全に正しく理解してはいないかもしれないが，人間と同じような環境で育てられたこれらの類人猿はジャングルでの生活に全く必要ない技能が身に付いてしまっていると思う。人間の進化の物語を要約するプロセスの中で，人間と同じように育っていく類人猿は，その野生の仲間たちのいずれよりも，高い認知力の高みへと登ることができる。

同じ考え方に沿っていけば，なぜ捕獲された霊長類の多くが，すぐに道具を使ったり，時には道具を作り出したりもするのかという長年の謎も解決される。野生の仲間たちがそのような衝動はまったく持っていないのに，である。彼らは道具を必要としていないという示唆もよく耳にするが，これはオランウータンやチンパンジー，そしてオマキザルを観察すれば偽りだとわかる。観察を通してこのような道具の使用が，動物たちの自然の生息地で最も豊かな食べ物を入手可能にし，食べ物が少ない時期を何とか切り抜けるのに役立つことがあるとわかるからである。同種の２つの個体でも，育った社会的環境次第で，その知的能力に劇的な差が生じ得ることをはっきりと理解すれば，この難問は解決される。

オランウータンが，この現象を具現している。彼らは動物園から逃げ出す名人として知られている。檻の扉に付けられた錠を器用に外して逃げるのである。しかしながら，今のところわかっている野生の観察記録によれば，献身的な野外研究者が何十年も骨の折れる監視を続けているにもかかわらず，スアク以外では貴重な技術的偉業はほとんど明らかになっていない。野生状態で捕獲された個体は，一般的に言って，檻に閉じこめられることに順応することはない。彼らは奥深くに根付いている臆病さと人間に対する警戒心をずっと持ち続けているのだ。しかし，動物園で生まれた類人猿は喜々として飼育人を貴重なお手本だと考え，彼らのいろいろな活動に関心を持ち，囲いの周辺に撒き散らされているさまざまな物体にも注意を払う。そうして学習する習慣を身に付け，その結果たくさんの技能を蓄積するのである。

文化を通じて知能を獲得するという仮説における極めて重大な予測は，最も知能の高い動物は，やはり日常的に群れ全体がその構成員によって導入された革新を取り入れる，そのような個体群の中で生活している可能性が高いということである。この予測を検証するのはたやすいことではない。動物は血統が異なると感覚や生活様式が非常に異なるので，知的能力を測る唯一の尺度を見出すのは伝統的にとても困難である。今のところ，明白な知能の証拠を示す血統はまた革新を土台にしている文化を保有するのか，そしてその逆もまた同じなのか，を問うことしかできない。例えば，鏡に映った自分自身を認識することは，あまり理解されてはいないが，紛れもなく自己認識の証拠であり，高い知能の証拠だと考えられている。これまでのところ，多くの種族における幅広い試みにもかかわらず，この知能検査に合格する哺乳類は大型類人猿とイルカだけである。彼らは同様に多くの任意のシンボルを理解するようになり，模倣の最もよい証拠を示す。この模倣能力こそが，革新を土台にした文化を支える基盤なのである。もう１つの知能の高さの現れである柔軟な革新に基づいた道具の使用は，哺乳類の中でより広く分布している。すなわちサルや類人猿，クジラ目の動物たち，そしてゾウ――これらの血統では社会的学習が当たり前である。これまでのところ，こうした非常に大雑把な検証しかなされてないが，それでも文化を通じて知能を獲得するという仮説を裏付けている。

もう１つの重要な予測は，革新と社会的学習の傾向は一緒に進化してきたに違いないということである。実際，現在オランダのユトレヒト大学にいるサイモン・リーダーと，今はスコットランドのセント・アンドリューズ大学にいるケビン・N・ラランドが発見したのだが，革新の跡をより多く見せる霊長類の種は，社会的学習の証拠を最も示す種でもある。さらにもっと間接的な判断材料は，大脳の相対的な大きさ（身体の大きさに合わせて統計的に補整した後の）と，社会的そして生育上の変数との，相関関係に依存している。いろいろな哺乳

類の集団における群居性と相対的な大脳の大きさとの確立した相関関係もまた，この考え方と一致している。

この新しい仮説はなぜ我々人類の祖先が，大型類人猿の中で唯一このようなすぐれた知能を進化させたのか，その理由を説明するのに十分ではないが，豊かな文化的環境の中で大型類人猿が示す，自らを向上させる素晴らしい能力を知ると，我々と彼らの間の隔たりが大きなものではないように思えてくる。変化の軌跡を時間軸に沿って説明するには，乏しく複雑な化石や考古学的な記録証拠の中から得られる多くの細かなものを入念につなぎ合わせて総合しなければならない。主要な変化は，道具を使って大股で歩き回る初期の「ヒト」がサバンナ地帯に足を踏み入れた時ではないかと多くの研究者が考えている。塊茎（かいけい）を掘り起こし，大型哺乳類の死体をさばいたり，盗られないように守ったりするためには，集団で仕事をし，道具を作り出し，戦略を編み出さなければならなかった。こうした要求がさらに多くの革新を，そしてさらなる相互依存を促した。その結果，知能は加速度的に増大したのである。

我々が人間という段階に達すると，文化的な歴史は本来的に備わっている遂行能力を向上させる能力と相互に影響を与え始めた。我々の種が出現した後 15 万年近く経つと，人間の象徴主義の精緻（せいち）な表現，例えば見事に加工された実用的でない人工物（美術品，楽器，そして埋葬品）のようなものが広範囲に行きわたった。過去 1 万年の間に起きた技術の爆発が明らかにするのは，文化的なインプットが限りない成果をもたらすということである――すべて，石器時代の頭脳を使ってである。文化は古い頭脳から新しい知力を確かに築き上げることができるのである。

注

ℓ. 7 ◇ pull off ～「～をうまくやり遂げる」
ℓ. 8 ◇ cognitively「認識的に」
ℓ. 9 ◇ garner ～「～（＝情報など）を集める〔蓄積する〕」
ℓ. 12 ◇ bootstrap ～「～を自分でする；～を自力で達成する」
ℓ. 20 ◇ extract ～「～を取り〔掘り〕出す」
ℓ. 25 ◇ attendant「付随する；伴う」
ℓ. 34 ◇ feed-forward process「フィード・フォワード・プロセス」望ましい状態を未来に投影することで問題を解決する方法。
ℓ. 44 ◇ prankster「いたずら者」*cf.* prank（いたずら）
ℓ. 45 ◇ bonobo「ボノボ；ピグミーチンパンジー」
ℓ. 47 ◇ rigor「厳密さ」
◇ replicate ～「～を繰り返す」
ℓ. 48 ◇ dormant「眠っている；潜在的な」
ℓ. 50 ◇ overqualified「熟達しすぎた」
◇ encapsulate ～「～を要約する〔内部に閉じこめる〕」
ℓ. 53 ◇ primate「霊長類の動物」
◇ in captivity「とわられの身の」
ℓ. 54 ◇ readily「すぐに」
ℓ. 56 ◇ belie ～「～が偽りであることを示す」

◇ capuchin monkey「オマキザル属」
ℓ. 59 ◇ conundrum「謎；難問」
ℓ. 62 ◇ epitomize ～「～を要約する〔縮図的に示す〕」
ℓ. 64 ◇ painstaking「骨の折れる」
ℓ. 67 ◇ ingrained「深くしみ込んだ；根深い」
ℓ. 69 ◇ strewn ＜ strew ～「～を撒き散らす」
ℓ. 76 ◇ yardstick「尺度；基準」
ℓ. 77 ◇ incontrovertible「議論の余地のない」＜ controvertible
ℓ. 78 ◇ vice versa「逆もまた同様」
ℓ. 80 ◇ mammalian「哺乳類」
ℓ. 82 ◇ arbitrary「任意の」
ℓ. 84 ◇ cetacean「クジラ目の動物」
ℓ. 86 ◇ crude「粗い；自然の」
ℓ. 88 ◇ propensity「（生まれつきの）傾向；好み」
ℓ. 92 ◇ correlation「相関関係；相互関連」
ℓ. 94 ◇ gregariousness「群居性」
ℓ. 99 ◇ formidable「恐ろしく大きい；ものすごい」
ℓ.100 ◇ trajectory「軌跡；弾道；足跡」
ℓ.101 ◇ sparse「希薄な；まばらな」
◇ archaeological「考古学上の」
ℓ.103 ◇ tuber「塊茎（かいけい）」
◇ deflesh ～ = remove the flesh from ～
◇ carcass「死骸」
ℓ.106 ◇ snowball「雪だるま式〔加速度的〕に増える」
ℓ.111 ◇ unleash ～「～を引き起こす」

【3】

解答・解説

（1） sour
○ sour grapes「負け惜しみ」
（2） off
○ Hands off.「手を触れるな。」
（3） up
○ break up「（恋人と）別れる」
（4） Behave
○ behave *oneself*「行儀よくする」
（5） disturbing
○ disturb ～「～の邪魔をする」
（6） says

○ say ～「（本・掲示に）～と書いてある」

（7） days

○ have seen better days「（今は見る影もないが）昔は栄えた（素晴らしかった）こともある」

（8） over

○ be over with ～「～はもうだめだ」

（9） cares

○ Who cares?「誰がかまうものか。」 ※修辞疑問。

（10） to

○ to death「死ぬほど」

（11） pulling

○ pull A's leg「A をからかう」

【4】

解答・解説

（1） nowhere

○ get nowhere with ～「～に関して何の成果もない」

（2） die

○ Never say die!「弱音を吐くな。」

（3） took

○ take A B「A に B（＝時間・労力・勇気）を必要とさせる」

（4） alone

○ alone「１人で」

（5） asked

○ ask for it ＝ ask for trouble「（他人のせいではなく）自業自得である」

（6） fired

○ fire ～「～をクビにする」

cf. dismiss ～（～を解雇する）

（7） life

○ for the life of *one*「どうしても」

（8） sleep

○ sleep「（手足の）一時的なしびれ」

（9） mind

○ have A in mind「A のことを考えている」

（10） inside

○ inside out「裏返しに」

（11） pin

「針１本落ちる音も聞こえるほどだった」が直訳。

【5】

解答・解説

（1） calling

○ Who's calling, please?「どちら様ですか。」

○ This is ～ calling.「～です。」

（2） back〔home〕

○ expect ＋ O ＋副詞「O が～へ来るものと期待する」

（3） hello

○ say hello to ～「～によろしくと言う」

（4） in

○ in advance「前もって」

○ should have 過去分詞「…すべきだったのにしなかった」

（5） where

○ stay where you are「今いる場所にとどまる」

（6） come

話している相手の方に行く場合，go ではなく，come を用いる。

（7） bother

○ bother to …〔…ing〕「（否定文で）わざわざ…する」

（8） case

○ in case … ①「万一に備えて」（通例文尾で）②「…するといけないから」

③「もし…なら；…の場合には」

（9） leave

○ leave ～「～を置いていく」

（10） mind

○ mind ～「（通常，否定文・疑問文で）～を嫌がる」

（11） trouble

○ trouble「面倒」

全訳

リー夫人：もしもし。

安藤さん：リーさんのお宅ですか。

リー夫人：はい。どなたですか。

安藤さん：東京の安藤と申します。

リー夫人：ああ，安藤さんですね。夫からお話はよく伺っております。

安藤さん：リーさんはいらっしゃいますか。

リー夫人：あいにくですがちょっと出かけているのです，安藤さん。1時間くらいで帰ってまいると思うのですが。

安藤さん：ご主人にちょっとご挨拶させていただこうかと思いましたもので。

リー夫人：それはわざわざありがとうございます。今どちらにお出でですか？

安藤さん：ええ，空港の公衆電話からお電話しているのです。前もってお知らせしておくべ

きだったのですが，お宅にうかがう時間はないと思いまして。

リー夫人：そんなことお気になさらないで下さい。安藤さん，そこでお待ちになっていらして下さい。車でお迎えに上がりますから。

安藤さん：それは大変ご親切に。ですがわざわざ車でお出でにならなくて結構です。

リー夫人：わざわざなんてことはまったくありません。夫がここにいましたら間違いなく車でお迎えに上がったでしょう。

安藤さん：本当にどうもご親切に。それではターミナルでお待ちしております。

リー夫人：わかりました。20 分ほどで着くと思います。私たちが家に戻ります前に夫が帰宅するかもしれませんので，メモを残しておきます。もしよろしければ，帰りにちょっと買い物をしたいのですが。

安藤さん：いろいろとご迷惑をおかけしまして，本当に申し訳ございません。

リー夫人：とんでもないです。それでは後ほど。

安藤さん：お待ちしております。

注

ℓ. 16 ◇ that's very generous *of* you「そんなことをしてくれるなんて，あなたは寛大な人です」

人の性質を表す形容詞には of を用いる。

ℓ. 17 ◇ My husband *would* surely pick you up if he *were* here.

「夫がここにいたら，きっと車で迎えに行くでしょう。」（仮定法過去）

【6】

A.

解答

（1） I want you to come back by Friday.

（2） Am I the only one〔person〕that〔who〕feels that way〔like that〕?

（3） This is the most beautiful sunset I have ever seen.

（4） Fortunately the fire was put out before it was〔became；got〕too serious.

解説

（1） 文の主語は，日本文には書かれていないが，1 人称の I または we とする。「～に…してほしい」は，want が与えられているので，want ～ to …で表せる。

「帰って来る」は come back，または be〔get〕back。

「金曜日までに」は by Friday でよい。

したがって，I want you to come back by Friday. となる。

（2） 「…するのは私だけであろうか」は，「私が…するただ 1 人の者であろうか」と考えて，Am I the only one〔person〕that〔who〕…? とする。

※先行詞に only などが付いている場合，関係代名詞は that を用いるのが原則だが，実際には who も用いられる。

「そのように感じる」は feel that way，または feel like that でよい。

したがって，Am I the only one〔person〕that〔who〕feels that way〔like that〕?

となる。

（3）「こんな～な…は今まで見たことがない」という日本文を最上級の英文で表す典型的な英訳問題。This で書き出すという指示があるので，「これは私が今までに見たことのある最も～な…だ」と考えて，This is the most ～ …（that）I have ever seen. とすればよい。10 語という語数指定なので，関係代名詞を省略して，This is the most beautiful sunset I have ever seen. または，This is the most beautiful sunset that I've ever seen. となる。

（4）「火事」は the fire,「消す」は put out で表せるので，「火事は消し止められた」は the fire was put out でよい。

「大事に至らぬうちに」をどう表すかが問題だが，too serious が与えられていることから，「重大なことになる前に」と考えて，before it was〔became；got〕too serious とする。

cf. Do something about him *before it's too late.*

（取り返しのつかないことになる前に彼を何とかしてくれ。）

したがって，Fortunately the fire was put out before it was〔became；got〕too serious. となる。

B.

解答

If you put one glass on top of the other after having washed them, they sometimes get stuck together and give you trouble when separating them. When you try to pull them apart by force, they may break. When that happens, simply dip the outside glass in lukewarm water while pouring cold water into the inside glass, and they will come apart without any trouble.

別解 When two washed glasses are put one upon the other, it sometimes happens that one sticks to the other and you have difficulty in separating them. If you forcibly try to separate them, you can easily break them. In that case, one of the easiest ways to separate them is to dip the outer one into lukewarm water and pour cold water into the inner one.

解説

一般論なので，全体の主語は you とする。第１文の前半「コップを…おくと」は, if〔when〕you …と書き出せばよい。「コップ」は cup ではなく，glass である。cup は紅茶やコーヒーのような温かい飲み物を入れる物を指す。

「コップを２つ洗って重ねておく」は「２つのコップを洗った後で重ねる」と考えるとわかりやすい。

「重ねる」のような位置関係を表す場合は，put を用いるのが基本。「１つのコップの中にもう１つのコップを入れる」と考えて，put one glass inside the other とするか，または，「１つのコップの上にもう１つのコップを置く」と考えれば，put one glass on（top of）the other としてもよい。

「洗った後で」は，after having washed〔washing〕them でよい。after を用いれば時間の

推移はわかるので，完了動名詞にしなくてもよい。
以上をまとめると，if〔when〕you put one glass inside〔on（top of)〕the other after having washed〔washing〕them となる。また，この部分の主語を「２つの洗ったコップ」とすれば，if〔when〕two washed glasses are put one on（top of）the other と表せる。
後半の「…ことがあります」は，sometimes １語か，‘it sometimes happens that 節’という構文で表す。
「とれなくなって困る」の「とれなくなる」は they（＝ the two glasses）get stuck together，または，one sticks to the other,「…して困る」は，ここでは「２つのコップを分けるのに困る」ということだから，they give you trouble when separating them，または，you have difficulty〔trouble〕(in）separating them のように表せる。
第２文「無理に外そうとすると」の「無理に」は by force, forcibly,「外す」はここでは「（２つの物を）分ける」という意味だから，separate という動詞か，pull ～ apart を用いる。したがって，if〔when〕you try to separate them〔pull them apart〕by force，あるいは，if〔when〕you forcibly try to separate them〔pull them apart〕となる。また，動詞 force を用いた force ～ apart（～を無理に引き離す）を用いて，if〔when〕you try to force them apart としてもよい。
「割ってしまいかねません」は，「（２つの）コップ」を主語にして，they may〔can〕break とするか，you を主語にして，you may〔can〕(easily）break them としてもよい。ここでの may は現実の可能性，can は理論的な可能性を示す。
第３文の「こんな時は」は in that case，on that occasion，if〔when〕that happens など。
次の「外側のコップを…簡単に離れます」の部分は，元の日本文にこだわって考えるよりも，要するにどういうことを言っているのかを自分なりに噛み砕いて考えるべきところ。例えば，「…しなさい。そうすれば簡単にとれます」と命令文を用いて表すこともできるし，あるいは，「２つのコップを離す最も簡単な方法の１つは，…することだ」と考えてもよい。
「ぬるま湯」「つける」「入れる」といった日常的な単語の訳し方で悩むかもしれないが，「ぬるま湯」は lukewarm〔tepid〕water。前者は英米で用いられるが，後者は英のみ。ここでの「つける」は「液体に浸す」という意味なので，dip が適当，また，「冷たい水を入れる」の「入れる」は「注ぐ」ということなので，pour が適切である。
以上をふまえて第３文を英語にすると，前者の形を使えば「**解答**」のようになり，後者の形を使えば「**別解**」のようになる。

【7】

解答・解説

（１） my part ◆746
○ for my part「自分としては；自分に関する限り」= as far as I am concerned, as to〔for〕me, for one（I, for one, … の形で）◆745）

（２） for nothing〔free〕 ◆748
○ for nothing「無料で」

（3） by yourself ◆756

○ by *oneself*「1人ぼっちで」

（4） in itself ◆757

○ in *oneself*「それ自体では」

（5） beside ◆759

○ beside *oneself*（with ～）「（～で）我を忘れて」

（6） the point ◆761

○ to the point「要領を得て」

（7） To，surprise〔astonishment〕 ◆764

○ to *one*'s ＋感情を表す名詞「人が…したことには」

○ in favor of ～「～に賛成で」

（8） heart's content ◆765

○ to *one*'s heart's content「心ゆくまで；思う存分」

（9） between〔to〕ourselves または a secret ◆767

○（strictly）between ourselves〔you and me〕「ここだけの話だが；内緒だが」

（10） without fail ◆768

○ without fail「必ず；間違いなく」

（11） on，off〔順不同〕 ◆774

○ on and off〔off and on〕「時々；断続的に」

（12） all〔just〕the same ◆775

○ all〔just〕the same「まったく同じで；どうでもいいことで」

（13） the contrary ◆776

○ on the contrary「それどころか」

cf. to the contrary（修飾する語句の後で）「それと反対に（の）」[◆777]

（14） to say ◆779

○ that is to say「すなわち；言い換えれば」

（15） number of ◆785

○ a small number of ～「少数の～」

（16） Quite〔Not〕a ◆788

○ quite〔not〕a few「かなり多数の」

○「多量」を表す場合は quite〔not〕a little ◆789

（17） up to ◆790

○ be up to ～「～次第で」

（18） well off ◆791

○ be well off「裕福な」（⇔ be badly off ◆792）

（19） as well ◆802

○～ as well「～もまた」

（20） as it were〔so to speak〕 ◆803

○ as it were「いわば；まるで」

5章　総合問題5

問題

【1】

解答

（1）　子供の心に無意識のうちに植え付けられた両親や教師の信念。(28 字)

（2）　ⓑ　against　　ⓖ　between

（3）　教育機構

（4）　現体制がすぐれているということ。(16 字)

（5）　現体制を保持しようとする人々と，それを改革しようとする人々。

（6）　「**全訳**」の下線部ⓕ参照。

解説

（1）　these beliefs は，前の The genuine beliefs of parents and teachers … children を受けている。The genuine beliefs *of* ～ の of は，主格関係を示す。

cf. a child's belief *in* his parents（子供が親を信じること→親に対する子供の信頼）

（2）

ⓑ　すぐ前の on the side of ～（～の味方をして）の反対表現 against を，問題文の内容を読み通して考え付くかどうかが問題。内容理解と表現力とを同時に試す問題である。

ⓖ　choose between ～「～の間から選ぶ」

the parties は，前文の内容からして，明らかに two parties の意である。

（3）　この machine は「機械」の意ではなく，organization（組織；機構）の意。とは言うものの，本文の後半で，they are merely so much material, to be recruited into one army or the other. と言っているのであるから，machine という言葉を用いた真意は知れようというものだ。

（4）　their own excellence は「自分たちの方がすぐれていること」の意で，ここでは their が threatened institutions であることが，答えに出ていればよい。

（5）　either には① one of the two（どちらか一方）の意と，② each of the two（どちらも）の意がある。もともとは①の意であったため，②の例の方が頻度は少ないのであるが，文脈によって，「どちらか一方」「両方」を決めなければならない。ここでは，either party ＝ both parties。both を用いると，前の not と重なって部分否定になってしまうのである。内容的には「現体制を維持しようとする側と，それを改革しようとする側」となる。

（6）　so much ～「～同然；それだけの～」

Ex. It is only *so much* rubbish.（まったくのがらくた同然だ。）

なお，material は「材料；用具；物」。to be recruited は‘結果’ととる。

○ recruit ＝ find new people to join a company, an organization, the armed forces, etc.

○ ‘結果’の不定詞と‘目的’の不定詞

‘目的’と‘結果’との相違は，主語に意図があるかないかによって決まると，一般に説明されている。例えば，意図を持ち得ない人間以外のものが主語になっている場合など。また，目的の概念を含まない動詞につく場合も，‘結果’を示す。

したがって，

He went to the U.S. to learn English. は，

「彼は英語を習得するためにアメリカに行った。」と訳そうと，

「彼はアメリカに行き英語を習得した。」と訳そうと，to learn は‘目的’である。

全訳

性格と意見の形成における教育の果たす力は，非常に大きく，かつ広く一般に認められている。必ずしも公然の教えというわけにはいかないが，両親や教師が心から信じていることは，ほとんど無意識のうちに，多くの子供の心の中に植え付けられ，子供たちが晩年にこれらの信念を失っても，そのいくらかは，深く根をおろして，ストレスがかかった時とか危険に直面した時にすぐに現れるのである。一般に，教育というものは，現在あるものの側に味方をし，根本的な変革に対抗する最も強大な力である。既成制度は，おびやかされると，まだ力があるうちに，教育機構をわがものとし，自分たちの卓越性に対する敬意を若者のやわらかい頭にしみ込ませる。改革者は，相手を有利な位置から追い落とそうとして激しく攻め立てる。子供たち自体は，どちらの側からも考慮されない。ⓕ子供たちは，まさしく単なる道具同然で，どちらかの側の用兵にくり入れられるのである。もし，子供たち自体が斟酌（しんしゃく）されるのなら，教育は，子供たちを何かしらに属させようとするのではなく，子供たちが自分の頭で考えて，双方の側のいずれにつくかを選ぶことを可能にさせることを目論（もくろ）むのであろう。つまり教育とは子供たちが自ら考えることができるように仕向けるものであって，教師が何を考えているか子供たちに考えさせようなどとはしないのであろう。

注

ℓ.2 ◇ generally ＝① by most people ② in most cases

◇ The genuine beliefs, though（they are）not usually the professed precepts, of parents and teachers are almost unconsciously acquired by most children；

○ the genuine beliefs of ～「～が心から信じていること」

cf. They wear amulets in *the genuine beliefs* that this will protect them.

（自分を守ってくれると本当に信じてお守りを身に付けている。）

○ the professed precepts「公然の定説」

○ professed「公然の」

○ precept [prí:sept] ＝ a general rule regarding behavior or thought

ℓ.4 ◇ depart from ～「～からはずれる〔それる〕」＝ deviate from（an accepted, prescribed, or usual course of action）

◇ in later life「晩年に」

◇ them は these beliefs を指す。

◇ remain ＋ C「C のままである」

◇ implant ＝ establish（an idea）in the mind

ℓ. 5 ◇ emerge ＝ come out

◇ as a rule ＝ usually, but not always

ℓ. 6 ◇ fundamental ＝ affecting the most central and important parts of something

◇ threaten ～ ＝ put ～ at risk；endanger ～

◇ institution《社会学》「既成制度（社会制度，結婚制度など１つの文化が形成されるための基本的な秩序と考えられる社会関係や社会行動のパターン）」

◇ they は threatened institutions を指す。

ℓ. 7 ◇ possess *oneself* of ～「～を自分のものとする」

◇ instil ＝ instill

○ instill [ɪnstíl]「～を徐々に教え込む〔しみ込ませる〕」＝ gradually but firmly establish an idea or attitude in someone's mind

ℓ. 8 ◇ malleable [mǽliəbl]「影響されやすい」＝ easily influenced

◇ reformer ＝ a person who works to achieve political or social change

◇ retort「鋭く言い返す」＝ say something sharp, angry, or witty in answer to a remark or accusation

ℓ. 9 ◇ oust [áʊst] ～「～を追い出す」＝ drive out or expel someone from a position or place

◇ opponent「敵；相手」＝ a person that you are playing or fighting against in a game, competition, argument, etc.

◇ vantage [vǽntɪdʒ] ＝ vantage point；a place or position affording a good view

ℓ. 12 ◇ this or that「何かしらの；あれやこれや」

◇ intelligently [ɪntélɪdʒəntli] ＝ in an intelligent way

＜ intelligent ＝ good at learning, understanding and thinking in a logical way about things；showing this ability

ℓ. 13 ◇ A, not B ＝ not B but A「B でなくて A」

【2】

解答

（1） 自分が噛まれた蛇を特定するため。

（2） 「**全訳**」の下線部ⓑ参照。

（3） 染料の原料となるブラジルボクがポルトガルの植民地時代の主要な輸出品だったという事実が，それに由来するブラジルという国名として残っているということ。

（4） (D)，(E)

（5） ブラジルボクが屋根を提供することにより日陰を好むカカオがよく育ち，農民が経済的に潤うので，ブラジルボクを守ってもらえるという利点。

（6） **c**，**e**

解説

（1） 引用符に囲まれた部分は蛇に噛まれた場合の注意書きである。毒蛇に噛まれた場合，治療用の血清（特異抗体を含む免疫）が蛇ごとに異なるので，噛んだ蛇が毒蛇かどう

かだけでなく，毒蛇の種類の特定も必要になる。したがって，「鑑定のために，忘れずに蛇を一緒に持って行け」と言っているのである。この for は‘目的’の意味で用いられていると推測できるので，下線部を‘目的’を表す句の形にまとめればよい。remember to …（忘れないで…する）という表現も確認しておこう。

（2） 下線部を含む文の文頭から見ていこう。

○コンマより前の部分：produced by hand は the last items in Western life を後置修飾している。つまり，「上質な弓は，西洋の生活における，最後の手作りの品物の１つである」という意味になる。

○ not out of nostalgia but because ～：not A but B（A ではなく B）の構文が使われている。not の直前に they（= fine bows）are produced by hand を補って考えるとわかりやすい。つまり，コンマ以降では，上質の弓がなぜ手作りされているのかについて述べられている。

ここまでの内容をふまえた上で下線部を検討しよう。

○ that：これがいまだに最善かつ最速の方法であるという。下線部を含む文の前半に produced by hand とあるので，that の内容は「手作りすること（producing by hand）」である。

○ remain C「相変わらず〔依然として〕～の状態のままである」

○ them：直前に出てくる複数名詞を探すと，Fine bows と the last items がある。この文脈での主題が Fine bows であることを考えると，them は Fine bows を指すと考えるのが適当。

（3） 下線部には This や its といった指示語が含まれているが，この内容を明らかにして説明する必要がある。まず，文頭の This fact は，直前の文にある「染料の取引が，ブラジルボクをブラジルの主要な輸出品にしていた」という事実を指していると推測できる。下線部の直後では‘理由’を表す as に導かれた節が続いており，ここを読むと its name の its は Brazil の国を受けていることがわかる。国名から木の名前が付いたのではなく，木の名前から国名が付けられたというのだから，この木がこの植民地にとって大変重要なものだったことが読み取れる。

（4） grow の ow の発音は [óʊ] である。選択肢の中でこれと異なるのは，（D）の allowing [áʊ] と（E）の knowledge [á:] である。なお，（B）の bow は本文で使われている「弓」の意では [bóʊ] と発音するが，他に，「おじぎ（する）」と「船首」の意味の同綴異義語があり，これらの発音は [báʊ] である。

（5） 下線部に続く文に，その利点が述べられている。チョコレートの原料であるカカオが日陰を好み，ブラジルボクがその日陰を提供する。結果としてカカオがよく育つことが農民にとっての経済的利点である。また，カカオの栽培のために，弓の材料になるブラジルボクを守ってもらえることが，弓製作者にとっての利点である。すなわち，カカオ栽培地にブラジルボクを植えることは，カカオを栽培する農民と弓製作者の双方にとって有益なのである。

（6）

a 「ブラジルボクの成木を探している間，蛇に襲われる危険は絶えずある。」蛇の危険性

はカカオ研究センター周辺の森に関して言及されているだけで，これがブラジルボクの生育地すべてに当てはまるかどうかは，これだけでは判断できない。ここでは真偽の判定は保留して，他の選択肢を検討しよう。

b 「ブラジルボクがどんどん減っているということは，木材業者が，使い物になる木を，より懸命になって探さなくてはいけなくなるということだ。」これは第２段落第５～６文の記述と一致する。

c 「ブラジルボクの現状を考え，この木の使用の増加が奨励されてきた。」第２段落第６文後半に，この木の使用を制限することが議論されてきたとあるので，これは一致しない。

d 「トゥールテが成功した理由の１つは，彼の時計製作の経験だった。」これは第４段落第３～４文の記述と一致する。

e 「弓製作者のための基準の策定は，トゥールテの弓作りの開始から約 200 年後になされた。」第５段落第４文に，この基準を定めたのはトゥールテだったとあるので，一致しない。

f 「ユーカリの木は成木になるのに，30 年もかからない。」第８段落第７文から，ユーカリはブラジルボクより成長が早いことがわかり，第 10 段落第２文最後の部分からは，ブラジルボクが成木になるのに 30 年かかることがわかる。よって，ユーカリは成木になるのに 30 年はかからないことになり，これは一致する。

g 「ブラジルボクが成育する環境はよくわかっていない。」これは第９段落の記述と一致する。

以上から，正解は **c** と **e** で，**a** は一致すると判断することになる。

全訳

ブラジルにあるカカオ研究センターの植物学研究所の事務所は，床がタイル張りのコンクリート造りの小さな白い建物で，壁に張ってある，「噛まれたら，すぐ病院に行け。鑑定のために，忘れずに蛇を一緒に持って行け。」という，ためになる忠告を書いたポスターが訪問者を出迎える。しかしながら，2002 年６月にそこを訪れた５人は怖れなかった。彼らはそこにある，ある物を見るために，遠い距離を――２人は遠くドイツから――やって来たのだった。熱帯雨林の中を少し歩いた後，案内役が立ち止まり，樹皮が灰色の大木を彼らに誇らしげに見せた。訪問者たちにはすぐにそれが，一般的にフェルナンブコまたはブラジルボク（パウ・ブラジル）と呼ばれている木の，特別大きくて古い木だとわかった。

この訪問者たちは，この種類の木と密接な関係があったのだ。彼らはアルシュティエ，つまりバイオリン，ビオラ，チェロ，コントラバスの弓の製作者で，ブラジルボクは，合成・天然を問わず，弓製作者が，演奏会に使えるレベルの最高品質の弓を作ることのできる，唯一知られている材料なのだ。何世紀もの間，このような木はブラジルの森林から伐採され，ヨーロッパや北米に船で運ばれて弓に加工されてきたのだ。しかしながら，今回の弓製作者たちはこの木を切りにやって来たのではなかった。彼らはこの木を救うためにやって来たのだった。ブラジルボクは，今日，数が減ってきている。木材取引業者は，残っている数少ない成木を見つけるためには，森の奥深くに入らなくてはならず，国際機関はこの木の使用を世界的に制限するための方法を論じてきた。弓製作者たちも世界中から動員されて，この木

を救う任務を持つ，国際ブラジルボク保存イニシアチブ（IPCI）という機関を立ち上げた。それと同時に，彼らは自分たちの職業を救うことも望んでいる。

弓製作者たちは2004年の11月にウィーンに集まった。ドイツの弓製作者クラウス・グリュンケは，弓製作者たちが長年感じている緊急性について語った。「私たちは今，この事態に対処し，他の人たちのお手本になるチャンスを手にしているのです，二度とやってこないかもしれないチャンスを。」と，彼は言った。「音楽家，楽器製作者，音楽愛好家だけでなく，ここにいる私たち全員が，何世紀にもわたってブラジルボクから恩恵をこうむってきました。今，自然に何かを返す時なのです。」

弓製作者たちは互いに遠く離れ，それぞれ独立して仕事をしている。しかしながら，彼らは，フランソワ・ザビエル・トゥールテという職人によって近代的な弓が考案された時に遡る，200年以上続く古い連帯を共有している。トゥールテは生涯読み書きができなかったが，時計職人だった頃に覚えた技術を，弓の製作作業に持ち込んだ。その結果が，音楽家が力強くも繊細にも演奏することを可能にする，強さと微妙さのバランスの取れた，魔法のような道具である。その音は半ば弓から来るのだ。というのも，弓の曲芸のような威力に加えて，弓が共鳴するからである。

上質な弓は，西洋の生活における，最後の手作りの品物の１つであるが，これは懐古趣味からではなく，ⓑ手作りが今でも優れた弓の最善で最も速い作り方であるためである。弓製作者は今日，代々引き継がれてきた道具と技を使って，ほぼトゥールテのやり方で仕事をしている。製作者の養成は，弓の品質基準が厳格であるのと同様に難しく，いつか名製作者になれるのは，ほんのわずかな職人である。トゥールテは弓の改革に加えて，新たな職業の仕事の基準を定めもした。彼の発明した弓が200年の間にほとんど変わっていないのとちょうど同じように，アルシュティエの仕事もほとんど変わっていない。

その仕事はほとんど変わっていないが，名工の数は第２次世界大戦後，この職業の未来が危ぶまれるところまで減少した。しかしながら，1980年代に高齢の弓製作者たちが新しい世代の弓製作者に，過去200年にわたって代々引き継がれてきた，伝統ある同じ技術を教え始めた。その若者たちは，それ以来お互いに指導し合いながら，これまでの名品に劣らない最高の弓をいくつか生み出し始めている。以降，弓製作の新たな拠点が，ドイツ，ブラジル，アメリカに誕生している。

しかしながら，そのような時代は終わりを迎えるかもしれない。トゥールテの時代には，戦争で海上交易が中断されていない限り，この木はヨーロッパで容易に手に入った。この木が輸入されたのは，それが含む赤い染料のためで（「パウ・ブラジル」とはポルトガル語で「かまどの火のように赤い木」という意味である），それは貴族の服を作る時に使われていた。その染料の取引によって，ブラジルボクはポルトガルの植民地であったブラジルの初期の主要な輸出品になっていた。この事実が，その名前の中に留められてきたのだ。というのも，パウ・ブラジルが植民地の名前から名付けられたのではなく，ブラジルがこの木の名前を取って名付けられたのだ。

ブラジルボクは，海に面した平野部の森林であるマタ・アトランティカと呼ばれる，ブラジル特有の生息環境で育つ。何十種もの木の生息地であるこの森林は，かつてはアマゾン川の河口から，南はアルゼンチン国境まで広がっていた。しかしながら，今日ではその森は孤

立した小さな断片でしか存在しない。その森は16世紀には，マホガニーやブラジルボクのような木を，世界の市場に供給していた。現代になって，サトウキビ農場，幹線道路の建設，開発の増加が，重大な犠牲をもたらした。最近では，その森は，製鋼所用の木炭や，豆の栽培や肉牛の飼育に使う土地を作るために伐採されてきた。それに加え，アラクルズにある巨大なパルプ・製紙工場に原料を供給するために，森は成長の早いユーカリの木に植え替えられてきた。

ブラジルボクの木に何が必要なのかは，ほとんどわかっていない。ブラジルの正式な国の木としての地位や，その長い取引の歴史にもかかわらず，その生育上の習性や，それが好む生育環境は，いまだに謎に満ちている。ブラジルボクの亜種や種がいくつ存在するかについての，科学的な意見の一致さえない。

この知識の溝を埋めるために，世界中の弓製作者からの寄付で費用がまかなわれた研究の結果，ブラジルボクはバイア州のカカオ生息地へ移植されることになるだろう。チョコレートの原料であるカカオは日陰を好む植物なのだ。カカオ研究所の科学者たちは，ブラジルボクの上層（樹木の屋根）をその下のカカオの作物と組み合わせることで，弓に使える木材を生み出すのに必要な30年の間，農民がこの木を守ることに対する経済的な誘因になるだろうと期待している。

楽器，植物，生態系，経済，そして，社会とその歴史の間の深い相互の関係は，森林の教えであり，絶滅の危機にさらされたこの木と，それに依存する職人と音楽家をいつか救うことになるかもしれないのだ。

注

ℓ. 7 ◇ bark「樹皮」
ℓ. 8 ◇ specimen「標本；見本；実例」
ℓ. 9 ◇ archetier：フランス語で「（弦楽器の）弓製作者」の意。
ℓ. 11 ◇ synthetic「合成の」
ℓ. 12 ◇ performance-level「演奏会レベルの」
ℓ. 16 ◇ trek「（長い道のりを骨折って）歩いていく」
ℓ. 18 ◇ mobilize「動員される」
ℓ. 26 ◇ far-flung「遠く離れた」
ℓ. 28 ◇ artisan「職人」
◇ illiterate「読み書きのできない」
ℓ. 30 ◇ subtlety「微妙」
ℓ. 31 ◇ delicately「優美に；繊細に；優しく」
ℓ. 32 ◇ resonate「共鳴する」
ℓ. 34 ◇ nostalgia「懐旧；追憶」
ℓ. 36 ◇ rigorous「厳密な」
ℓ. 42 ◇ time-honored「伝統ある；昔からの」
ℓ. 44 ◇ mentor ～「～を指導する」
ℓ. 48 ◇ disrupt ～「～を中断させる」
◇ maritime「海の」

ℓ. 50 ◇ nobility「高貴の生まれ；貴族」
ℓ. 55 ◇ coastal「沿岸の」
ℓ. 59 ◇ take a heavy toll「大きな犠牲をもたらす」
ℓ. 65 ◇ consensus「意見の一致」
ℓ. 68 ◇ culminate in ～「(結果的に) ～になる」
ℓ. 70 ◇ overstory「上層（木)」
ℓ. 71 ◇ incentive「誘因」
ℓ. 74 ◇ yet「(助動詞と共に用いて) いつか；やがて」
◇ imperil ～「～を危険にさらす」

【3】

解答

（1） **d**　（2） **d**　（3） **d**

解説

（1） guy，do，you，mean の 4 語の中で新情報と言えるのは「～を指していう」の意味の mean のみ。この意味の mean は口語英語で頻出。

Ex. What do you *mean*?（それはどういうことですか。）

（2） one in the cowboy hat で，新情報は cowboy hat。「名詞＋名詞」の強勢形は基本的には「強＋弱」になるというルールより，cowboy が最も強く発音される。

（3） that の発音は，以下の通り。

①指示代名詞の時は，強形 [ðǽt]。

Ex. That is the most beautiful picture.
[ðǽt]

②関係詞の時は，弱形 [ðət]。

Ex. That is the most beautiful picture that I have ever seen.
[ðət]

③接続詞の時は，弱形 [ðət]。

Ex. I said that he was tired.
[ðət]

Who told you（3）that? の that は指示代名詞。したがって，①のパターンが当てはまり，[ðǽt] と発音される。

a「彼らは銀行強盗に入った男を捕まえた。」
この that は関係代名詞。したがって，②のパターンが当てはまり，[ðət] と発音される。

b「あなたは病気だと思っていた。」
この that は接続詞。したがって，③のパターンが当てはまり，[ðət] と発音される。

c「おじが亡くなった日，私は休暇でギリシャにいた。」
この that は関係副詞。したがって，②のパターンが当てはまり，[ðət] と発音される。

d「もし君がそんなことを信じるなら，君は世間知らずだ。」
○ naive「世間知らずの；だまされやすい」＝ lacking experience, wisdom, or judgment

この定義からわかるように，英語の naive は，日本語の「ナイーブ」と異なり，あまりよい意味では用いないのが普通。

この that は指示代名詞。したがって①のパターンが当てはまり, [ðǽt] と発音される。よって，**d** が正解。

全訳

A：あそこにいるあの男は一体全体誰だい？

B：君が言っているのはどの男のこと？

A：カウボーイハットをかぶっているあの背の高い男のことだよ。

B：あの人は花嫁のおじさんだよ。金持ちらしいよ。

A：そんなこと誰が言ってたんだよ。

【4】

A.

解答

（1） (c)　　（2） (b)

解説

（1） A：ベネチアとフィレンツェのどちらに行きたいと思う？

B：ベネチアとフィレンツェの両方っていうのはどうだい？ なぜかって，僕たちは丸1週間イタリアにいるんだからね。

「どちらにいきたいと思う」という質問に対して，「どちらにも行く」ということを提案しているのだから，and が新情報として扱われ，最も強く発音される。

and の発音に関してまとめておこう。

① and は普通弱く，弱形で発音される。弱形は [ən*d*] が基本なので，不定冠詞の an と同じに [ən] と発音されると覚えておくのがよい。しかし，実は色々なバリエーションがある。弱形の基本を頭に入れて置けばよいが，精密形で実例を挙げておく。

①○ fall and winter

[ən] → [ŋ]

○ Jack and Betty

[ən] → [ŋ]

②強調したり，対比したりする時は，強形 [ǽnd] と発音される。本問はこのパターン。

A：What will you have after dinner, coffee or ice cream?

B：Coffee <u>and</u> ice cream, please.

[ǽnd]

A：「ディナーの後にはコーヒーにしますか，それともアイスクリームにしますか。」

B：「コーヒーとアイスクリームをお願いします。」

○ would rather …「むしろ…したい」

○ Why don't we …?「…しない？」

※親しい間柄，または同レベルの仲間うちで提案する表現。

Ex. "*Why don't we* drop in at a coffee shop?" "Yes, let's."

「喫茶店によっていかない？」「そうしよう。」

※ Why don't you …?「…してはどうか」と区別すること。

○ after all

※ after all に finally の意味はない。

①「予想に反して」

Ex. I expected to fail the exam, but I passed *after all*.

（試験に落ちると思っていたのに，予想に反して合格してしまった。）

②「そもそも」

※先行する文に関して，理由や意見を述べる時に用いる。

Ex. Let's finish the cake. Somebody's got to eat it, *after all*.

（ケーキを食べてしまおう。なぜなら誰かが食べなくてはならないんだから。）

（2） A：ジョンがリンダに３ダースもバラを送ったっていうの聞いた？

B：悪いけれど，それは勘違いだよ。ジョンがバラを送ったのはスーザンさ。

It was Susan he sent them to. は，強調構文 It was Susan that he sent them to. の It was ～ that … の枠組みの that が省略された形。

Ex. It's only today（that）I've quite decided.

（ようやく今日になって，はっきり決心したのです。）

強調構文は，'～' の部分に新情報がくる。したがって，意味から考えても，Susan が最も強く発音される。強調構文の読み方は難しいので次の例を参照。

It was you who were to blame.（緩上昇調）

○ I'm afraid …「（残念ながら）…ではないかと思う」

相手の意見に賛成できない時や，誤りをやわらかく指摘する時などに用いられる。

○ get A wrong

①「A を正しく理解していない」

Ex. Don't *get me wrong*. I'm not complaining.

（勘違いしないでくれよ。別に文句を言ってなんかないよ。）

②「A（＝計算・名前）を間違える」

Ex. I think I've *got the answer wrong*.（答えを間違えたと思う。）

B.

解答・解説

（1） Jupiter

「ローマの神々の主神。その名にちなんで命名された惑星がある。」

○ Jupiter（木星）

（2） autobiography

「本人による自分の人生の記述。」

○ autobiography [ɔ̀ːtəbaɪɑ́ːgrəfi]「自叙伝」

cf. autograph [ɔ́ːtəgræ̀f]（（芸能人・スポーツ選手の）サイン）

I got a Kei Katayama's autograph.（私は片山圭にサインをしてもらった。）

cf. signature（（書類にする）サイン）

（3） saw
「物を切るために考案された道具，とりわけ連続した鋭い歯を持つ薄い金属の刃。」
○ saw [sɔ́ː]「のこぎり」

（4） museum
「美術作品，科学史に残る見本などを保管したり展示したりするための建物，または場所。」
○ museum「博物館」

（5） dictator
「絶対的権力を行使する者。とりわけ，人民の自由な同意からなる世襲の権利を持たずに，政治において絶対的な支配を行う人。」
○ dictator [díkteɪtər]「独裁者」

【5】

解答・解説

本問は，慶應義塾大学法学部で過去に出題された単語を中心に出題している。

a

（1） 3
○ abolition [æbəlíʃən] ①「廃止」②「死刑〔奴隷〕制度廃止」

（2） 2
○ abroad [əbrɔ́ːd] ①「外国へ」②「広まって」

（3） 1
○ access [ǽkses] ①「近づく道」②「接近」

（4） 2
○ adapt [ədǽpt] ①「～を改造する」②「～を適合させる」③「適応する」

（5） 2
○ adjacent [ədʒéɪsnt]「近隣の」

（6） 3
○ admiration [ædməréɪʃən]「感嘆」

（7） 3
○ adolescent [ædəlésnt]「青春期の」

（8） 2
○ aesthetic [esθétɪk]「美学の」

（9） 1
○ agonize [ǽgənàɪz]「悩む」

（10） 1
○ agony [ǽgəni]「苦悶」

（11） 1
○ airmail [éərmèɪl] ①「航空郵便」②「航空便で」③「～を航空郵便で送る」

(12) 1

○ anecdote [ǽnɪkdòʊt]「逸話」

(13) 1

○ angel [éɪnʤəl] ①「天使」②「(天使のように) 清らかで愛らしい人」

(14) 1

○ apathy [ǽpəθi]「冷淡」

(15) 2

○ apologize [əpɑ́ːlədʒàɪz]「謝る」

(16) 2

○ apparel [əpérəl]「衣服」

(17) 1

○ applicant [ǽplɪkənt]「応募者」

(18) 1

○ arbitrary [ɑ́ːrbətrèri] ①「随意の」②「独断的な」

(19) 3

○ artificial [ɑ̀ːrtəfíʃəl] ①「人造の」②「不自然な」

(20) 3

○ ascertain [æ̀sərtéɪn]「～を確かめる」

(21) 1

○ Asian [éɪʒən]「アジアの；アジア人の」

(22) 1

○ aspect [ǽspekt] ①「局面」②「(問題の) 見方」

(23) 2

○ assembly [əsémbli] ①「集会」②「議会」

(24) 2

○ astronomer [əstrɑ́ːnəmər]「天文学者」

(25) 2

○ attendant [əténdənt] ①「サービス係」②「付添い人」③「出席者」

(26) 2

○ attorney [ətə́ːrni]《米》「弁護士」

b

(27) 1

○ banknote [bǽŋknòʊt]「紙幣」

(28) 1

○ bankruptcy [bǽŋkrʌptsi]「破産」

(29) 1

○ barrister [bérəstər]《英》「法廷弁護士」

(30) 1

○ beautify [bjúːtəfàɪ]「美しくする」

(31) 3

○ beneficial [bènəfíʃəl]「有益な」

(32) 1

○ broadcast [brɔ́ːdkæ̀st] ①「～を放送する」②「～（＝種子など）をまく」

(33) 1

○ bully [búli] ①「弱い者いじめをする人」②「～をいじめる」

(34) 1

○ bureaucrat [bjúərəkæ̀t] ①「官僚」②「官僚主義者」

(35) 1

○ bury [béri] ①「（死体を）埋葬する」②「～を埋める」③「（顔を手の中に）埋める」

c

(36) 1

○ cabinet [kǽbənət] ①「飾り棚」②「内閣」

(37) 1

○ Canada [kǽnədə]「カナダ」

(38) 1

○ canvas [kǽnvəs] ①「ズック」②「画布」

(39) 1

○ capable [kéɪpəbl] ①「能力がある」②「…できる」

(40) 2

○ career [kəríər] ①「職業」②「経歴」③「職業的な」

(41) 1

○ caretaker [kéərtèɪkər] ①「管理人」②「世話をする人」

(42) 1

○ carrier [kériər] ①「運ぶ人」②「保菌者」

(43) 1

○ casualty [kǽʒuəlti] ①「（事故の）死傷者」②「災害」

(44) 2

○ catastrophe [kətǽstrəfi] ①「悲劇的結末」②「突然の大災害」

(45) 1

○ chancellor [tʃǽnsələr] ①「大臣」②「（ドイツ・オーストリアの）首相」

(46) 2

○ cigar [sɪgɑ́ːr]「葉巻《たばこ》」

(47) 3

○ coalition [kòʊəlíʃən]「連立」

(48) 1

○ coastline [kóʊstlàɪn]「海岸線」

(49) 1

○ colon [kóʊlən] ①〔文法〕「コロン」②「結腸」

(50) 1

○ colonel [kə́:rnl]「陸軍大佐」

(51) 2

○ communicate [kəmjú:nəkèɪt] ①「～を伝達する」②「交換する」

(52) 2

○ community [kəmjú:nəti] ①「共同社会」②「一般社会」

(53) 1

○ competent [ká:mpətnt] ①「能力のある」②「十分な」

(54) 3

○ competition [kà:mpətíʃən] ①「競争」②「試合」

(55) 2

○ competitive [kəmpétətɪv] ①「競争の」②「競争心の強い」

(56) 2

○ complain [kəmpléɪn] ①「不平を言う」②「(正式に) 訴える」③「～であると不平を言う」

(57) 2

○ compliance [kəmpláɪəns] ①「従順さ」②「承諾」

(58) 1

○ compromise [ká:mprəmàɪz] ①「妥協」②「示談」

(59) 2

○ compulsory [kəmpʌ́lsəri] ①「強制的な」②「必修の」

(60) 1

○ concentrate [ká:nsəntrèɪt] ①「～に集中する」②「～を濃縮する」

(61) 2

○ confirm [kənfə́:*r*m] ①「～を確かめる」②「～を強める」

(62) 1

○ consequence [ká:nsəkwèns] ①「結果」②「(結果・影響の) 重要さ」

(63) 2

○ conservative [kənsə́:*r*vətɪv] ①「保守的な」②「保守党」③「地味な」

(64) 2

○ conspicuous [kənspíkjuəs]「目立つ」

(65) 1

○ continent [ká:ntənənt] ①「大陸」②「ヨーロッパ大陸」(英国から見て言う)

(66) 2

○ contribute [kəntríbju:t] ①「～を寄付する」②「～を与える」③「寄付する」

(67) 1

○ corporate [kɔ́:*r*pərət] ①「団体の」②「会社の」

(68) 1

○ countenance [káʊntənəns] ①「顔つき」②「賛成」

(69) 1

○ courage [kə́:rɪdʒ]「勇気」

d

(70) 1

○ database [déɪtəbèɪs]「データベース」

(71) 1

○ dedicate [dédəkèɪt] ①「～を捧げる」②「～を奉納する」

(72) 1

○ delicacy [délɪkəsi] ①「(他人への) 気配り」②「繊細さ」

(73) 1

○ delicate [délɪkət] ①「繊細な」②「壊れやすい」③「微妙な」

(74) 2

○ democracy [dɪmɑ́:krəsi] ①「民主主義」②「民主主義国」

(75) 1

○ devastating [dévəstèɪtɪŋ] ①「破壊的な」②「痛烈な」

(76) 2

○ development [dɪvéləpmənt] ①「発達」②「開発」

(77) 2

○ devote [dɪvóʊt]「～に捧げる」

(78) 1

○ diamond [dáɪmənd] ①「ダイアモンド」②「ひし形」③「ダイヤの札」

(79) 3

○ differential [dìfərénʃəl] ①「相違を示す」②「差別的な」③「格差」

(80) 1

○ dignity [dígnəti] ①「気品」②「尊さ」③「高位」

(81) 2

○ diplomacy [dɪplóʊməsi] ①「外交」②「外交的手腕」

(82) 1

○ diplomat [dípləmæ̀t] ①「外交官」②「外交的手腕のある人」

(83) 2

○ disciple [dɪsáɪpl] ①「弟子」②「キリストの十二使徒の 1 人」

(84) 1

○ discipline [dísəplən] ①「しつけ」②「規律」

(85) 2

○ disgrace [dɪsgréɪs] ①「不名誉」②「恥となる人」

(86) 2

○ distort [dɪstɔ́:ɹt]「～をゆがめる」

(87) 2

○ distress [dɪstrés] ①「悩み」②「困難」

(88) 1

○ district [dístrɪkt] ①「地方」②「地区」

(89) 3

○ domination [dɑ̀:mənéɪʃən] ①「支配」②「統治」③「優勢」

(90) 1

○ duplicate [d(j)ú:plɪkət] ①「複製」②「複製の」③「～を複製する」

e

(91) 1

○ earthquake [ə́:rθkwèɪk]「地震」

(92) 3

○ economic [èkənɑ́:mɪk] ①「経済上の」②「経済学の」

(93) 3

○ economical [èkənɑ́:mɪkl]「経済的な」

(94) 3

○ economically [èkənɑ́:mɪkəli]「経済的に」

(95) 2

○ economist [ɪkɑ́:nəmɪst]「経済学者」

(96) 2

○ economize [ɪkɑ́:nəmàɪz]「経済的に使う」

(97) 1

○ ecstasy [ékstəsi] ①「忘我」②「恍惚」

(98) 1

○ elevator [éləvèɪtər]「エレベーター」

(99) 1

○ eloquent [éləkwənt]「雄弁な」

(100) 2

○ embarrassed [ɪmbérəst]「きまりの悪い思いをした」

(101) 1

○ endless [éndləs] ①「終わりのない」②「切れ目のない」

(102) 2

○ endow [ɪndáʊ] ①「(大学・病院など) に基金を寄付する」
②「～に (才能を) 授ける」

(103) 3

○ energetic [ènərdʒétɪk]「元気な」

(104) 1

○ episode [épəsòʊd] ①「挿話」②「挿話的な出来事」

(105) 3

○ equilibrium [ì:kwəlíbriəm] ①「平均」②「平衡」

（106） 2

○ essential [ɪsénʃəl] ①「欠くことのできない」②「本質的な」

（107） 1

○ execute [éksəkjùːt] ①「～を処刑する」
②「～（＝計画・命令・目的など）を実行する」

（108） 2

○ exhaust [ɪgzɔ́ːst] ①「～を疲れ果てさせる」②「～を使い果たす」

（109） 2

○ explain [ɪkspléɪn] ①「～を説明する」②「～を弁明する」

（110） 2

○ explicit [ɪksplísɪt] ①「明白な」②「はっきりとものを言う」

（111） 2

○ extravagant [ɪkstrǽvəgənt]「ぜいたくな」

（112） 1

○ eyebrow [áɪbràʊ]「まゆ」

f

（113） 1

○ famine [fǽmɪn] ①「ききん」②「欠乏」

（114） 2

○ fatigue [fətíːg]「疲れ」

（115） 1

○ female [fíːmeɪl] ①「女性の」②「雌」

（116） 1

○ feminism [fémənìzm]「男女同権主義」

（117） 1

○ fertile [fɔ́ːr*r*tl] ①「肥えた」②「発想の豊かな」

（118） 1

○ foreign [fɑ́ːrən] ①「外国の」②「無関係の」③「外部の」

（119） 2

○ forever [fərévə*r*] ①「永久に」②「いつも」③「常に」

（120） 1

○ fortunate [fɔ́ːr*r*tʃənət]「幸運な」

（121） 1

○ fountain [fáʊntn] ①「噴水」②「水源」

（122） 2

○ fulfill [fʊ*l*fíl] ①「～を実行する」②「～（＝要求・目的など）を満たす」

（123） 3

○ fundamental [fʌ̀ndəméntl] ①「基本的な」②「必須の」

g

（124） 1

○ generalize [dʒénərəlàɪz]「概括して言う」

（125） 2

○ geometry [dʒiɑ́ːmətri]「幾何学」

（126） 1

○ glory [glɔ́ːri] ①「栄光」②「栄華」③「壮観」

（127） 2

○ gorilla [gərílə]「ゴリラ」

h

（128） 2

○ habitual [həbítʃuəl] ①「習慣的な」②「常習的な」

（129） 1

○ hamburger [hǽmbə̀ːrgər]「ハンバーガー」

（130） 1

○ herald [hérəld] ①「使者」②「先駆者」

（131） 2

○ hilarious [hɪléəriəs]「陽気な」

（132） 2

○ hotel [hoʊtél]「ホテル」

（133） 1

○ humanist [hjúːmənɪst]「人文主義者」

（134） 1

○ hurricane [hə́ːrəkèɪn] ①「大暴風」②「（感情の）激発」

（135） 1

○ hybrid [háɪbrɪd] ①「雑種」②「混成物」

i

（136） 1

○ ignorant [ígnərənt] ①「無知の」②「知らない」

（137） 2

○ ignore [ɪgnɔ́ːr]「～を無視する」

（138） 1または2

○ illustrate [íləstrèɪt] または [ɪlʌ́streɪt] ①「挿絵を入れる」②「～を（実例・表で）説明する」

（139） 2

○ impatient [ɪmpéɪʃənt] ①「気短な」②「しきりに…したがる」

（140） 2

○ improper [ɪmprɑ́ːpər] ①「適切でない」②「正しくない」

(141) 3

○ inappropriate [ìnəpróʊpriət]「不適当な」

(142) 3

○ independent [ìndɪpéndənt] ①「独立の」②「他と無関係の」③「自活している」

(143) 2

○ indictment [ɪndáɪtmənt] ①「起訴（手続き）」②「起訴状」

(144) 2

○ induction [ɪndʌ́kʃən] ①「帰納法」②「誘導」③「就任させること」

(145) 2

○ indulgent [ɪndʌ́ldʒənt]「気ままにさせる」

(146) 3

○ inefficient [ìnəfíʃənt] ①「効率の悪い」②「無能な」

(147) 1

○ infamous [ínfəməs] ①「悪名の高い」②「不名誉な」

(148) 1

○ infinite [ínfənət]「無限の」

(149) 3

○ influential [ɪnfluénʃəl]「影響力のある」

(150) 2

○ inform [ɪnfɔ́ːrm]「～に通知する」

(151) 2

○ instructive [ɪnstrʌ́ktɪv]「教育的な」

(152) 1

○ intake [íntèɪk] ①「摂取量」②「採用人員」

(153) 2

○ integrity [ɪntégrəti] ①「高潔」②「完全」

(154) 2

○ intelligence [ɪntélɪdʒəns] ①「知能」②「報道」

(155) 2

○ interpret [ɪntə́ːrprət] ①「～を解釈する」②「～を演出する」

(156) 1

○ interval [íntərvl]「間隔」

(157) 1

○ intimacy [íntəməsi]「親密」

(158) 1

○ intricate [íntrɪkət]「込み入った」

(159) 1

○ Israel [ízriəl]「イスラエル」

j

（160） 2

○ judicial [dʒuːdíʃəl] ①「司法の」②「判断力のある」

k

（161） 2

○ Korea [kəríːə]「韓国」

l

（162） 2

○ lament [ləmént]「嘆く」

（163） 2

○ legitimate [lɪdʒítəmət] ①「合法の」②「筋の通った」

（164） 1

○ lobbyist [lɑ́ːbiɪst]「（議会への）陳情者」

（165） 2

○ locality [loʊkǽləti]「位置」

（166） 1

○ loyal [lɔ́ɪəl]「忠誠な」

（167） 1

○ lunatic [lúːnətɪk]「狂気じみた」

（168） 1

○ luxury [lʌ́gʒəri]「ぜいたく」

m

（169） 2

○ machinery [məʃíːnəri] ①「機械類」②「装置」

（170） 1

○ magnet [mǽgnət]「磁石」

（171） 1

○ maintenance [méɪntənəns]「維持」

（172） 1

○ majesty [mǽdʒesti]「威厳」

（173） 4

○ manipulation [mənìpjəléɪʃən]「巧みな扱い」

（174） 1

○ manuscript [mǽnjəskrìpt] ①「原稿」②「写本」

（175） 2

○ maturity [mət(j)ʊ́ərəti] ①「成熟」②「満期」

（176） 1

○ measure [mézə*r*]「～を測る」

(177) 1

○ melancholy [mélənkù:li]「憂鬱(ゆううつ)」

(178) 3

○ memorandum [mèmərǽndəm] ①「備忘録」②「(組合の) 規約」

(179) 1

○ merchant [mə́:rtʃənt] ①「商人」②「小売商人」

(180) 1

○ messenger [mésəndʒər]「使者」

(181) 3

○ ministerial [mìnəstíəriəl] ①「大臣の」②「政府の」

(182) 1

○ monetary [mə́:nətèri] ①「通貨の」②「金銭上の」

(183) 1

○ monologue [mə́:nəlɔ̀(:)g]「独白」

(184) 2

○ monopolize [mənə́:pəlàɪz]「～の独占権を得る」

(185) 2

○ mythology [mɪθə́:lədʒi] ①「神話」②「神話集」

n

(186) 1

○ NATO [néɪtoʊ] = North Atlantic Treaty Organization「北大西洋条約機構」

(187) 1

○ nourish [nə́:rɪʃ] ①「～を養う」②「～ (＝望み・怒り・恨み) を抱く」

o

(188) 2

○ obedient [oʊbí:dənt]「従順な」

(189) 1

○ obstacle [ɑ́:bstəkl]「障害物」

(190) 1

○ olive [ɑ́:lɪv] ①「オリーブの木」②「オリーブの実」

(191) 1

○ OPEC [óʊpek] = Organization of Petroleum Exporting Countries

(192) 2

○ opponent [əpóʊnənt]「(勝負・議論などの) 相手」

(193) 2

○ oppose [əpóʊz] ①「～に反対する」②「反対する」

(194) 2

○ oppression [əpréʃən] ①「圧迫」②「憂鬱(ゆううつ)」

(195) 1

○ orthodox [ɔ́:rθədù:ks] ①「正統的な」②「正統派の」

(196) 1

○ oven [ʌ́vn]「オーブン」

(197) 3

○ overturn [òʊvərtə́:rn] ①「～をくつがえす」②「～を打倒する」③「ひっくり返る」

(198) 3

○ overwhelm [òʊvərwélm] ①「～を圧倒する」②「～を参らせる」

(199) 1

○ oxygen [ɑ́:ksɪdʒən]「酸素」

p

(200) 1

○ parliament [pɑ́:rləmənt]「議会」

(201) 2

○ particularly [pərtíkjələrli] ①「特に」②「詳しく」

(202) 3

○ patriotic [pèɪtriɑ́:tɪk]「愛国的な」

(203) 1

○ pattern [pǽtərn] ①「模様」②「(事件・行動の) 型」③「模範」

(204) 2

○ peculiar [pɪkjú:ljər] ①「妙な」②「独特の」③「特殊な」

(205) 2

○ percentage [pərséntɪdʒ] ①「百分率」②「部分」③「手数料」

(206) 2

○ perpetually [pərpétʃuəli] ①「絶え間なく」②「永久に」

(207) 3

○ personnel [pə̀:rsənél] ①「人員」②「職員」

(208) 2

○ perspective [pərspéktɪv] ①「つりあいの取れた見方」②「遠近画法」

(209) 2

○ petroleum [pətróʊliəm]「石油」

(210) 2

○ phenomenon [fɪnɑ́:mənɑ̀:n] ①「現象」②「驚くべき人〔物〕」

(211) 1

○ portrait [pɔ́:rtrət]「肖像画」

(212) 1

○ postage [póʊstɪdʒ]「郵便料金」

(213) 1

○ preface [préfəs]「序文」

(214) 1

○ primitive [prímətɪv] ①「原始の」②「原始的な」

(215) 3

○ probability [prὰːbəbíləti] ①「見込み」②「起こりそうな事柄」

(216) 2

○ proclaim [proʊkléɪm] ①「宣言する」②「～を示している」

(217) 2

○ progressive [prəgrésɪv] ①「前進する」②「進歩的な」

(218) 3

○ prohibition [prὸʊəbíʃən] ①「(規則・法律による) 禁止」②「禁止命令」

(219) 1

○ prominent [prά:mənənt] ①「突き出ている」②「卓越した」

(220) 2

○ promote [prəmóʊt] ①「～を昇進させる」②「～を促進する」

(221) 1

○ pronoun [próʊnaʊn]「代名詞」

(222) 3

○ proposition [prὰːpəzíʃən] ①「提案」②「陳述」

(223) 2

○ protectionism [prətékʃənìzm] ①「保護貿易主義」②「保護政策」

r

(224) 1

○ raisin [réɪzn]「ほしぶどう」

(225) 2

○ reality [riǽləti] ①「現実性」②「現実」③「現実味」

(226) 2

○ recession [rɪséʃən] ①「(景気の) 一時的な後退」②「くぼみ」

(227) 2

○ recipient [rɪsípiənt]「受納者」

(228) 1

○ reckon [rékən]「推測する」

(229) 1

○ reconcile [rékənsàɪl] ①「～を仲直りさせる」②「～と調和させる」

(230) 1

○ rectangle [réktæŋgl]「長方形」

(231) 2

○ redundant [rɪdʌ́ndənt] ①「余分の」②「たくさんの」

(232) 2

○ refinery [rɪfáɪnəri]「精製所」

(233) 2

○ relate [rɪléɪt] ①「～を関係させる」②「～を血縁関係で結びつける」③「関係がある」

(234) 2

○ related [rɪléɪtɪd] ①「関係のある」②「親類の」

(235) 2

○ relation [rɪléɪʃən] ①「関係」②「利害関係」③「親類」

(236) 1

○ relative [rélətɪv] ①「相対的な」②「身内」

(237) 3

○ reputation [rèpjətéɪʃən] ①「評判」②「名声」

(238) 2

○ resign [rɪzáɪn] ①「辞職する」②「(仕事を) やめる」③「(希望を) 捨てる」

s

(239) 2

○ security [sɪkjúərəti] ①「防衛」②「安全」③「警備部門」

(240) 2

○ semester [səméstər]「(2学期制の) 学期」

(241) 2

○ seniority [siːnjɔ́ːrəti] ①「年上」②「年功序列」

(242) 1

○ sequence [síːkwəns] ①「順序」②「続いて起こるもの」

(243) 3

○ silhouette [sìluét] ①「影絵」②「輪郭」③「～をシルエットで見せる」

(244) 1

○ sinister [sínəstər] ①「不吉な」②「悪意のある」

(245) 1

○ sober [sóʊbər] ①「酒に酔っていない」②「冷静な」

(246) 2

○ society [səsáɪəti] ①「社会」②「協会」③「交際」

(247) 2

○ solicitor [səlísətər]「法務官」

(248) 3

○ solidarity [sùːlədérəti]「結束」

(249) 1

○ southern [sʌ́ðərn] ①「南の」②《米》「南部の」

(250) 1

○ sovereign [sɑ́ːvərən]「主権者」

(251) 2

○ specific [spəsífɪk] ①「特定の」②「明確な」

(252) 2

○ spectacular [spektǽkjələr]「豪華な」

(253) 1

○ speculative [spékjəlèɪtɪv] ①「推測の」②「(人が) 思索的な」

(254) 2

○ strategic [strətíːdʒɪk]「戦略上の」

(255) 1

○ stubborn [stʌ́bərn]「頑固な」

(256) 2

○ submission [səbmíʃən] ①「服従」②「柔和」③「提示」

(257) 1

○ substitute [sʌ́bstət(j)ùːt] ①「…の代わりに～を使う」②「代用品」③「代理人」

(258) 3

○ superficial [sùːpərfíʃəl] ①「表面的な」②「表面の」

(259) 2

○ suspense [səspéns]「はらはらした気持ち」

t

(260) 2

○ technique [tekníːk]「技術」

(261) 2

○ technology [teknɑ́ːlədʒi]「科学技術」

(262) 1

○ temperature [témpərtʃər] ①「温度」②「体温」

(263) 1

○ tolerable [tɑ́ːlərəbl] ①「我慢のできる」②「かなりの」

u

(264) 1

○ ultimate [ʌ́ltəmət] ①「最後の」②「根本的な」

(265) 2

○ unanimous [ju(ː)nǽnəməs]「満場一致の」

(266) 3

○ understand [ʌ̀ndərstǽnd] ①「～を理解する」②「～と推察する」③「理解する」

(267) 3

○ unemployment [ʌ̀nɪmplɔ́ɪmənt] ①「失業」②「失業率」

(268) 2

○ UNESCO [ju(ː)néskoʊ]「ユネスコ」= the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization

(269) 1

○ UNICEF [júːnəsèf]「ユニセフ」

= United Nations International Children's Emergency Fund

(270) 1

○ urgent [ə́:rdʒənt] ①「緊急の」②「しきりに催促をする」

(271) 1

○ utterly [ʌ́tərli] ①「まったく」②「(否定文で) まったく…であるというわけではない」

v

(272) 1

○ vacancy [véɪkənsi] ①「空いたところ」②「空席」

(273) 1

○ Vatican [vǽtɪkən] ①「バチカン宮殿」②「ローマ法王庁」

(274) 1

○ vicious [víʃəs] ①「悪意のある」②「ひどい」

(275) 2

○ victorious [vɪktɔ́:riəs] ①「勝利を得た」②「勝利の」

(276) 1

○ violence [váɪələns] ①「暴力」②「激しさ」

(277) 3

○ violin [vàɪəlín]「バイオリン」

(278) 1

○ vowel [váʊəl]「母音」

w

(279) 1

○ wholly [hóʊ(l)li] ①「すっかり」②「(否定文で) まったく…というわけではない」

【6】

解答

例1　A new year's resolution is a traditional custom of announcing one's commitment, decision or goals for the new year. My new year's resolution is to do well in the coming entrance examinations and get into my first-choice university. To achieve this I will keep on studying as hard as possible. I do not like English very much, and tend to avoid studying it. However, now I need to face it, and make an effort to improve my English. Though I have little time left until the examinations, I will make the most of the time. (94 語)

例2　A new year's resolution is a decision you make for the new year. For example, you may want to take on new challenges or to get rid of bad habits. I will get rid of my habit of sleeping late in the morning. In order to do this I will stop using the Internet late in the evening and go to bed earlier. I will start studying as soon as possible after dinner and spend my evening hours more efficiently. Keeping regular hours is necessary for success in entrance examinations, which start early in the morning. (96語)

例３　In Japan people often set their goals for the new year on New Year's Day. This is called a new year's resolution. For example, you may want to take up a new challenge, say good-bye to a bad habit or become better at something that you have already been doing. I would like to be a better baseball player this year. Since last summer I have not really played baseball because we seniors have stopped participating in club activities in order to concentrate on preparing for entrance examinations. I will join the baseball team in university, and practice hard to improve my batting skills.（104 語）

解説

＜テーマの考え方＞

「新年の抱負」の定義をまず書く。「定義」と言うと，A new year's resolution is ～．や，A new year's resolution means ～．のような形で書き出すことが多いが，書きにくい場合には，「**例３**」のように具体的に説明する形で書き出すこともできる。次に，その定義からはずれないように，自分自身の抱負を書く。「自分は…する」という決意を書いてから，その目的や理由を書くことで肉付けをしていく。限られた語数で書かなければならないので，１つの抱負について掘り下げて書き，段落としてまとめよう。

「**解答**」の訳は以下の通り。

例１　新年の抱負とは，新年への自分の誓い，決心，目標を発表する伝統的な慣習である。私の新年の抱負は，来たる入学試験でよい成績をおさめ，第一志望の大学に入ることだ。これを成し遂げるために，私はできるだけ一生懸命に勉強し続けるつもりだ。英語はあまり好きではなく，勉強することを避けがちだ。しかし，今，私はそれに向き合い，英語の力をもっとつけるために努力をする必要がある。試験までに残された時間はほとんどないが，その時間を最大限に使うつもりだ。

例２　新年の抱負とは，新年にする決意のことだ。例えば，新しいことに挑戦したり，悪い習慣を断ったりしたいと考えるかもしれない。私は朝寝坊の習慣をやめようと思っている。そうするために，夜遅くにインターネットを使うのをやめ，もっと早く寝るようにしようと思う。夕食の後，できるだけすぐに勉強を始めて，夜の時間をもっと効率的に使うようにする。朝早く始まる入学試験で成功するためには，規則正しい生活をすることが必要だ。

例３　日本では，人々はよく元旦に，新年にむけての目標を立てる。これが新年の抱負と呼ばれるものである。例えば，新しいことに挑戦したり，悪い習慣に別れを告げたり，すでにやっていることを，もっと上手にできるようにする，といったようなことをしたいと考えるかもしれない。私は，今年，野球がもっとうまくなりたい。昨年の夏以降，あまり野球をしていない。なぜなら入試の準備に専念するために，我々高３生はクラブ活動に参加することをやめてしまったからだ。大学で野球部に入り，バッティングの技術を上達させるために，一生懸命練習するつもりだ。

＜使える語句・表現＞

「新年の抱負」を定義する際に使えそうなもの：

○「慣習」custom

○「誓い」commitment

○「約束」promise

○「…すると約束する」promise to …
○「決意」decision
○「目標を立てる」set a〔*one*'s〕goal
「自分自身の抱負」を書く際に使えそうなもの：
○「努力する」make an effort
○「新しいことに挑戦する」take up〔on〕a new challenge
○「～を上達させる」improve ～
○「入学試験」an entrance examination
○「入試に合格する」pass the entrance examination

【7】

解答・解説

（1） worry about ◆807
○ worry about；be worried about ～「～のことで心配する」
（2） Translate, into ◆808
○ translate ～ into …「～を…に翻訳する」
（3） prone to ◆812
○ be prone to …（≒ be liable to …）「…する傾向にある」
（4） for good〔ever〕 ◆827
○ for good〔ever〕「永久に」
（5） in a ◆832
○ in a way〔sense〕「ある点〔意味〕で」
（6） in, detail ◆833
○ in detail「詳しく；詳細に」
（7） in need ◆835
○ in need「困った時に；まさかの時に」
（8） at random ◆837
○ at random「手当たり次第に；でたらめに」
（9） As usual ◆838
○ as usual「いつものように」
（10） adhere to ◆847
○ adhere to「～にくっつく；～に固執する」
（11） glanced at ◆853
○ glance at ～「～をちらっと見る」
（12） burned down ◆889
○ burn down「全焼する；燃え尽きる」
（13） cleared up ◆891
○ clear up「晴れ渡る」

(14) settled down ◆895

○ settle down「落ち着く；固まる；静まる」

(15) give，a ride〔lift〕 ◆913

○ give ～ a ride〔lift〕「～を（車に）乗せてやる」

(16) confident of ◆924

○ be confident of ～「～を確信している」

(17) noted for ◆930

○ be noted for ～「～で有名である」

(18) appropreate to〔for〕 ◆933

○ be appropreate to〔for〕～「～にふさわしい」

(19) at the，thought of ◆937

○ at the thought of ～「～を考えて」

(20) to your advantage ◆971

○ to *one*'s advantage「～（人）の利益になる」